

第一節 典禮

典禮ガ行政上ノ要務タルハ支那行政ノ特質ニシテ、以テ支那ノ道德的國家萬能主義ナルヲ徵ス可キモノタリ、典禮ノ起源ハ古クシテ遠シ、而モ依テ以テ後昆ノ模範トナリシハ周ニアリ、周ハ禮樂ヲ以テ政治ノ要訣トシ、經禮三百、典禮三千、繁文苛細ニシテ人智ヲ束縛スルヲ甚シク、天下ノ民ヲシテ柔順和平ノ風ニ嫻ヒ、孝悌忠信ノ氣ヲ養ヒ以テ所謂周文ノ民ヲナシ得タリ、孔子又タ仁義ヲ説キ周禮ヲ祖述シ、而シテ秦漢ヨリ以後列世皆ナ之ヲ襲ヒ人民モ亦タ二千年來之ヲ遵奉固守シ、其保守ノ狀奇トス可キモノアリ、試ニ今日ニ於ケル支那人ヲ見ヨ古典虛式ニ拘泥シ、體面ヲ重シ權利ニアラズ社會上習慣ノ體面ヲ云フ習慣ヲ改メザルノ民ナリ、政治的權利ノ思想ナク政府官吏ノ威權ニ甘從スルノ民ナリ、迷信ニ浸染シテ解悟スルヲ能ハザルノ民ナリ、文弱ニ流レテ尙武ノ氣地ヲ掃フノ民ナリ、思フニ之等ノ諸

弊ハ典禮若クハ學制ニヨリテ馴致セラレタルモノニアラザル乎、國家萬能主義ノ列代國家ハ典禮ヲ制シテ一國人民ヲ鑄造シ依ツテ以テ此諸弊ヲ來セシモノニアラザル乎、又試ニ支那典禮ヲ案ズルニ冠婚葬祭ノ人事的儀式ヨリ、以テ祖先祭祀ノ宗教的式典ニ及ビ、行香祭祀ノ宗教的信仰ヨリ以テ祈禱立廟ノ公典ニ及ビ、鄉飲酒鄉約ノ社交的禮式ヨリ以テ旌表褒賞ノ行政的恤典ニ及ビ、長幼有序ノ私式ヨリ以テ敬賀迎接ノ公式ニ及ブ、一禮一律、細ニ公法上ノ制裁ヲ附シ斯民ヲシテ必ラズ禮義的人民ト成ラズンバ已マザラシム斯民ヲ陶冶セル亦タ密ナリト云フ可シ、然レモ亦タ人民ノ宗教的迷信、實利的習慣及ビ儒教ノ宗教的方面ノ教義ハ萬能主義ト彼此因果ノ關係ヲナシ、兩々相助ケテ典例ヲ成立セシメタルノ狀ナキニアラズ例ヘバ厲鬼、土地、山川、風雨、雷電、社稷ノ信仰典禮ハ如何ニ支那人ガ幼稚ナル多神教ニ隨喜スルモノナルヲ證セザル乎、三魂ノ說五行ノ理ハ彼レ等

ガ神學ニアラザル乎、儒教ノ宗教的方面ノ教義ハ祭祀ナリ典禮ナリ、其慎終追遠ト云フハ孝道ノ要旨ニシテ祭祀ノ發端ナリ、之レガ爲ニ偶像位牌ヲ製シテ神位トナシ、禮拜セルノ風ヲ開キシガ、又タ彼等ガ實利的ノ習俗ハ以上ノ神教三魂五行論祭祀說ヲ化シテ福田利益ヲ祈ルノ習ヲ開キ、神籤卜筮ニヨリテ其運命ヲトスルノ風ヲ爲サシメタリ、見ル可シ、支那人ノ習慣及教義ハ國家萬能主義ト因縁シテ二千年來保守典禮的ノ人民ヲ馴致スルニ至リタルヲ、

斯クノ如ク、典例ハ諸般ノ原因ニヨリ種々ノ區域ニ涉レテ、其行政上ノ典章トナレルモノハ、分類シテ公式的典禮(拜賀)、迎接、祈請的典禮(迎春、藉田、五稷、火神、旗纛、城隍、天后諸廟、及ビ日月救護、祭祀的典禮(祠廟祭祀)社交的典禮(鄉約、鄉飲酒、旌表)トナスヲ得可シ、

第一項公式典禮

公式的典例ハ、帝室ニ對シテ尊敬ヲ表スルノ主旨ニ基ク、萬壽聖節及接詔式之レナリ、

一 萬壽聖節ハ五月元且及ヒ冬至ニ遇ヘバ、文武各官ハ齋沐シテ所屬官ヲ率ヒ龍亭ニ赴ムキ、皇帝ガ萬壽龍牌ヲ亭南ニ設ケ慶賀ヲ行フ、乃チ詔書至ル毎ニ文武官ハ郊迎シ龍亭中ニ就テ迎詔シ、而ル後各衙門ニ送り頒布ス、

第二項祈請的典禮

祈請的典禮ハ宗教的觀念ニ基キ五穀豐穰、陰鬼鎮靜、陰陽得時ヲ祈ルモノニシテ、迎春籍田式、五稷、城隍廟、火神廟、軍旗、天后廟、祭祀、及日月救護是レ也

(一) 迎春トハ、土牛芒神ヲ祭リテ春ヲ迎フルヲ云ヒ、芒神土牛トハ共ニ泥土ヲ以テ作りタル像ニシテ、芒神ハ其衣服耳目ヲ農時ニ象ドリテ作り其時ノ木火土金水ノ色ヲ以テ象トル同シク土ニテ作レル土牛ニマタガリ、之ヲ鞭ツノ形ヲ爲セルモノ

ナリ、立春日ニ至レバ各官之ヲ東郊ニ迎ヘ、次デ衙門ニ奉シ牲醴ヲ備ヘテ拜賀ノ式ヲ行フ、蓋シ重農的思想ノ宗教觀念ト湊合シテ以テ此式ヲ制シタルニ外ナラズ、其牛ヲ用ヒタルハ牛ノ農耕ニ必用ナルガ爲ニシテ、支那人ガ其肉食ヲ好ムニ拘ラズ牛ヲ食セザルノ習俗ヲ見テモ其一斑ヲ知ル可ク、必竟芒神ヲシテ牛ヲ鞭チ其農時ヲ示スノ意ニ出テタルナリ

(一) 籍田壇位、ハ各府縣毎ニ先農壇トテ、神農ノ像ヲ作り、之ニ附屬スルニ沃土若干畝ヲ以テス、歲ノ中春或ハ季春、先農ノ日ヲ以テ、各官通贊生及農夫ノ先導ヲ以テ祭祀ヲ行フヲ云フ、是レ亦タ重農的思想ト宗教觀念トノ湊合ニ基ケリ、
(一) 祭社稷、各府縣皆社稷壇ヲ設ケ五穀神位ヲ祀ルモノニシテ、春秋仲月上戊日、各官祭祀ヲ行フ、五穀農饌ヲ祀ルノ意ニ出ツ、

(一) 厲祭(城隍廟祭)、城隍ニ厲鬼ノ靈位ヲ設ケ祭祀スルモノニシ

テ、春秋鄭ノ子産ガ祭鬼ニ權輿セリ、則チ幽冥ノ神ニシテ我城守神ト同ジキモノナリ、地方官衙ノ存スル所必ラズ之ヲ設立シ地方官在位ノ始メ就テ靈ニ告グ、凡ソ吉凶アレバ必ラズ之ヲ祭り、之ヲ見ルト恰モ冥界ノ行政官タルガ如シ、人民モ亦タ甚ヘダ之ヲ信シ土地ノ守護トナス、三月寒食ノ節、七月望日、十月望日、之レガ祭典ヲ施行ス、

(一) 風雨壇ハ風雨ノ順節ヲ得ルガ爲メ其神位ヲ設ケ之レヲ祭ル、

(一) 雷電壇、前項ニ同ジ、
(一) 山川壇、前項ニ同ジ、

以上五壇ハ五稷壇ト云フ迷信ニ基キテ偶像的禮拜ヲ爲セルモノニ外ナラズ、殊ニ厲壇ハ尤モ信仰セラレ、支那人ノ魂魄說ニヨレバ、陰鬼ノ血食セザルトキハ餓ヘテ陽間ノ累ヲ爲スモノナルガ故ニ之レヲ祀リ靜シメ且ツ冥福ヲ祈ルト云フニ在

リ、
 (一) 火神廟ハ、火神ノ神位ヲ祭り、火患ヲ弭メ以テ閭里ヲ安ンズルノ神トナス、又タ福利ヲ祈ルガ爲メナリ、蓋シ火ハ猛烈ナル勢力アルヲ以テ之ヲ拜崇スルノ迷信ニ基キタルモノカ、其兵員ガ殊ニ之ヲ祭祀拜尙スルハ、其發炮施鎗ノ一ニ火神ノ保庇ニヨルトナスノ迷信ニ出ヅ、

(一) 祭旗懸ハ、綠營兵ガ旗ヲ祭ルモノニシテ、是レ軍事の觀念ト宗教的觀念トノ湊合ニヨレリ、

(一) 天后廟ハ、道子教ニ屬スル廟ニシテ、宋代ノ女子林氏ヲ祭ルモノ、天上聖母之レナリ、渡海ノ危險ヲ保護スルト云フ、一ニ媽祖宮ト名ケ、臺灣各地ニ在リテ甚ハダ尊崇セラル、是レ渡臺ニ海波ノ險ヲ經ルヲ要スルガ故ナラン、地方官ノ祭祀スル所タリ、

(一) 救護日月ハ日月ノ食ヲ救護スルノ主意ニシテ日月ノ食スル

ハ天意ノ人間ヲ戒シメ、政治ノ不徳ヲ警シムルモノナリ、乃チ之ヲ畏敬シテ其食ノ救護ヲ行ハンガ爲ニ、北京ニ在リテハ天子自ラ祈リ、地方ニアリテ地方官各官ヲ率ヒ龍主廟ニ於テ發炮鳴鑼シテ之ヲ救護スト云フ、尙ホ日ハ帝王ニシテ、月ハ臣ナリトナシ、其食スルハ天警ヲ垂ル、モノナルヲ以テ自ラ戒シメンガ爲ニ救護接補ノ式ヲ行フナリトノ説アリ、

第三項祭祀的典禮

祭祀的典禮ハ、文武賢聖功臣ヲ神位トシ之ヲ祭ルモノニシテ血食ヲ供ヘ功德ヲ尙ビ、且ツ世道人心ヲシテ歸向模範タラシムルニ在リ儒教ノ宗教的方面ノ思想ト道德人心ヲ維持セントスル典禮政略ニ胚胎セルモノナリ、

(一) 文昌官ハ、天ノ文運ヲ司ドル所ノ星アリトナシ、之ヲ神位トシタルモノナリ、各府縣學宮内ニ之ヲ併祀ス、考科試業ノ

神トシテ讀書人ノ歸向祀祭スル所ナリ、

(一) 文廟へ、孔子ヲ主トシ、孟子、子思、孔門弟子七十二人、其他列世ノ學者賢人ヲ祭祀スルモノナリ、之ヲ學宮ト云フ、其祀典ヲ釋尊ト云フ、各府縣必ラズ之ヲ公立シ奉祀ス、學制ノ根本トナルモノナリ、

(一) 崇聖祠へ、學宮内ニ合祀セラル、孔子ノ先世五代ヲ祭祀スルモノナリ、

(一) 名宦祠へ、同シク學宮内ニ合祀ス、臺灣創業ノ功臣及ビ朱亂鎮定ノ功臣ヲ祭祀スルモノナリ、則チ福建總督範承謨、全姚啓聖、水師提督施琅、臺灣知府蔣英、廣東分巡高廉羅道、臺灣知府斬治揚、臺灣道臺陳瓊、海防同知洪一棟、水師提督施世驍、總兵藍廷珍、道臺陳大麓ノ神位是レ也、

(一) 鄉賢祠、ハ臺地鄉賢ヲ神位トシ學宮内ニ祀ル、

(一) 武廟へ、文廟ト共ニ支那典禮ニ於ケル重要ナル祀廟ナリ、

關羽ヲ祭ルモノニシテ、其武勇忠義人臣ノ模範タルト、且ツ史傳上ニ於テ關羽ノ死靈呂蒙以下ヲ狂死セシメシ迷信談ニ厝胎スルモノ、如シ、各府縣必ラズ之ヲ公立スルヲ文廟ニ同シク、其職制式典ハ文廟ニ繼ギテ儼ナルモノナリ、二月八日ノ丁日文廟ト共ニ其祭典ヲ施行シ、文武百官式ニ列シテ、叩頭九跪拜禮ノ式ヲ行フ、其餘民間ニ於テモ隨喜仰向スルモノ多ク、之ヲ諸廟ニ合祀シテ福田ヲ祈レリ、其餘名宦祠奉祀ノ功臣ヲ特別ニ祠廟トナセルモノアリ、施將軍廟吳將軍廟ノ如シ、

第四項社會的典禮

社會的典禮へ、聖諭捧讀ノ式典(鄉約)、鄉窮酒及旌表事例是レナリ、共ニ社會ノ秩序ヲ維持シ道德ヲ養成スルノ意ニ出デ周禮ニ基キタルモノナリ、

(一) 聖諭捧讀ノ式(鄉約)へ聖諭中、世祖順治帝ノ臥碑文、訓飭士

子文ヲ順治九年ニ頒布シ、同十六年捧讀ノ式ヲ施行シ、聖祖
 (康熙帝)ノ十六條勅語ハ康熙九年ニ頒布シ、二十五年ニ舉行シ
 世宗十六條演義ハ雍正元年ニ頒布シ、同九年ニ舉行ス、順治
 帝聖諭ハ教育勅語ト云フ可ク、康熙帝ノ勅語及ビ世宗ノ演義
 ハ政治及道德戒飾ノ勅語ト認メラル可シ、
 月ノ朔望、各府縣下ニ於テ其地方ノ中央地ヲ撰ラビ、普テク
 所轄内ノ文武兵員及ビ四民ヲ會集シ、老成着一人ヲ以テ其約
 長トナシ、老實者三人ヲ副ヘ講演者トナシ、該聖諭ヲ宣講セ
 シムルノ例ナリ、蓋シ官民ヲ戒飾シ社會ノ秩序ヲ保タントス
 ルノ意ニ出デタリト雖也、各地共等シク空名ニ屬シ、每次之
 ヲ朗讀シ禮拜シテ式ヲ終ルト云フ、
 (一) 鄉飲酒ハ、周禮ニ基キ長幼ノ序ヲ明カニシ賓主ノ禮ヲ習ハ
 スト云フニ在リ、禮記ニ揖讓洗拜ヲ記セルハ之ガ權與トス、
 特ニ孔子ガ吾觀於鄉而知王道之易々也ト云フニ至リテ、後世

旌表事例

儒教ノ行ハル、ト共ニユノ式典ヲ製フテ千古渝ラサルモノト
 セリ、清國ニ在ツテハ順治ノ初ニ於テ已ニ此制ヲ定メ、各府
 縣共二月十五日十一月元日ヲ以テ舉行スルモノニシテ、地方
 官主トナリ郷紳ノ年老者ヲ賓トシ、教官ヲ以テ司禮者トシ、
 樂ヲ彈シ詩ヲ歌ヒ、司禮者忠孝慈悌ノ要旨文ヲ讀ミ、次テ主
 賓献酬ノ禮ヲ爲スモノナリ、
 (一) 旌表ハ、倫常ヲ獎勵シ隱德ヲ開發スルノ義ニ基ク、節婦貞
 女、殉難官民、名宦鄉賢、樂善好施、累世同居、耆壽同室、
 產三男ヲ旌表スルモノトシ、祠廟ヲ建ツルノ外名宦鄉賢ハ學
 宮ニ合祀ス(前章參觀)、門ヲ建テ額ヲ賜ヒ、旌表スルヲ云フ、
 其一二例ヲ舉クレハ左ノ如シ
 (甲) 節婦貞女建防例ハ、妻妾ヲ論ンゼス、三十歳ヨリ五十歳マ
 デ節ヲ守リテ人婦トナリ死シタルモノ、強姦ニ從ハズシテ死
 シタルモノ、強姦セラレテ自盡セシモノ、夫ニ賣節ヲ迫ラレ

テ自盡スルモノ、童女ガ婿夫ノ調姦ヲ拒キテ死スルモノ、親ニ嫁ヲ逼マラレテ死スルモノ、舅姑ノ逼勤ニヨリテ死スルモノ、婢尼ノ拒姦シテ死スルモノ、孝子股ヲ割キ父母ニ食セシムルモノ、夫死シテ殉スルノ婦等アラバ、地方官ハ之ヲ督撫學政使ニ上申シ、其檢定ヲ經テ更ラニ禮部ニ申達シ、其准ヲ得、三十兩ノ費ヲ投シテ門ヲ街路ニ立テ且ツ御賜ノ賞額ヲ門戸ニ旌表シ、又別ニ節婦貞女祠ヲ設立シテ之ニ合祀ス是レ支那道德ノ性質ヲ視フ可ク、將タ之レカ裏面ノ汚穢ナル習俗ノ反證トス可キモノナリ、

(乙)樂善好施建坊例ハ、孤貧ヲ養恤スルモノ、資ヲ損テ、縁族ヲ瞻護スルモノ、荒歉ヲ救助スルモノ、公衙若ク道路橋梁ヲ修築スルモノ、義塚ヲ建ツルモノヲ賞與スルモノニシテ、其捐金千兩以上ニ及ブモノハ上奏建坊シ、千兩以下ハ賞額ス、

(一)累世同居建坊例ハ、累世同居和睦ニシテ間隙ナキモノニ、

建坊、賞額詩章ヲ給セラル、

(丙)百年耆壽五世ニ及ビ又同堂親ノ七八代ナル坊扁例ハ年壽者ヲ賞スルノ典ナリ、賞額、詩章、絹且ツ官位ヲ下賜セラル、

(丁)一男三男ハ、米五石布十疋ヲ給ス、

第五項國初祠廟

臺灣府屬内社稷壇、風雲、雷雨、山川壇ヲ永康里ニ建設シ、先農壇、郡屬壇ヲ北門外ニ建テ、文廟、崇聖廟ノ名官鄉賢祠、朱文公廟、開帝廟ヲ建設ス、

臺灣縣屬内、文廟(郡城東安坊ニ在リ)、崇聖廟、官廟、鄉賢廟等學官内ニ在リ、別ニ忠孝、孝悌祠、烈女節婦祠ヲ建設シ五壇ハ、臺灣府ノ設立ニヨリ別ニ設立セス、

諸羅縣及ヒ鳳山縣ハ、五壇設立ノ外臺灣縣ト同シ、

附宗教

支那ハ古來信仰上ニ於テ一定ノ法ヲ設ケテ宗教ヲ制限スルコト

ナケレバ、其君主萬能主義タルヲ以テ、帝王ノ信仰上又ハ其政略ノ如何ニヨリテ制限ヲ設クルヲ數々アリ、且ツ典禮及ビ學制ニ説クカ如ク、則チ國典トシテハ儒教ヲ採用シ、併ニ多神教ノ一節(五稷壇等)ヲ認承セリ、故ニ概言スレハ國教主義ニ屬シ、宗教ノ自由ヲ認メス、政教ノ分離ヲ欠クモノト云フ可シト雖モ儒教ハ其一方祭祀ノ點ニ於テ宗教ノ姿アルノミナラズ、其實利的支那人ノ爲ニ福田利益ヲ邀フルノ具ニ利用セラレテ宗教ノ形ヲ爲スニ係ラス、他ノ一面ニ於テ論理ノ學政治ノ學ヲ兼ヌルヲ以テ、未タ宗教トシテ普ネク人民ノ信仰ヲ博スルニ足ラズ、是ニ於テ行政上常ニ儒教ノ祭祀主義ヲ獎勵シ、之ヲ王教ノ正ト云ヒ、本ニ報シ始ニ返ヘルノ義ニ從ヒ、終リテ慎ミ遠キヲ追フノ旨ニ從フ可キヲ以テシ、他ノ淫祀ヲ禁シ邪教ヲ嚴ニシ、或ハ祀ヲ毀テ、或ハ保甲制度ニヨリテ信仰ノ保證ヲ明カニセシメ、殊ニ乾隆帝ノ如キニ至リテハ(其三

十年)、僧侶ノ人ヲ度シ徒弟トスルヲ禁ジ、衆ヲ集メ感化スルヲ禁ジタレバ、支那人ノ迷信ト實利的觀念ノ宗教的嗜好ハ之ヲ禁スルニ由シナカリシ、例ヘバ淫祀ヲ毀ツ可シト云フト雖モ、尙ホ祖先、先農、八蜡(風雨祭)、五稷(五壇)ノ神ニシテ、衣食居處ニ關ヘルモノハ、祭祀シテ禁ゼザルカ如キ矛盾ノ甚シキモノナリ、蓋シ支那ニ在リテハ科學ノ發達ナク、而シテ儒教ノ天命主義詳カナラズ、隨ツテ其天與ノ迷信ヲ解クニ由シナク、且ツ實利的一方ニ發達シタル支那人ハ森羅萬物ヲ以テ福田ヲ邀フルノ具トナスノ嗜好アリ、此信仰上自由ノ精神ト嗜好トハ、行政者ノ制シ得可キ所ニアラザルガ故ニ、國典ニ於テ或ハ社會上ニ於テ儒教ハ典型ノ礎タリト雖モ、之ト同時ニ道佛、喇嘛、回教、耶教ハ等シク信仰セラル、而モ其信仰甚ハダ純白ナラズ、神佛一個ノ寺廟中ニ合祀セラレ、實利的人民ノ渴仰隨喜セルニ任カセヌ、臺灣ニ在テハ特ニ然リ、試

ミニ其寺院ヲ見ヨ、關帝ノ傍ラ媽祖ノ像アリ、觀王ノ像亦タ坐ニ連ナル、三者雜糅トシテ何レヲ主トスルヤヲ分チ難シ、就中臺灣土民ノ信仰厚キ者ハ關帝廟、城隍廟、天公廟、媽祖廟、諸觀王五壇神ニシテ、灶君、床神、茶神、煙神、針神、金神、銀神、浪神、龍神、王神、南北方神、青神、時神、五通神等ノ如キ無數ノ多神ハ悉ク隨喜セラレ、日ニ吉凶アリ、所ニ忌憚アリ、香ヲ燒キ紙ヲ焚シ、犧牲ヲ供シ紙燭紙馬ヲ捧ダ、其神籤ヲ奉ジ、其卜筮ニ聞キ、迎神開熱ヲ極メ(開熱迎ト云フ)、祭費數千金ニ上ボルモノアリト云フ、尙ホ宗教ノ行政上ニ於ケル保護ハ、其典例ヲ犯シ若クハ學廟ニ不敬ヲ加フル等ハ、刑律(禮律)ニ於テ制裁シ、其典式施行ハ行政官ニ於テ局ニ當レリ、而シテ之レガ祭式等ハ凡ベテ該典禮及ビ學制ノ部ニ説クカ如シ、其他ノ宗教監督ハ凡テ自由ニ放任セリ、而シテ之レガ爲ニ匪類奸徒ガ其人民宗教迷信ノ心

ニ投ジテ反舉ヲ謀リ(朱一貴等反亂)、若クハ宗教的團體ヲ組織シテ揭旗ヲ企テタル(林爽文天地會戴萬生ノ天理會ガ如キ臺灣ニ在リテモ尙ホ清國ノ如ク宗教ヲ利用シテ反亂ヲ企ツルモノアルヲ見レバ以テ宗教ノ臺灣土民ニ入ルノ深キヲ察スルニ足ル可シ

第二節 學制

清國學制ハ支那列世ノ學制ト等シク、其道德的國家萬能主義ヲ實行シテ以テ建國ノ體ヲ擁護スルノ目的ニ出ヅ、故ニ學問講究ノ自由ハ認メラレザルノミナラズ、國家ノ陰ニ陽ニ干涉シテ定限セル所ナリ、而ルニ此干涉ヲ好ムノ國家ハ却テ其干涉ヲ價スル國家普通教育ノ要旨ヲバ忽諸ニ付シ、一般人民ヲ教化スルヲ強フルナシ、是レ學制ノ要旨偏ヘニ萬能主義ヲ實行シテ黔首ヲ愚ニシ以テ建國ノ體ヲ維持スルニ止マルガ故ナリ、故ニ教育ノ資質ヲ研ムルトキハ、德育ニ偏セズンバ則チ藝文ニ偏シ、藝

文ニアラズンバ則チ考證ニ走り、考證ニ走ラズンバ則チ性理ニ赴クモノナリ、換言スレバ學問ノ内容ハ倫理學ニアラザレバ科舉學ナリ、科舉學ニアラズンバ考證學ナリ、考證學ニアラズンバ性理學ニ止マレリ、

普通初等教育ニ於テ一般人民ノ智徳ヲ開發シ、實業教育ニ於テ實業ヲ教ヘ、學理教育ニ於テ專問學ヲ研メシムルハ支那教育ノ全ク缺ク所ナリ、支那教育ノ要旨ヲ約言スレハ單ニ教養スルニ止ルノミ、民以テ教ヘザレバ孝悌禮義ヲ知ラズ而シテ上ヲ犯シ亂ヲ作ザルナシ、民以テ養フナケレバ仰事俯首スルヲ能ハズ而シテ流離轉徙ノ憂ヲ免レ難シト、之レ支那教育ノ要旨ニアラスヤ、其道德的國家萬能主義ニ胚胎シテ其建國ノ体ヲ擁護スルノ具トナスニ在ルヲ見ル可シ、更ニ以上教育ノ方針ニヨリテ施設スル所ヲ視ヘバ左ノ如シ、

一省府縣學ヲ建テ學問ノ風尚ヲ一定シ、學則ヲ定メ行動ノ模範

トシ、此以外ニ出デザラシムルヲ、

一書院以下義塾ヲシテ又々此方針ニ從ハシムルヲ、

一科舉ノ制ヲ定メ青雲ニ上ボル唯一ノ進路トシ、經義詩賦ヲ試業ノ課目トシ、以テ天下ノ學問ヲ一定シ、以テ藝文ノ專修ヲ獎勵シ、遂ニ天下ノ英才ヲ羅致シ、其心カヲ之ニ傾致シテ無用優柔ノ讀書人ニ化セシメ、長ヘニ國家萬能主義ノ下ニ禮拜セシムルヲ、

一孔孟ノ教ヲ崇ビ異端邪說ヲ禁シ、之ヲ考證シ之ヲ研究シ之ヲ躬行スルニ止マラシムルヲ、

第一項學區學校及ビ教員

一省ヲ以テ一學區トナシ學政使之ヲ管ス、(臺灣ハ國初道臺ヲ以テ學使ヲ兼ヌ雍正五年漢御史ノ兼管ニ歸シ乾隆十二年再ビ道臺ニ歸ス)其學區内ニアル所ノ學校ニシテ、府ニアルモノヲ府學トシ、縣ニアル者ヲ縣學トス、公立ノ高等學校ナリ、

府ニ教授及訓導アリ、(臺灣ニ在リテ訓導ハ乾隆十七年間ノ添設ニ係ル)、縣ニ教諭及訓導アリ、等シク各府縣學ノ定額生員ヲ教授シ監督セリ、尙ホ府縣學ノ教授教諭ハ各其生員ヲ監督教授スルノミナラズ、鄉試ニ應ズ可キ人員ヲ報告シ、又々釋奠ノ禮ヲ周旋ス、是レ科擧及ビ文廟祭祀ガ教育ノ方針タルガ故ニ此責任ヲ有セシムルナリ、

學政使ヲ兼スルノ道臺ハ教育事項ヲ總管シ生員ノ賞罰(生員ノ刑罰ヲ犯ス時ハ學政使ニ知照スルヲ要ス生員特待ノ一例ナリ)及郷試ニ應ズ可キ人員ヲ禮部ニ上申ス、又府縣下ニ書院トテ半官半民ノ學校ヲ建ツ、其山長ハ等シク府縣官署ニテ招聘任命スルモ其學校ハ人民ノ據金ニヨリテ建設セラレ、又々據金ニヨリテ買收セル學田ノ收入ニヨリテ經費ヲ維持セラル、書院ハ童生ヲ教育シ其ノ謝禮ヲ徵ス、各府縣下各二三ノ書院アリ、各其府縣地方官長ノ直轄スル所ナリ、

又々郷莊ニ義塾ヲ建テ、塾蕃社ニ社學ヲ設ケ、共ニ半官半民ノ組織トシテ其建設維持ハ人民ノ義捐ニヨリ、其監督ハ官ニ於テ司ドルヲ書院ノ如シ、尙ホ書房トテ寺小屋ニ類スルノ私立學校アリ、民間讀書人ノ教授スル所ナリ、

第二項課程

義塾、社學、書房ハ概テ初學ヲ教授シ、其課程ハ三字經、千字文、四書、五經ノ句讀ヲ教ヘ、之ヲ器械的ニ誦讀セシメ、又同時ニ習字及ビ對句賦詩ヲ作ルヲヨリ進ンテ科擧學ノ準備ナル八股文ヲ教フ、

附記、此普通教育ガ器械的誦讀及ビ藝文ノ弊ニ流レ、徒ラニ無意義ナル文字ノ注入ニ心力ヲ傾盡セシメ、智識ノ發達ヲ害スルヲ多キハ云フ迄モナク、尙ホ一ノ弊トシテ學グ可キモノハ音讀ノ不通ナルヲ是レナリ、臺灣ニ於ケル讀書音ハ官話ト

異ルノミナラス日常用語ノ土語トハ根抵ニ於テ異レリ、是レ亦タ普通教育ニ害アルモノト云フ可シ、
 書院、府縣學ニ在リテハ童生及ヒ秀才ヲ教授スル所ナレバ、其授クル所專ラ八股文及賦詩若クハ經義ニシテ、科考ノ準備ニ在リ、尙釋奠ノ禮ヲ行ヒ併ニ學則ヲ嚴ニシ諸生ヲシテ其規矩ニ則リ敢ヘテ踰ヘザラシムルノミナラズ、制度上諸生ノ行狀ヲ監視セリ、

第三項學則

學則ハ順治帝ノ臥碑文六論、康熙帝ノ十六條聖諭、及雍正帝ノ十六條演義、乾隆帝ノ大學訓ヲ云ヒ、府縣學及ビ書院ニ於テ之レヲ規矩トナシ生員ヲシテ之レニ則ラシム、其意尙鄉約ニ於テ之レヲ鄉人ノ訓誡トナスニ同シ(乾隆帝ノ勅諭ハ本史ニ載録ス)

(甲)臥碑文ノ要旨ヲ摘約スレバ左ノ如シ、

- 一 生員ヲシテ愚魯ノ父母ヲ諫告セシムルヲ、
- 一 忠臣事蹟ヲ攻究シ利國愛民ヲ期スルヲ、
- 一 居心忠孝ニシテ正直ニ讀スルヲ、
- 一 上官ニ干求ス可ラサルヲ、
- 一 生員ハ輕々シク衙門ニ立チ入ル可ラサルヲ、已ムヲ得ザルヲアレバ家人ヲシテ代理人トナスヲ、他人ノ詞訟ニ干與スルヲ許サズ、他人モ生員ヲ牽連シテ證トナスヲ得ザルヲ、
- 一 教師ニ向ツテ辯難ス可ラス、誠心聽受スベキヲ、
- 一 軍務民政ニ就テ一切ノ利病ヲ上書陳言スルヲ許サズ、若シ一言建白シテ制ニ違フアラバ黜革シテ治罪ス、
- 一 生員ハ結社立黨ヲ准サズ、又タ官文書ヲ刊刻スルヲ許サズ、違フモノハ處罰ス、

(乙)次ニ聖諭十六條ヲ擧グレバ左ノ如シ、

敦孝弟以重人倫、篤宗族以昭雍睦、和鄉黨以息爭訟、重農桑

以足衣食、尙節儉以惜財用、隆學校以端士習、黜異端以宗正學、講法律以戒愚頑、明禮讓以厚風俗、務本業以定民志、訓子弟以禁非爲、息誣告以省催科、昭保甲以弭盜賊、解讐忿以重身命、

以上臥碑文及ビ十六條ノ主旨ヲ案スル時ハ、道德的國家萬能主義ガ建學制ノ方針ナルヲ察ス可シ、之ヲ鄉約トシテ鄉村ノ長老ニ托シテ講演セシメ、之ヲ學則トシテ生員ニ訓戒スルハ依テ以テ社會ノ秩序ヲ許ラントスルニ出デタルモノナリ、附記生員特待例以上學則中ニ於テ(殊ニ臥碑文中ニ於テ)生員ノ權限ヲ定メシガ、此他生員ヲ特待スルノ例トシテハ、人頭稅ト其所有田園ノ地租ヲ免シ、司法上其制裁及ビ其執行手續ヲ異ニシ、地方長官ハ秀才以上ノ犯罪者ヲ直ニ拘引スルヲ能ハス、府縣學ノ儒學ニ紹介シ、學政使ノ允可ヲ得テ而ル後之ヲ拘引シ審問スルヲ得ルモノナリ、又各官衙ニ於テ秀才以上ヲ

學宮及祭祀

禮遇スルヲ常民ニ超ヘ、鄉試會試等應舉ノ路費ヲ官給セリ、是レ之ヲ禮遇スルノ一端ナリ、

第四項學宮及祭祀

學宮、則チ文廟ハ府縣學ノ崇禮祭祀スル所ニシテ、其構造及祭祀皆一定ノ典式アリ、孔子以下ヲ神位トシ之ヲ大成殿ト云ヒ、別ニ崇聖祠、名宦祠、鄉賢祠ヲ附帶スルコト已ニ典禮ノ祀廟項目中ニ於テ説ク所ノ如シ、尙學廨ヲ附屬シ、府縣儒學ヲシテ生員ヲ教授セシムル所トス、

府縣學ハ祭祀ノ執事者ニシテ、地方官長ヲ主祭トシ、春秋二季ニ之ヲ奉戴ス其費一定ノ額アリ、蓋シ學問ハ則チ孔孟ノ遺教ニシテ、孔子ノ教ハ則チ千歲不渝以テ子弟ノ摸範トシテ崇尙シ、且ツ其祭祀主義ノ教義ニ從フテ祭典スルニ在リ、是レ學宮及其祭祀ガ學制ノ要項タル所以ナリ、

第五項國初ノ學校

(甲)臺灣府學、臺灣縣學、鳳山、諸羅縣學、

(乙)臺灣府屬海東書院(康熙五十九年設立)同屬崇文書院(康熙四十年設)、其他ノ書院ハ乾隆十年以後ノ設立ニ係リ(各設立年間ニ記セリ)、

(丙)臺灣縣社學(康熙二十三年設立)、

鳳山縣 同 一(康熙二十八年)、

諸羅縣 同 七(康熙四十八年)、

臺灣蕃社學 三、

鳳山蕃社學 十一、

諸羅蕃社學

第六項科舉

(甲)小試童生ノ試験ハ、縣官之ヲ行フ、其科目ハ四書五經及賦詩トス、之ニ及第シタル者ハ臺灣府ニ行キ知府ノ験ヲ受ク、及第シタル者ヲ附生或ハ生員ト云ヒ秀才ノ學位ヲ授ク、

郷試ハ、子卯午酉ノ年ヲ以テ管内ノ秀才ヲ省城ニ招集シ考試ヲ行フ、臺灣ニ在リテハ福建ニ至ル、試験官ハ禮部ヨリ特派ス、此試験ヲ管スルモノハ總督巡撫ニシテ周圍ニハ兵士ヲ派遣シ警戒セシム、課スル所經義、賦詩策論ナリ、此及第者ヲ舉人トシ優等者ハ魁元ト云フ、及第者ノ數全國千五名ヲ定員トシ、臺灣ニテハ一員ノ定メニシテ、福建郷試ニ臺字號一トシテ編入セリ、

(丙)會試ハ、郷試ノ翌年此舉人ヲ政府ノ下ニ集メ、禮部監督ノ下ニ考試ヲ行フ、試官ハ内閣大學士及尙書ナリ、及第スルモノヲ貢士ト云フ、

(丁)殿試、貢士ハ保和殿ニテ天子ノ試問ヲ受ク、優等ナルモノ三名、狀元、榜眼、探花ノ名稱ヲ下シ、三名以下及第者ヲ進士トナス、此進士ハ翰林院編修トナリ庶吉士トナリ、其他京官地方官ノ候補トナル、臺灣ヨリ出ツ可キ進士數ハ一員ナリ

乾隆四年ノ令ニヨリ初メテ之ヲ定ム、(武者ハ軍制中ニ記述シタルヲ以テ此ニ略ス)、以上科舉ノ課目ハ經義解釋及ヒ賦詩策論ニシテ、其文體ハ八股文ナリ、經義ノ解釋ハ宋儒ノ說ヲ取ル、

附記、以上科舉ハ經義ヲ解釋シ徒ニ前人ノ糟粕ヲ攻究シ、八股文ヲ作爲シテ空シク文章字句ノ末ニ勞スルモノナリ、科舉ハ漢代ニ初マリ支那ノ文明ヲ阻害スルノ根本タルモ、二千年來尙ホ之ヲ改ムルコトナシ、宋ノ王安石ニ至リ八股文ヲ用ヒ經義ヲ解釋セシム、而モ其弊害ハ其悔辭ヲ借リテ之ヲ表ハスヲ得可シ、曰ク、本欲變學究爲秀才、不圖反致秀才爲學究ト、天下ノ英才ヲ羅致シテ迂腐ノ學究タラシメ、及第官ニ任ジ事ニ當ルニ及ンダヤ其習フ所ハ則チ用フル所ニアラズ、僅カニ幕賓ニ聽キ、以テ時務ヲ糊塗セシム、此ノ如クニシテ支那ノ文明ハ萎靡退歩ノ非運ニ陥リ推移シテ

日新ノ智識ト當世ノ時務トヲ採用スルコト能ハサルニ至ルモノナリ、

第十七章 內務行政(經濟的行政)

內務行政中、經濟的行政ヲ分ツテ交通事務及ビ民業事務ノ二トス、

第一節 交通事務

清國ノ交通行政ハ國家ノ公文傳達及ヒ官吏往來ノ爲ニ、舖遞驛遞ヲ設クルニ過キズ其他道路河川ノ修築及ヒ船舶舟車ノ取締ヲ干涉スルコトアルモ、多クハ人民ノ自治ニ任カセ自ラ修築スルコトナシ已ニ土木ノ行政篇ニ陳フルガ如シ、是レ國家萬能主義ノ專制國ニ於テ、交通行政ハ國家ハ公益ト個人ノ便利ヲ謀ルカ爲ニ非ズシテ、其行政ヲ行フニ於テノ便利ヲ供スルニ止マルカ故ナリ(沈葆楨及劉銘傳ニ及ンテ始メテ公共的交通事務アリ)、

交通事務ヲ分ツテ二トス、整路事項及遞信事項之レナリ、

第一項 整路事項

內務行政
ノ經濟的
行政
交通事務

第一款道路及橋梁津渡

二二六

大清會典ニヨレバ、道路ハ里道ト雖、凡尙ホ之ヲ修築スルヲ要シ、殊ニ劇衝ノ道路ハ必ス意ヲ加ヘテ開通スルヲ要シ、溪河ノ大ナルモノニハ官渡ヲ設ケ、少ナルモノニハ橋梁ヲ架シ而シテ其工費ノ五百兩以上ニ上ホルモノハ、地方官之ヲ查明シ督撫ノ檢定ヲ經テ部ニ報シ支出ヲ得ルノ制度ナレ、有名無實ニ屬シ、多クハ人民ノ義捐ニヨリテ開作シ、特ニ臺灣ニ於テハ然リトス、然レ斯民モ亦タ等シク公共的精神ニ富ムモノニアラザルガ故ニ、清國及臺灣ニ於テハ殆ント道路ナルモノアルヲナク、之レガ爲ニ交通ノ運搬不便ヲ告クルアルモ忍ンテ顧ミズ、況ンヤ國家ニ至リテハ其驛遞事務ヲ執行スル迄ニシテ特ニ道路ノ平坦ヲ要セザルニ於テヲヤ、是ヲ以テ國道、縣道、里道ノ區別ヲ立テザルノミナラズ、交通行政ノ精神ヲ觀ヘバ橋梁ヲ設ケズ、山隘ヲ開

通スルヲナク依テ以テ寇盜ヲ防禦シ匪蹤ヲ驗偵スルニ便ナリトセル程ナリ、道路橋梁ノ行政ハ殆ント無視セララル、モノナリト云フ可シ、然レ其無視セララル、中ニ就テ、一二其規約ノ存スルモノヲ舉クレバ、道路ノ制度トシテ途遠ク人烟希ナル所ニハ旅店ヲ設ケ行旅ノ休泊ニ便セシメ大路ノ兩傍ニ、榆柳山松ヲ植ヘ、夏天ニ暑ヲ避ケ冬時ニ薪ヲ採リ、其所有ハ殖フル所ノ人ニ屬セシメタリ、又津渡ニ就テハ、其官渡ニ屬スルモノハ官田ヲ設ケ其利息ヲ以テ工費トシ、渡川ヲ徵スルヲナクシ、民渡ニハ每人一文ヲ限り渡錢資トシ、渡口場ニ標示セシメ、禁ニ違フモノハ重責架示セリ、是レ道路津渡行政ノ一端ナリト云フ可キ也、

第二款水路及ヒ船舶

水路及船舶ニ關スル事項ハ、臺灣國初ニ於テ嚴查勵行スル所ニシテ、之ヲ海防ト名ケ、一特立機關ナル海防同知ヲ設

ケテ之ヲ監督セシメタリ、其行政左ノ如シ、

(甲) 海外渡航免狀、船舶ノ海岸渡航免狀ヲ得ントスルニハ先ツ造船スルニ當リ郷關地保ノ保證狀ヲ得タル上、形狀長短ヲ縣ニ届ケ出デテ其證明ノ烙印ヲ受ケ且ツ其證明狀ヲ得、更ニ此二狀ヲ海防廳ニ齎ラシテ、海外渡航免狀ノ下附ヲ願ヒ出テシメ、同廳ハ其船ト其證明狀トヲ檢定シタル上海岸渡航免狀ヲ下附セリ、

(乙) 臺灣出入港船ノ驗查ハ、南路ニ往カントスルモノハ海防廳ノ分司ナル新港司ト水師副將ノ分汛ナル大港汛トニ於テ驗查シ、北路ニ行カントスルモノハ鹿耳門ニ於テ海防廳ト安平汛ト會同シテ驗查セリ、

(丙) 臺灣入港船驗查、鹿耳門ニ於テ海防廳ト汛衙門ト會同シテ驗查セリ、

(丁) 海防廳ノ禁令

一 商船ノ臺灣ヨリ對岸ニ航スルモノハ米六十石(浦石)以上ヲ積載スルヲ准サス、

一 臺屬淡水對岸ノ社船ヲ四隻ニ限ル(雍正元年十隻トナス)、

一 渡海ノ禁(社會行政警察項ニ於テ説ク可シ)

(戊) 出入口稅徵收、

文武口トテ海防廳ハ汛防ト共ニ出入船ニ就テ出入口稅ヲ徵セリ、其額定マリナシ、

遞信事務

驛遞

第二項遞信事務

第一款驛遞

驛遞ハ公文務ノ傳達ヲ速ニスルノ注意ニ基キ、各地方官ハ沿路ニ驛場ヲ置キ馬ヲ備ヘ其供用ニ便スルモノナリ、其制度一定スト雖モ、實際大小官吏往來ノ宿所ニ當テ、而シテ往來ノ各官ハ勢ニ依リ權ヲ弄シ勤索ノ端ヲ聞キ、地方官ノ累ヲ爲スモノ特ニ多シ、臺灣ニ在リテハ驛遞ノ設ケナシ、公館ハ恰モ

第二款舖遞

驛遞ト同シキモノニシテ所在ニ設立セラレ、官吏ノ宿伯ニ供セリ、蓋シ支那文官其路費ヲ自辨スルノ規則ナレド、實際ハ各地方官ノ支辨供應スル所ナルカ爲ニ地方官ハ官吏ノ巡視毎ニ其累ヲ受ケタリト云フ、乾隆初年ニ往來ノ各官勤索スルヲアレハ地方官ハ直奏シ得ルノ令ヲ出シ一時此弊ヲ止ム、

郵便ノ制ハ等シク驛遞事務ノ一項ナレド、別ニ舖司ヲ置キ公文傳達ヲ取扱ヘリ、臺灣ニ於テ國初ヨリ舖遞ノ設置アリ、各縣定額ノ國庫支出額アリテ沿路ニ舖遞ヲ置キ、舖司ヲ以テ之ヲ監シ、舖兵ヲ以テ公文ヲ傳達セシメタリ、國初ノ舖遞線路ハ臺灣縣ヨリ鳳山縣及諸羅縣ニ至ルノ間ニシテ、(雍正元年、彰化縣淡水廳ノ開設ヨリ、次テ九年淡水廳ノ竹塹ニ移廳シテヨリ、彰化舖七、淡水舖十一、以テ遙カニ北端雞籠ニ接應セリ、嘉慶ニ至リ宜蘭ニ達ス、光緒十二年ニ至リ更ニ郵政ヲ更

第二節民業

民業事務ヲ分ツテ農業、商業、工業、營業ノ五項ニ分類ス、

第一項山林事務

山林行政ハ清國政府ノ甚ハタ注意スル所ニアラズ、隨ツテ一定ノ行政法ナシ、惟地方官ハ人民ヲ勸諭シテ種殖セシムルト云フニ過ギス、殊ニ臺灣ニ在ツテ國初ハ樹木叢生シテフホルモサ國ト呼バンタルモ濫伐ニ任カセ、近山附近ハ總シテ不毛トナリ、

革シ、始メテ郵便ノ制度アリ、

臺灣縣四所、舖兵各四名、鳳山縣七所、舖兵各七名、諸羅縣十四所、舖兵各三名ニシテ皆ナ官用ノ郵便ニシテ公文ノ傳達ニ止マリ、私郵便ニ至リテハ、國初ニ開設シタルヤ否ヤヲ知ラスト雖モ、清國內地ニ於テハ信局ノ設ケアリ、人民ノ設立ニ係リ郵便信達ヲナセリ、臺灣ニ於テモ此私設ノ郵便ナキニアラサリシモ其起源ハ何レノ年代ニアルヤ明カナラズ、

忽チ其影響ヲ河流ニ傳ヘ氾濫止マザルニ至ラシメシト今日ノ如シ、然レ尙ホ一二ノ山林制度ヲ見ザルナキニアラズ、今其一ニヲ摘擧スレハ左ノ如シ

(甲) 蕃林、國初移住民ハ生蕃ヲ驅逐シ地ヲ拓クヲ以テ唯一ノ業トセリ、而シテ生蕃ハ漢人ト平地ニ争フキハ其狙撃ノ妙術ヲ弄スル能ハズシテ其優勢ニ敵ス可ラザルガ故ニ漸次高地ニ逃レ、所謂高山蕃ヲナセリ、然レ射利ニ銳ニシテ移殖ニ急ナルノ漢民ハ尙ホ之ニ飽キ足ラズシテ、蕃界ニ入り藤ヲ拔キ木ヲ斬リ山林伐採ヲ以テ職業トナセルモノアリ、之レカ爲メニ蕃人ノ狙撃殺傷ヲ受クルト絶フルトナシ、而ルニ當局官衙ハ之ヲ保護干涉スルノ煩ニ堪ヘズ、加フルニ匪類棍徒等ハ常ニ之等山林ニ潜伏シテ跡ヲ藏スルト頻々タリシヲ以テ、國初人民ノ蕃界ニ入ルトヲ嚴禁セリ(蕃界警察參照)、是レ蕃林成立セシ所以ニシテ、即チ蕃林トハ蕃人危險境內ノ山林ト云フニ外ナラザルモ、其性質ハ官林

ナリ是故ニ官衙ハ人民ノ蕃林ニ入ルヲ禁シタルモ自ラ造船ノ木料(樟材)ヲ獲ンガ爲ニ木挽ヲ雇フテ山ニ入り伐採セシメタリ、

(乙) 私林、私林ハ尙ホ農業ノ發達ニ於ケルガ如ク、業戶ノ蕃人ヲ驅逐シ佃人ヲ募リ地ヲ開キ且ツ其附近ノ山林ヲ占有セシムルニ起レリ、而シテ官ハ田園ニ就テハ其開墾ヲ許シ、田籍ヲ登録シテ租稅ヲ徵收シタルモ、山林ニ在リテハ報墾徵征ノ事ナシ、然レ其私林トナリタル由來ハ田園ノ歴史ト等シク業戶ノ占有認承ニヨリ其地骨權ヲ獲得シ、而シテ業主ガ業戶ノ山ニ樹木ヲ種ヘテ地皮權ヲ獲得シタルモノナリ、尙ホ山林ニ留マラズ、道路ノ並木河川堤坊ノ防沙林、養池林、防風林ノ如キ地方官ノ訓諭ニヨリテ殖フルモノアリ、其訓諭ハ地方官ノ行政處分ニ屬シ一定ノ山林行政法ナルモノナシ、然レ民治ニ志アル地方官ハ其種殖ヲ獎勵シ、其繁茂スルモノニハ褒賞ヲ與ヘ、且盜伐ヲ禁セリ

第二項 農業事務

支那歴代ノ政策タル、士ヲ重ンシ農ヲ尙ビ、商工ニ至リテハ之ヲ輕視スルヲ例トセリ、蓋シ經濟ノ未タ發達セザル時ニ於テハ重農主義ノ行ヘルハ古來各國ノ經濟史ニ於テ之ヲ徵スル所ナリ左レバ支那ニ在ツテモ歴代農ヲ以テ國ノ基トシ、農民ヲ優待シ特別ノ保護ヲ加ヘ、水田ハ六年ヲ以テ、陸田ハ十年ヲ以テ開拓期限トシ、登録徵稅スルノ定例ニシテ、務メテ新墾ヲ獎勵シ、耕牛又ハ開拓費用ノ資金ヲ給與シ、秋時收穫ノ時ニ及ンデ之ヲ償ヘシムル等、勸農ノ法ヲ盡シ其他蟲害ヲ驅除シ、耕牛ヲ屠殺スルヲ禁ンシ(行政警察ノ項二六七頁參照)池水溝渠ノ權ヲ保護スルアリテ、農業ニ就テハ比較的施設ヲ密ニスルアリ、且ツ之レカ收租ヲ以テ歲入ノ基本トナセリ、重農主義ノ狀態ヲ見ル可キモノナリ、

臺灣ニ於テモ亦農ヲ以テ工商ノ上ニ置キ、田園ノ租稅ヲ以テ歲入ノ大宗トナシ、且ツ池水溝渠ノ權ヲ保護シ、蟲害ヲ配除シ

屠牛ヲ禁ンシタリ、但シ水田ハ三年ヲ以テ陸田ハ五年ヲ以テ開拓期限トナシ登録徵稅シ、清國ニ比シテ短カシ、又タ田租率ニ於テモ清國ニ比シテ遙カニ貴シ(財政ノ項一三三頁參照)而モ此負擔ノ重キト期限ノ短キトハ、毫モ臺民ヲ惱マスニ足ラズシテ、臺地ノ政府ガ農業ニ對シテ不干涉主義ヲ取リシトハ臺灣ノ農業ヲシテ速ナル發達ヲ成サシメタリ、

屠牛ヲ禁ンシ蟲害ヲ驅除シ池水溝渠ノ權ヲ認メタルヨリ見レバ臺灣ノ農業モ大ニ保護干涉ヲ受ケタルニ似タレド、清國政治ノ實際ハ、典章大ニ備ハリテ實務全ク擧ラサルヲ常トスルノミナラズ、國初臺灣ノ行政ハ散漫ヲ極メタルヲ以テ、是等農業警察ハ有名無實ニ屬シ、人民自治ノ發達ヲ遂ケタルモノナリ、且ツ臺地ニ於テハ、清國ニ於ケルガ如キ資本貸與ノ制度ナク、又タ臺地ノ舊田制タル蘭人鄭氏ノ官田制度ヲ套襲セザリシヲ以テ愈自治ノ發達ヲ遂ケタルヲ見ルナリ、

不干涉主義ヲ取リタル證擧トシテハ、一回ノ丈量ヲ行フナク移住民ヲシテ税率ノ貴キニ苦ヲ訴ヘズシテ、隱田ノ多キニ鼓腹セシメタルト及ビ豪戶業主ガ開墾ノ願ヲ任意ニ事後承諾シテ大租戶ナルモノヲ成立セシメタルト是レ也、而モ此結果トシテ大ニ農業ヲ發達セシメタルトハ爭フ可ラサルナリ、税率ノ貴キニヨリ隱田ヲ多クシ從ツテ農業ヲ發達セシメタルトハ已ニ税率論(一三三頁)ニ於テ之ヲ説ケリ、今此ニ大租戶ノ成立ヲ講究シテ以テ農業發達ノ狀ヲ視ヘントス、

蘭人及鄭氏ノ田制ハ、大同小異ニシテ共ニ政府自ラ小作人ニ資ヲ給シ土地ヲ耕サシメタルモノニシテ、其狀タル恰モ地主ガ小作人ニ對スルノ觀アリ、人民ハ小作人トナリテ王田若クハ官田ヲ耕ヤシテ地代ヲ收ムルノミニシテ其農業的經營ハ專ラ政府ノ任ンズル所ナリシナリ、清領トナルニ及ンテ自治ニ放任スルトトナリシヨリ、其開拓ハ人民自ラ之ヲ行ハザル可ラズ、其經營

ハ人民自ラ當ラサル可ラズ、所謂當時ノ開拓トハ草萊ヲ開キ、道路ヲ通シ溝渠ヲ作ルニアル可ク、所謂當時ノ經營トハ家ヲ建テ人ヲ招キ且ツ生番ヲ驅逐スルニアリタル可シ、是レ到底無資力者ノ能クスル所ニアラズ、是ニ於テ當時ノ豪戶ハ大ニ資ヲ投シテ之等ノ開拓經營ニ任ンジ、而シテ政府ニ對シテハ事後承諾的ニ其ノ地ノ所有ヲ認メシメシモノナリ、是レ大租戶ノ起源ニシテ、而シテ臺地ノ農業ハ此大租戶ニヨリ其發達ノ端緒ニ開キタルモノト云フ可シ、

其他小租戶及ヒ小作人ノ狀態モ亦タ農業發達ノ勢ヲ促ンタルモノナキニアラズ、草萊已ニ開ケ道路已ニ通シ溝渠興サレ小作人召募セラレ、ニ至リテハ、小資本家ハ又タ集マリ來リテ等シク其土地ノ利益ヲ庶幾ス可シ、是ニ於テ之レガ地上權ヲ大租戶ニ乞ヒ得テ、自ラ耕ヤシ或ハ人ヲ雇フテ之ヲ耕ヤシ以テ一定ノ租ヲ大租戶ニ納レテ、其餘ヲ收益スルニ至ル可シ、是レ小租戶ノ

成立ナリ、小租戸ノ成立スルニ至リテハ、農業ノ發達ハ益熾盛トナリシヲ徵ス可キモノナリ、

大租戸ガ小租戸ヨリ大租ヲ徵スルノ狀ハ、恰モ政府ガ地租ヲ徵征スルニ似タルナリ、是レ大租戸ハ鄭氏及ヒ蘭人ノ政府ガ小作人ニ對シテ經營セル所ヲ自ラシタルニ因ルモノニシテ、眞ノ土地所有者ニアラザルニ係ラズ、國初以來大租ヲ徵收シ來リタルノミナラズ、劉時代マデハ地租納稅ノ責モ大租戸ノ負擔セシ所ナリ、劉ニ及ンデ大租戸ヲ抑ヘンガ爲ニ其納租ノ責ヲ免ンジ、而シテ其小租戸ヨリ徵收スルノ大租ヲ減額シ、以テ眞ノ土地所有者ナル小租戸ノ權ヲ重クセリ、

又化番ニシテ大租戸タルモノアリ、是レ化番ハ歸化シテ政府ノ保護ヲ受ケ漢人ノ侵食打撃ヲ免カレ、其本來占有シ來リタル土地ノ利益ヲ受クルガ爲ニ大租ヲ徵スルノ大租戸タルヲ得タルモノナリ、大租戸ガ土地上ノ權利ハ、之ヲ地骨ノ權ト唱ヘ、小租戸ノ土地

上ノ權利ハ、之ヲ地皮權ト名ケ、兩者共ニ賣買自由ニシテ相侵スコナシ、以テ臺灣農業發達ノ狀ヲ視フ可キモノアリ、

又小租戸ノ小作人ニ對スルハ、或ハ奴僕トシテ雇用セルアリ、或ハ自由契約ニヨリテ小作人ニ貸與セルアリ、區々トシテ一定セズ、而カモ此一定セサルノ狀態ハ、臺灣農業ノ利益ヲシテ均準ナラシメ且ツ適當ノ發達ヲ促進セシ所以ナラズンバアラズ、何ントナレバ實利ニ敏ナル支那人ハ奴僕ヲ雇用シテ土地ヲ耕スノ利ニシテ、自由契約ニヨリテ貸與セル收益ニ及ハザルトキハ直ニ之ヲ捨テ彼ニ就キ自由經濟ノ恩惠ニ浴シタル可ケレバナリ、此ノ如クニシテ臺灣ノ農業ハ政府ノ干涉ヲ待タズ、保護ヲ受クズシテ長足ノ發達ヲナシ、國初ヨリ米ヲ以テ臺地生産ノ大宗トナシ、昌ンニ福建ニ輸出シテ福建外府ノ名ヲ獲タリ、但シ臺灣ノ熱帶地ニシテ一定ノ降雨期アルコト及ヒ一年兩度ノ收穫ヲ得ルコトハ、亦タ確カニ對岸福建瘠土ノ民ヲ招徠スルニ足ル

モノアリテ農業發達ノ原因トナリシモノアリ、國初ヨリ渡臺ノ禁ヲ嚴ニシ又タ番界侵食ノ禁ヲ立テタルハ、是レガ反證ト認ム可キモノナリ、

第三項狩獵及漁業

蘭世鄭氏ノ時ハ曠社曉港トテ資ヲ給シ山海ノ漁獵ニ從事セシメ收益ノ上本科ヲ償ハシメタリ、是レ經濟上狩獵時期ニアリタルヲ察ス可キモノナリ、而ルニ田野開ケ野獸跡ヲ絶テ、之レカ收税目自然ニ除カレ、之レカ獎勵ノ法ハ廢シタリ、獨リ蕃人ノ蕃餉トシテ狩獵ノ鹿皮ヲ獻ズルモノアリ、財政收入ノ一款トナレリト雖ドモ狩獵ノ法則見ル可キモノナシ、思フニ狩獵時期ヲ去ツテ農業時代ニ入りタルガ爲メナランカ漁業ニ就テ國初提督施琅ハ漁船ニ就テ兵餉千二百兩ヲ徵セシカ、其後臺灣府ニ於テ之ヲ管シ、代ツテ之ヲ提督衙門ニ交付シ、後乾隆二年ニ及ヒ之ヲ廢シ、海防廳ニ於テ之ヲ徵收シ、國初以來漁業ハ收税ノ一端ト

ナリ、海岸漁業及ヒ漁地ハ國初ヨリ開ケタルヲ概見ス可シ、然レ之カ取締ノ法ハ未タ行ヘタルヲ見ズ、思フニ其自治ニ放任シ自然適當ノ發達ヲナシタルモノナランカ、其他官有ノ養魚池モ亦タ人民ニ貸下ケテ收利セシメルガ故ニ適當ノ發達ヲ遂タルモノ、如シ

第四項商工業及營業事務總說

工商ハ支那政府ノ重ンゼサル所ナリ、蓋シ其儒教的國家萬能主義ハ士ヲ尙ビ農ヲ重ンシ殊ニ工商ヲ賤ミタルカ故ニ其行政事務ニ工商業ヲ保護獎勵スルヲナキノ所以ナリト解ス可シ、特ニ商業經濟ノ基礎ナル度量衡及ヒ貨幣ノ區々トシテ一定セザルハ、何如ニ商工業カ支那政府ノ留意セザル所ナルカヲ見ルニ足ル可シ、然レ以上商工業カ國政上ノ蔑視ヲ受クルニモ拘ラズ、支那人ノ實利的氣風ハ之等ノ百難萬障ヲ排シテ、居然トシテ其發達ヲ成サシメタリ、會館公所ノ設立、各郊ノ成立ハ之レガ消息ヲ

傳フルモノナリ、

第一款工業

工ハ商ノ上ニ位セリト雖也、以上云フガ如ク支那政府ガ絶ヘテ願ミサル所ナレハ、マシテ臺灣ニ於テハ毫モ施設ノ見ル可キナシ、工業經濟ニ於ケル工業ノ保護補助、工業獎勵ニ於ケル發明意匠商標ノ登録等、清國ノ夢想タニセサリシ所ナリ、隨ツテ工業ノ發達ハ一モ見ル可キモノナシ、獨リ手工ニ於テハ、刺繡ハ婦女子ノ常業トシテ割合ニ發達セリト雖也美術工藝トシテ觀ルマテニ至ラズ、

第二款營業

(甲)禁止セラレタル營業、銃器硝藥製造發賣、大竹輸出大竹輸出ハ竹筏トシテ棍徒海賊ノ用ニ供セラル可キ故ヲ以テ之レガ輸出ヲ禁止シ海防及ビ汛兵ヲシテ取締ラシメタリ、娼妓(公クニ禁スレバ默許ス)、賭博(公クニ禁スレバ默許ス)、屠牛、鹽業

戲圖書、官文書刊行、

(乙)特別許可ノ營業、典當商(特別ノ人ニ許可ス)、養魚(特別ノ人ニ許可ス)、鍛冶屋(全臺ニ二十七戸ヲ定メトス之レ兎器製造ヲ制スルガ爲メナリ)、米穀輸出、船舶製造、銀細工屋、

第三款商業

商業ニ對スル積極的行政ハ支那政府ノ留意セザル所ナリ、故ニ其融通制度タル貨幣法及ヒ度量衡法ハ共ニ亂雜ヲ極ムルト已ニ前ニ説ク所ノ如シ、惟其自治施設ニ成レル商業組合ハ國初ヨリ已ニ發達セルモノ、如シ、

第一條貨幣法

(一)貨幣ノ鑄造ハ、地方ニ在リテハ糧房及ビ布政使ニテ國庫ニ收ムルノ銀ト爲スモノ是レナリ、之ヲ庫平銀ト云フ、七錢二分ヲ以テ定量トナセリ、此鑄造ニヨリ火耗トテ、改鑄ニ際シ耗ヲ生ズルヲ償フガ爲ニ正租稅ノ外ニ副稅ヲ徵收セ

シハ已ニ財政ノ中ニ説ク所ノ如シ、國初民間ノ常用銀ハ、馬蹄銀若クハ銀塊銀片ヲ用ヒタリ(物品交換モ行ハレタリ)、後洋貨輸入アリシニヨリ又タ之ヲ用フニ至レルモ、之レ等シク銀塊ト認ムルモノニシテ、鑄造政府ノ鑄文アルニ拘ラズ、甲乙授受ノ際甲者ノ鑿印ヲ求メ置キ、第三者ニ交付セントテ拒絶セラレタルキ同量ノ銀貨ト交換スルヲ證トス、而ルニ之ニ因テ他ノ金屬ヲ混和補填シ若クハ鑿入ニ托シテ其幾分ヲ割取スル等支那人ノ猾智驚ク可キモノアリ、銅錢モ亦タ各代各時ノ官鑄ニ係リ、私鑄ヲ禁ズレモ素質形狀元ヨリ一定セズ、之ガ爲ニ私鑄昌ニシテ惡錢ノ流行甚シク、市町村ニ於テ惡錢ヲ取引セザルコトヲ以テ約束トナスニ至レル程ナリ、又タ銀貨ト交換スルニ當リ惡錢混入ノ多少ヲ以テ取引上多少ノ割引ヲスルニ至レリ、

(二)庫平銀ハ則チ清國ニ於ケル本位ト云フ可シ、七兩二分ヲ

以テ一錠ノ定メトナス、銅錢其他銀塊ハ補助ノ貨幣ナレドモ實際上庫平銀ハ市場ニ流行セサルヲ以テ貨幣ノ本位ト認メ難シ、銅錢ノ多少ハ市場貨幣金塊銀塊ノ割合ヲ定ムルモノニシテ、寧ロ實際上ニ於ケル本位タルノ觀アリ、然ルニ取引ニ困難ナルヲ以テ銀塊ヲ以テ取引シ、一ニ稱量ニヨリテ其價ヲ定ム、故ニ國初ヨリ臺灣ニ在リテハ貨幣ノ眞單復本位タルモノヲ認ムルコト能ハズ、

第二條度量衡

(一)權衡 他ノ度量ト共ニ一定ナラズ、天坪(最大限百世兩掛)天坪ニ庫坪曹坪廣東坪海關坪數種アリ官用ノモノハ庫坪ナリ、(戥五十兩掛庫坪ニ則ルト雖モ一定セス隨意ニ製造目盛ヲナス)、稱最大限十七斤掛ハ戥ト同シク庫坪ニ則ルト雖モ一定セズトス、權衡ニ庫坪ノ原基アリト雖モ製造法ヲ一定セズ、且ツ檢査ヲ行フコトナシ、故ニ各地各所各人用フル所

一様ナラズ、之レガ爲ニ平餘トテ、正供ノ外ニ其副税ヲ徴シ、以テ庫坪ニ對スル不足ヲ償ヘリ、是レ已ニ財政ノ中ニ説ク所ノ如シ、

(二) 尺度ハ、魯班尺(土地丈量ニ用フ)、裁尺(織物賣買、家内用裁尺ノ別アリ各隨意ニ製作シ一定セルヲ見ズ)、

(三) 斗量ハ、國初道斗トテ鄭氏ノ斗升ヲ用ヒタリ、其後公平斗、雙乙末斗アリ、共ニ一斗量ニシテ、公平斗ニハ(官定)、雙乙末斗ニハ(乙未公定)ノ焼印アリ、共ニ官ノ認可ヲ乞ヒ上記ノ焼印ヲ受ケ、其手數料一個ニ付百文ヲ納ム、且ツ検査警察ノ法モ度衡ニ比シテ密ナリ、故ニ兩者ニ比シテ稍可ナリト云フ可シ、是レ農業ヲ以テ商業ノ上ニ置クガ故ニ其器具ニ至リテモ亦タ他ノ器具ニ比シテ重キヲ措キタル所以ナルカ、然レドモ又タ民間斗升ヲ以テ公平斗升ニ及バストナシ、國初穀納ノ地租ニ就テ、餘租ナル副税ヲ徴セシテ、已

第三條 商業組合

ニ財政ノ中ニ説ク所ノ如シ、

商業組合ハ自治的ノ發達ニヨリテ成レリ、會館公所ノ設立等、團體ノ強固ニシテ約束ノ嚴明ナル、社會ヲ維持スルノ根底タルモノナリ、臺灣ニ於テ會館公所ノ設立ハ後年ノ發達ニ係リ廣東浙江人等ノ設立ニ係ルモノ多シトスト雖モ、國初ニ於テ已ニ其發芽ヲ成セリ、郊及ヒ自治團ノ組織之ナリ、

(一) 郊トハ、對岸貿易ヲ營ム商賈ノ組合ニシテ、國初ヨリ臺灣商業唯一ノ活路ハ此對岸貿易ノ爲ニ開キタルモノト云フ可シ、故ニ此對岸貿易商ノ組合ハ甚ハダ有力ニシテ、時ノ行政官ノ壓抑ニ抗シタリ、(寧)官勢ニ抗スルガ爲ニ起リタルモノト推ス可シ、而レ時ノ行政官モ亦タ其呼喚ヲ知り之ヲ壓抑セズシテ其意ヲ迎へ御用金ヲ課シタルガ如シ、而シ

テ福州浙江ニ至ルモノヲ北郊ト云ヒ、泉州ニ行クモノヲ泉郊ト云ヒ、廈門ニ至ルモノヲ厦郊ト云ヒ、各地各港皆此三郊ノ組織アリ、國初ニ於テハ郡城内ニ設立セラレタリ、

(二)自治團ヲ商業組合ノ部ニ記述スルハ頗ル妥當ヲ欠クニ似タレド、臺灣ニ於ケル自治團ハ會館ノ如キ由來性質ヲ備ヘタルヲ見ルナリ、會館若クハ郊ノ設立ハ、利益及ヒ愛郷ノ觀念ヨリ官勢及ビ外郷人ノ壓抑ニ抗シテ其共同ノ利益ヲ保護セシガ爲メ也、自治團ノ設立モ亦タ之ト相類似セリ、國初ニ於テ已ニ分類ノ爭ヲ生ゼルヲ見シハ、是レ異郷人生存上ノ競爭已ムヲ得ザルヲ徵ス可シ、且ツ行政官ガ不時ノ壓抑ヘ人民ノ財產生命ノ安寧ヲ保ツ可ラサルモ亦タ國初ヨリ臺灣人ノ煩惱セシ所ナラン、之レガ爲ニ其實利的習俗ト其祖先教ニ緣源セル同郷團結心トハ臺灣民人ヲシテ各郷各團ヲ形成セシムルニ至レリ、試ミニ臺灣市城ノ發達成立ニ之

成立ニ之ヲ徵スルニ、臺灣人ノ市城集合ハ各國各地一般移住民ノ情況ト等シク之ヲ好ムニ由ル可シト雖モ、其同郷人ノ集合タルヲ見レバ、確カニ利益的及愛郷的思想ニヨリ官勢及ビ外勢ニ抗シタル(又一ハ生蕃ノ戡擊ニ備ヘタルヲ見ル)自然ノ必要ニ生シ出テタルモノト云フ可シ、臺北附近ニ就テ之ヲ證セハ、艋舺ハ泉州人、大稻埕ハ漳州人(同安)八芝蘭ハ漳州人、新竹ハ泉州人、中樞ハ廣東人ノ集合ナルガ如シ、(臺北附近ノ發達ハ共ニ臺灣中古以下ノ發達ニ係レリ、故ニ之レヲ引證シテ國初自治團ノ説明トナセルハ當レルヲ欠クニ似タレド今臺南附近ノ之レガ成立ヲ證明スル分明ナル考證ヲ欠クガ故ナリ、然トモ其分類分住ハ府縣志ニ徵シ叛亂ノ事蹟ニ徵シ確カニ然ル可キヲ認ム)、去レバ又タ此自治團ガ商業的機關ノ作用ヲナシ、物貨ノ均準ニ就キ(米價ノ均準ヲ計ルハ其一例ナリ)、物品ノ賣買ニ就キ(腐肉ヲ賣ルヲ

禁約スルガ如キ其一例ナリ、貨幣ノ好悪ニ就キ(惡錢ヲ使スルヲ禁ス)取引ヲ嚴重ニスル如キ、恰モ商業組合殊ニ會館組織ニ類似シタルト是レナリ、然レ本來自治團ナルガ故ニ其自治ノ行政ヲ營ムヲ以テ本來ノ面目トスルハ、自治機關及自治行政ノ部ニ説ク所ノ如シ、

第十八章 內務行政社行政會

內務行政
社會的行政

會社の行政トシテハ公共ノ救恤事務及ビ警察事務ノ二ニ分類ス可シ、前者ハ帝王仁政ノ大道トシテ、後者ハ國家治安ノ要具トシテ臺灣行政ノ重ナル事項トナレルモノ也

第一節 公共救恤事務

公共救恤
事務

公共救恤事務ハ、清國ノ制度ニヨレバ個人ノ惠恤ニ關スルモノト社會一般ノ賑濟ニ關スルモノトニ分ツ可シ、前者ノ爲メニハ養濟院、育嬰堂、棲流所、義塚等ヲ施設シ、後者ノ爲メニハ社倉、義倉等ノ備荒儲蓄ノ制度ヲ設ケ、荒年ニ及ンデ發賑平糶シ

又蠲賦緩徵ヲ行フモノニシテ、兩者共ニ公共救恤ニ關ス、其主旨ハ帝王ハ仁政窮民ヲ恤ミ、荒年ヲ濟フテフ萬能主義ニ出デタルモノニシテ、毫モ人民ヨリ之ヲ請求シ得ル社會主義ノ意義ヲ存スルニアラズ、是故ニ其名アリト雖モ其實廢レ、諸院諸堂諸倉ノ名ハ額中ニ列シテ、實ハ傾圮尋ヌ可ラザルモノ比々皆ナ然リト云フ、

第一項 惠恤事務

第一款 養濟院ハ、會典ニヨレバ各州縣必ラズ養濟院ヲ設ケ、管内ノ鰥寡孤獨殘疾無告ノモノヲ收養シ、一定ノ額費アリテ其費ヲ償ヒ、每歲中央政府ニ報告スルヲ要ストセリ、
第二款 育嬰堂ハ、會典ニヨレバ各州縣必ラズ育嬰堂ヲ設ケ、管内ニ遺棄病廢ノ嬰兒ヲ收養シ、乳婦ヲ雇ヒ哺乳撫養シ、一定ノ額費アリテ其費ヲ補ヒ、每歲中央政府ニ報告スルヲ要ストセリ、

以上養濟育嬰ノ制度ハ支那歷代ノ施設スル所ニシテ、周制ニ
 緣源シ文王盤獨ヲ哀レミ孤獨ヲ恤レムノ遺意ヲ襲フモノトセ
 リ、道德的國家萬能主義ノ清國ガ之ヲ襲フテ行政ノ一事務ト
 スルハ亦タ故アリト云フ可シ、蓋シ人口ノ繁殖昌シナル支那
 國ハ一方里殆ンド四百餘人(平均二百餘人)ヲ數フル程ナルガ故
 ニ貧民殊ニ多ク、實際養濟育嬰堂ヲ設クルノ必要ニモ迫マラ
 レタルモノト云フ可シ、然レ無數ノ無告無依ノ民ハ之等僅々
 ノ濟救ニテハ普テキテ能ハザルガ爲ニ、乞丐トナリ而シテ其
 乞丐ノ多キテ清國ノ如キハ希トスル所ナリ、之レカ爲ニ別ニ
 北京ニ在ツテハ棲流所ヲ設ケ之等乞丐ヲ收養シ、諸省諸縣之
 ニ倣ツテ棲流所ヲ立テシモ、其多數ノ乞丐ヲ收養スル能ハザ
 ルハ自然ノ勢ナルヲ以テ、乞丐ハ一ノ社會ヲ作り黨ヲ立テ群
 ヲ成ニ至リシハ實ニ清國ノ現狀ナリ、
 臺灣ニ在ツテハ國初清制ニ基キテ此制度ヲ採用施行セシモ、

國初家族ヲ携帶スルヲ禁ゼシヲ以テ育嬰堂ノ設立ナシ、棲
 流所ハ後年府城内及ヒ樹杞林ニ設ケラレタルヲ見ルモ其他ニ
 之レアルヲ聞カズ、然レ凡乞丐ガ一ノ社會ヲ形成スルヲハ清
 國ト同シ、

第三款衿囚獄ノ制度ハ監獄事務ノ中ニ編入スヘキモノナレド
 モ、清國行政制度ニ在ツテハ之亦タ惠恤事務ノ一項ナリトシ
 日ニ倉米一升(我五合)冬天ニハ綿袴ヲ給シ、鑽榭席薦ハ常ニ之
 ヲ洗滌鋪置シ、且ツ獄醫ヲ置キ病者ニ投藥スルノ例ナリ、是
 レ尋常監獄制度ノ一端タル可シト雖凡、認メテ惠恤ノ制度ト
 ナスハ以テ帝王仁政ノ一ナリトスル所也、

第四款義塚ハ會典ニヨレバ、各府縣無主ノ枯骨暴露スルアレ
 バ、各地方官ハ義塚ヲ建置シ法ヲ立テ收埋シ、中央政府ニ報
 告シ、若シ義人アリテ私ニ義塚ヲ立テ、貧屍ヲ收埋スルアレ
 ハ、匾額ヲ典ヘ之ヲ旌獎スルノ例ナリ、蓋シ祖先教ナル支那

ニ在ツテハ、墳墓ヲ收ムルハ教義ノ一大要典ニシテ、殊ニ他郷ニ客死シテ死屍ヲ埋ムルナキハ祖先教ノ本意ニ戾ル所ナリ是レ義塚ノ制令ヲ設クル所以ニシテ、殊ニ臺灣ニ在ツテハ徒手ノ移住民ガ渡來熾ンニシテ、土地疫癘ノ爲ニ客死依ルナキモノ累々相望ムノ狀況タリシカバ、國初ヨリ義塚ヲ建テ、無主ノ死骨ヲ收埋セリ、

第五款諸堂及義塚ノ所在ハ臺灣ニ在リテハ養濟院(康熙二十三年建)ハ鎮北坊ニ在リ、普濟堂(棲流所其内ニ在リ乾隆十二年建)ハ城内ニ在リ、義塚五ヶ所其中一乾隆十二年建アリ、鳳山縣ニ在テハ養濟院(康熙二十二年建)ハ土埕ニ在リ、義塚二ヶ所雍正十二年建アリ、諸羅縣ニ在テハ養濟院(康熙二十三年)ハ善化理ニ在リ、義塚十六ヶ所アリ、

第二項賑濟事務

賑濟事務トシテハ、平時備荒儲蓄ノ制度トシテ常平倉及社倉

ヲ設ケ、荒年ニ及ヒ發賑平糶シ、又凶年ノ地租ヲ免シ若クハ收租ヲ緩ニセリ、

第一款備荒倉庫ニ二種アリ、官設ニ係ルモノヲ倉敷ト云ヒ暨倉ト云ヒ、共ニ耿壽昌ガ常平倉ノ例ニ倣ヒタルモノニシテ、私立ニ係ルモノヲ社倉蕃社倉ト云ヒ義倉トヒ、共ニ朱子ガ社倉ノ例ヲ襲フタルモノナリ、其主旨ハ陸宜公カ所謂儲積災ニ備フルハ聖王ノ急務ナリトノ意ニ出テ、公廩ヲ豊カニスル所以ニアラズシテ斯民ノ爲ニ計ル所以ナリトナセリ、會典ニヨレハ各州縣常平倉ヲ設立シ、其地ノ廣狹ニヨリテ定額ノ貯穀ヲ爲シ、荒年出糶ノ多少ヲ定メ、官吏交代ノ際ハ查驗報告セシムルノ例ナリ、社倉義倉ハ會典ニヨレバ土民ノ捐置ニ係リ、其經理ハ自治ニ任カシ、歉歲ニハ農民ニ米穀ヲ貸與シ異時収獲ノ時納還セシムルノ例ナリ、

第二款賑濟方法トシテハ、救災、發賑、減糶、蠲賦、緩徵通

商勸諭、與工代販ノ制アリ、
 救災トハ、水難火災ニ際シ搭養修理ノ費、死屍埋葬ノ費ヲ給
 レ、傷者ニハ撫恤銀ヲ與フルヲ云フ、
 發賑トハ、凶年災時常平倉ヲ開キ、窮者ヲ濟フニ一ヶ月戸口
 多キモノニハ日ニ五合口少キモノニハ二合半ヲ給シ、次ニ其
 窮狀ヲ查察シ其狀ニ隨ツテ賑濟ノ年月ヲ定ムルノ例ナリ、
 減糶トハ、凶年ニ常平倉ヲ開キ市價ヨリ減シテ市場ニ發賣ス
 ルノ例ヲ云フ、
 獨賦トハ、災戸ノ納ム可キ地租副税人頭税ヲ其被害ノ状態ニ
 照ラシテ獨免スルヲ云フ、
 緩徵トハ、災害查勘ノ日ヨリ租税徵收ヲ停メ、被害ノ状態ニ
 照ラシテ滯徵ノ年月ヲ定メ緩徵スルヲ云フ、
 通商トハ、災地ニ需用ノ米ヲ供給センガ爲メニ商估ヲ招徠シ
 米穀ヲ供給運送スルトキハ其關口ノ税ヲ免シ、印票ヲ給與シ

災地ニ至リ平糶セシムルヲ云フ、
 勸諭トハ、紳士商民ノ歉歲ニ資ヲ投シ捐賑スルヲ云ヒ、之ニ
 頂戴ノ位ヲ與ヘ或ハ之ニ匾旌スルヲ云フ、
 與工代販トハ、凶災ノ年ハ地方官ハ其地方ニ於テ應ニ舉行ス
 ベキ土工建築ヲ起シ、貧者ヲシテ傭工就食セシムルヲ云フ、
 第三款倉敷ノ所在ハ臺灣府屬ニ倉敷二所、臺灣縣屬倉敷四所
 鳳山縣屬ニ倉敷四所、社倉一所、蕃社社倉八所、諸羅縣屬ニ
 倉敷四所、社倉七所、蕃社社倉十二所、彰化半線ニ一ヶ所康
 熙五十九年起トス、

第二節 公安寧ニ關スル事務

公安寧ニ關スル行政トシテハ、警察事務之レナリ、警察ハ諸
 般ノ行政ニ關係シ、殊ニ國家萬能主義ヲ維持スルニ於テハ尤モ
 必要トスルカ故ニ、清國政治ニ於テ重ナル行政ナリ、然レ歐州
 ニ在テモ警察事務ガ、先ツ外交軍務ト分レ次ヲ裁判事務ト分レ

財政事務ト分レテ、形式ト實質ニ於テ獨立ヲ保チ得タルハ、概今ノ制度ニ屬セリ、去レハ國家道德主義ヲ以テ政務ヲ執行スルノ支那國ニ在リテハ、元ヨリ警察事務ノ獨立形質ヲ備ヘザルハ、自然ノ勢ナリ、蓋シ概今ノ意義ニ於ケル警察ハ、國家及ビ一個人ノ安寧幸福ニ對スル危害ヲ除却スル爲メニ直接一個人ノ自由ヲ制限スルノ主旨ニ出ヅレドモ、清國警察ノ目的ハ國家ノ存立ヲ保チ國家ノ權力ヲ全クスルニ在リ、則チ國家萬能主義ヲ實行スルニ在リテ、外交軍務裁判財政ト混同シテ分ツ可ラザルハ、尙ホ其行政官ガ同時ニ司法官タリ、財政官タリ、外交官タリ、軍務官タリ、教育官ヲ兼掌スルガ如シ、一例トシテ警察ガ軍務ト混同スルノ事ヲ舉クレバ、綠營ノ汛防カ兵タルト同時ニ保安警察及ヒ司法警察ノ幾部ヲ施行セルヲナリ、是レ支那軍制ノ特質ニシテ、則チ軍備ハ地方警備ニ任ス可キモノタル軍政上ノ見解ニ基クモノナリ、斯クノ如ク警察ハ、外容ニ於テ他政務ト混合スルノミナラス、其

内容ニ於テモ亦タ分別ス可ラズ、則チ我司法警察保安警察行政警察ノ區分ハ支那ニ於テ判別セラル、ヲ見ズ、特ニ衛生警察ノ如キハ之ヲ缺ケリ、疾病流行ノ時ニ當テハ地方官ハ唯城社廟ニ祈ルコトアルノミ、

警察ヲ施行セル機關ハ、地方官及ヒ汛防其責ヲ有シ(但シ汛防ハ保安警察ノ一部及ヒ司法警察一部ノ責ニ任ズ)、此外半官半民ナル地保アリ、下級警察官トシテ地方廳警察ヲ補助シ、又タ町村ニ委托セル保甲及聯庄團アリテ自治警察トシテ地方廳警察ノ及ハザルヲ補フ、然レ地保制度ハ已ニ第五章第二節ニ説キ、保甲聯庄ハ其施行時代本史中ニ説ケルヲ以テ、今茲ニ其事務ヲ略言スルニ止メ、地保廳警察及汛防警察ノナスヘキ事項ヲ考觀スルニ供スルノミ、

第一項地方廳警察

第一款 地方廳警察ノ組織ハ、地方警察全體ノ責ヲ有シ、地

方長官之ヲ監督命令シ、六部ノ吏ヲシテ其事務ヲ執ラシメ差役皂隸ヲシテ其實行ニ當ラシム、

第二款、他ノ警察機關ニ對スル關係ニ就テハ、汛防ニ對シ土匪等ノ嘯集アレバ知照シテ協力之ヲ鎮定シ、若クハ、其汛防ニ於テ捕縛セル犯罪者ヲ受領ス、

地保若クハ保甲聯庄ニ於ケル自治警察ニ對シテハ、全然監督命令ノ權ヲ有ス、則チ地方長官ハ自治警察ヲ該地保若クハ保甲ノ機關ニ命令シテ施行セシムルモノナリ、

第三款、警察處分トシテ、律ニ問フモノ、外ニ説諭、叱責、拘禁、監視、罰金、放逐、面刺、杖枷ヲ科シ、及ヒ警察命令ヲ導奉セルモノニハ賞與ヲ給セリ、是レ支那政治ノ特質ニシテ必竟其道徳主義勸善懲惡ニ由ルモノニシテ抑モ行政ト警察トヲ混同スルガ故ナリ、

又杖架、面刺放逐ハ刑罰ノ本刑又ハ附加刑ナルコトアリ、故ニ

其刑罰ナルヤ警察處分ナルヤヲ判明ス可ラズ、是レ警察ノ司法事務ト區分ナキ所以ニ基クモノナリ、

臺灣ニ於テハ、刺水放逐トテ刑罰以外ニ一定ノ職ナキ無賴漢ヲ面刺シテ内地ニ放逐シタルコトアリ、是レ竊盜又ハ充軍ニ附加セル刑罰ト異ニシテ、警察上ノ嚴酷ナル豫戒處分ト云フ可キモノナリ、

又監視トテ、無賴漢ヲ其宗族、長老、里正統理地保等ノ村役人ニ托シ之ヲ監督セシメ、連帶ノ責ヲ有セシメタルコトアリ、是レ又タ刑罰ノ附加刑ナル監視ト異ニシテ、一種特別ナル警察處分ト云フ可キモノナリ、

第四款警察事務

第一條行政警察ト認ム可キモノ。

(一)救失火、失火ヲ救フハ兵房ニ於テ取り締マリ、保甲ニ委シテ其救助方法ヲ盡サシム、甲長保正ノ家ニハ每家門

首ニ其救火器械ヲ備ヘシメ、能ク救火ヲ爲シタルモノニハ賞與ヲ給セリ、

(二) 救生船、救生船ハ水難ノ際溺水者ヲ救助セシメンカ爲メ、海岸若クハ江岸ノ地方ニ命シ義捐シテ船隻ヲ準備セシメ、水難ノ際救助ニ従事セシメ、能ク之ヲ救フモノニハ賞與ヲ給セリ、工房ノ取り締マル所ナリ、

(三) 捕蝗蝻、田野ニ生セル蝗虫ヲ驅除スルモノニシテ、或ハ城祀廟ニ祀請シテ其掃空ヲ求メ、又ハ百姓ニ命シ火ニテ燒キ鳴鑼シテ追ヒ、又ハ人ヲ募リテ之ヲ捕ヘタルモノニハ其割ニ應シテ粃米ヲ給セリ、兵房ニ於テ之カ取り締リヲナセリ、

(四) 察渡津、渡河場ニ一定ノ規則ヲ設ケ、官渡ニハ官田ノ收入ニヨリテ其費ヲ支出シ、渡河者ニ渡錢ヲ徴セズ、民渡ニモ一定ノ限ヲ設ケ、過多ノ渡錢ヲ徴スルヲ得ズ、以

テ渡河者ノ便ヲ達スルニ在リ、若シ禁ヲ侵シテ強請スルモノアルトキハ枷示ヲ科シタリ、工房ニ於テ之カ取り締リヲナセリ、

(五) 查盜賊盜賊ヲ弭ムル爲メ保甲聯庄ニ委シテ自治ノ警察ヲ爲サシムルノミナラズ、汛防ノ武辨又查察ノ責アリ、地方官廳警察ニ至リテハ又皂隸ヲシテ巡查セシメ、馬快ヲシテ暗偵セシム、刑房ノ司トル所ナリ、

(六) 查賭博、保甲ヲシテ戸毎ニ賭博ヲ查シ、之ヲ禁ゼシムルノミナラズ、巡路ノ捕壯(皂隸歩快馬快)ヲシテ地保ト協力シテ拿獲セシム、所甲ノ甲長保正ハ連帶ノ責ヲ免ル能ヘズトセリ(捕フルニ先チ先發スルモノハ此限ニ在ラズ)、刑房ノ司トル所ナリ、

(七) 驅娼妓、娼妓ハ盜賊ノ窩家ナリトシ、風俗上ヨリモ保安上ノ見ニヨリ之ヲ驅逐セリ、通例保甲ヲシテ其責ニ任

シ之ヲ驅除セシムルノミナラズ、汛防モ亦タ此責アリ、地方ニ至リテハ捕壯(歩快馬快)ヲシテ之ヲ驅除セシメタリ、刑房ノ司トル所ナリ、

(八) 察棍徒、地方廳ハ保甲ニ命シテ戸毎ニ棍徒ヲ查察セシムルノミナラズ、又タ之ヲ監視セシメ或ハ其棍徒ノ宗族アルモノハ宗族ニ托シテ監視セシム、監視ノ責ヲ盡サザルトキハ保甲又ハ宗族ハ連帶ノ責アリ、監視スル能ハザルトキハ其旨ヲ上申セシメ地方廳ニ於テ之ヲ面刺シ清國ニ放逐セリ、刑房ノ司トル所ナリ、

(九) 查船舶、船舶ヲ查察スルノ海防警察ノ責ナレド、茲ニ云フ查察ハ其造船ノ手續ヲ丁重ニシ(交通事務中ニ説ク所ノ如シ)、海外ノ渡航免狀ヲ嚴徴スルコトニテ、國初臺灣ニ於テ臺防廳專ラ其取締ニ任シタリ、則チ地保先ヅ身元保證ヲナシ、縣ニ於テ證明ノ烙印ヲ與ヘ、且ツ船籍ノ證明

狀ヲ下附シ、更ニ之ヲ海防廳ニ齎ラシテ實地ニ就テ臨檢シ、差ハサルトキハ更ニ海外渡行免狀ヲ下附セリ、是レ船舶ガ特ニ海賊ノ巢窟ナルヲ以テ之レガ警察ヲ嚴重ニシタルモノナリ、

(十) 查行旅、保甲ニ命シテ宿泊ヲ查セシメ届出ヲ要セシム届ケ出デザル時ハ罰アリ、刑房ノ取締ル處ナリ、

(二) 察渡航、臺灣ニ渡航スルニハ、臺廈廳ノ(則チ廈門ニ於ケル道臺衙門)證明ヲ要シタルノミナラズ、國初臺地ニ渡リタルモノハ家眷ヲ招致スルコトヲ禁ゼラレタリ、潛渡者ニ就テハ嚴重ナル規定アリ、察ヲ失フノ所在地方官及ヒ汛防ハ其責ニ任シ、渡臺者ハ元ヨリ其之ヲ渡スノ船主等ハ又タ嚴刑ニ處セラレタリ、臺灣ヨリ内地ニ渡ルモ亦タ然リ、内地ニ在リテハ臺廈廳臺灣ニ在リテハ臺防廳(後ニ至リテハ地方廳)之ガ取締ヲナセリ

- (三) 査鹽業、鹽業ハ官業ナルヲ以テ、之ヲ査察スルハ警察ノ重モナル事項ナリ、捕壯皂隸巡邏シテ之ヲ査察ス、戸部ノ取り締ル所ナリ、
- (三) 査姦情、姦情ハ風俗上ノ取り締リニシテ、著シキモノハ婦女ノ寺廟ニ參シテ燒香スルヲ禁シ、三姑六婆司姑尼始道姑賣花媒人剃頭士產屋婆ノ人家ニ出入シテ媒介ヲ爲スヲ禁シタリ、然レ是レ多クハ有名無實ニ屬セシト云フ刑房ノ取締ル所ナリ、
- (四) 察奴僕、奴僕ハ社會的人格ノ權利ナキモノトシ、主人之ヲ凌錮スルヲ清國及ヒ臺灣ノ常慣ナリ、故ニ地方官ハ曉諭ヲ示シテ之ヲ禁ゼリ、刑房ノ司トル所ナリ、
- (五) 査水利、水利堤防ヲ破壊スルモノヲ査察ス工房ニ於テ取締マル所ナリ、
- (六) 察路樹、道路ノ並木ヲ折リ刈ルヲ禁ズ、工房ニ於テ取

締ル所ナリ、

- (七) 察火器、銃器彈藥硝藥ハ、臺灣ニ在リテ製造ヲ禁止セリ兵房ニ於テ取締ル所ナリ、
- (六) 察竹筏、大竹輸出ハ、同シク禁スル所ニシテ、之ヲ筏ニシ海賊ノ用タラントヲ患フルカ故ナリ、工房ニ於テ取締レリ、
- (五) 査屠牛耕牛ヲ屠ルハ、同シク禁ズル所ニシテ牛ハ農耕ノ要ヲ爲スモノナルカ故ナリ、之ガ禁ヲ犯スルハ刑法上ノ刑罰アリ、兵房ニテ之ヲ取締レリ、
- (三) 査典當、典當商ハ特別ノ人ニ許可ス、收稅上ノ關係ヨリ戸房ニ於テ取締レリ、
- (三) 察鍛部、鍛冶屋ハ全臺ニ二十七戸ト定メタリ、銃器製造ノ恐レアリタルガ故ナリ、兵房ニ於テ取締レリ、
- (三) 察米商、米六十石以上ヲ輸出スルコトハ禁スル所タ

リ、或ハ防穀令ヲ出シテ全ク其輸出ヲ禁スルコトアリ、戸房ニテ取締レリ、

(二) 察冶工、銀細工屋ハ、特別ノ人ニ許可ス、假銀若クハ私鑄ノ恐レアルガ故ナリ、刑房ニテ取り締レリ、

(三) 察出板、出板ニ就テハ官文書ハ凡テ私ニ刊行スルヲ許サズ、又猥穢ノ書畫ハ出板ヲ禁止セリ、著書ニ就テハ知縣ニ草按ヲ呈シ、北京禮部ノ認可ヲ經テ刊行スルヲ得

保安警察

第二條高等保安警察ト認ム可キモノ
(一) 禁邪教、白蓮(天主教)、無爲(老子教)、皇極(道士教)、大乘(佛教)ハ、儒教ナル王教(國教)ノ一ナリニ反スルモノトナシ、其集會若クハ宗團ヲ爲スヲ禁ズルニ在リ、乾隆帝ノ如キハ嚴ニ佛教ヲ禁シ、人ノ僧トナルヲ准サザリシト雖モ有名無實ニ流レ、實行セラル、一ナシ、刑房ノ司トル所ナリ、

- (二) 禁淫祀、五壇ヲ除クノ外(儒教ノ主旨ニヨレル祀廟ハ無論除外ナリ)、淫祀ヲ毀ボチ、以テ人心ノ迷ヲ開クト云ニ在リト雖モ亦有名無實ニ流レタリ、刑房ノ司ル所ナリ、
- (三) 查會匪、會匪トハ紛擾ヲ計ルヲ目的トシテ集會結黨スル者ニシテ嚴禁スル所ナリ、兵房ニ於テ司トル所ナリ、
- (四) 嚴海防、海防警察ハ臺灣ニ於ケル高等保安警察ノ一大要欵ニシテ、常ニ汛防ト協力シ船ヲ海岸ニ浮ベテ查察シ、船舶ヲ取り締マリ、清國ヘノ旅行及ビ清國ヨリ臺灣ニ移住スルモノヲ嚴重ニ查察セリ、蓋シ國初ニ於テ海防ガ臺灣ノ一大要務タリシヲ其ノ海島ナルガ爲ニ海賊ノ窺視スルヲ恐レタルニヨルモノナリ、之レガ爲ニ國初ニハ當時臺灣唯一ノ海港ナル安平地方ニ鹿耳港ニ海防同知廳ヲ置キ、水師汛防ト共力シテ查察セシメタリ、
- (五) 蕃界警察、是レ亦タ臺灣ニ於ケル高等保安警察ノ要

欸ニシテ國初外蕃人ノ來侵ヲ拒クニハ汛防ヲ置キ、後官
隘民隘ノ制ヲ見ルニ至リ、劉銘傳ノ時ニ至リテハ隘勇ノ
制ヲ布ケリ、内人民ニ對シテハ蕃界ニ入ルヲ禁ジ、地方官
ニ連帶ノ責ヲ帶ハシメ、後ニ至リ土牛紅線ヲ作りテ蕃界
ヲ限リタレド共ニ有名無實ニ屬セシモノ、如シ、

(六) 禁分類、是レ亦タ臺灣ニ於ケル高等保安警察ノ一大
要欸タリ、分類ノ爭端トナレルコトハ本籍朱一貴ノ亂記ニ
於テ、若クハ咸豐年間分類爭鬪ノ記事ニ於テ詳記スルガ
如クニシテ、臺灣ニ在リテ悍桀ナル閩粵異種族ノ移殖セ
ルコトハ、分類ヨリ爭鬪ニ、爭鬪ヨリ反亂ヲ惹起スヲ常ト
セリ、之ヲ鎮壓スルニハ通例地方官ガ説諭ヲ加ヘタルモ
ノ、如シ(蓋鼎元ガ閩與人ヲ慰解セルノ書婁雲ガ分類ヲ和
解セルノ跡等ヲ見テ之ヲ徵ス可シ)、而已ニ制ス可ラサル
ニ至ル片ハ汛防ト協力シテ鎮壓ス、而ルニ其鎮壓ニ際シテ

第三條 司法警察

シテハ何レカ一方ヲ味方トシ名ケテ義民ト呼ビタリ、蓋
鼎元ガ記事ニ粵民ハ數々亂階トナリ又義民タリト云フ
モノハ是レナリ、

司法警察ガ保安警察ト分ル、處ハ、犯罪ノ有無ノ限界ニ
在リ、然レ支那ニ於テハ行政ト司法ノ區別ナキガ故ニ、
之等ノ限界ハ全ク支那ニ於テ欠ク所ナリ、隨テ之ヲ判別
スルノ要ナシト雖モ、其事務ノ何如ヲ見ンガ爲ニ分別セ
シノミ、
犯罪アルトキハ地保及ビ犯罪所在地ノ隣保甲長保正ヘ之
ヲ告發スルノ責アリ、而シテ被害者ノ親族モ亦タ告訴ス
ルノ責アリ、而シテ其告訴ト共ニ犯罪者ヲ指名スルヲ例
トセリ(是レガ爲ニ事實ヲ捏造シテ誣告スルモノ比々疊見
セリ)

又村内ヨリ盜賊ヲ生ズルルハ村内ノ保甲ヲノ搜索捕縛スルノ責ヲ有セシメタリ、

告訴告發アルルハ直ニ步快(輕罪ヲ探偵ス)馬快(重罪ヲ探ル)ヲシテ犯罪者ヲ搜索シ拿捕セシム、地保モ亦タ協力スルノ責アリ、地方官ハ又タ刑律ニ於テ債負契約ニ關セル物權上ノ一若クハ婚姻繼立ニ關セル人事上ノ一ヲモ規定スルガ故ニ、之等私法上ノ一ニテモ被告ヲ拘引捕縛拘禁スル一ヲ得ルモノナリ、

第四條戰時戒嚴ノ場合ニ於テハ、汛防綠營專ラ其地方ノ責ニ任シ、又地方官ハ團練兵ヲ組織シテ戒嚴ヲ施行セリ、

第二項汛防警察

第一款其組織ハ兵備ノ部ニ説ク所ノ如シ

第二款其處分權ハ抗抵スルモノヲ杖擊シ打殺スト雖モ捕縛後ハ之ヲ處分スルノ權ナク、縣衙ニ送レリ、然モ兵丁ノ犯罪ニ

戰時戒嚴
汛防警察

テハ其所轄營ニ於テ之ヲ處分セリ、

第三款警察事務ハ盤查奸細(土匪ノ密偵)、護送行旅(行旅ノ安全ヲ計ル)嚴拿惡棍(惡漢及犯罪者ヲ拘引捕縛ス)、驅逐流娼ナリ、其門頭之ヲ四書スルノ四大牌ヲ掲ク、

此外臺灣ニ在リテハ專ラ海防警察蕃界警察ヲ司ドレリ、安平水師副將ノ重鎮ヲ安平ニ置キタル、南路營ガ其阿里港汛ヲ嚴ニシテ山猪毛蕃人ヲ拒ギタルガ如キ是レナリ、後ニ至リ蕃界警察ハ隘丁ノ專務トナルニ至レリ(乾隆五十三年)

第三項地保警察

第一款地保ノ組織權限ハ自治制度ノ部ニ説ク所ノ如シ、

第一款其警察上ノ任務ハ、司法警察ノ幫助及ビ犯罪ノ告發障檢ヲ爲ス、及ビ保甲ノ長ト共ニ不善ノ徒ヲ查察スル、其他營業上ノ取締リニ關シ又身元保證ノ責ニ當ル、是レ也、

第四項保甲警察

三
地保警

四
保甲警

保甲聯庄制度ハ、本史中康熙六十年後ノ記事其他ニ詳カナルヲ以テ、今單ニ其事務ノ要領ヲ摘記スレバ戸口編制民農事務ノ中ニモ説ケリ、旅人查察、失火、救水(地方廳警察ノ中ニ説ケリ)ノ行政警察ト、盜賊防禦捕縛、棍徒查察告發、城廂巡守警戒ニ任ゼシムル者タリ、

保甲ト聯庄トノ差ハ、保甲ハ戸口單位ノ編制ヨリ成リ、聯庄ハ町村集團ノ聯合ヨリ成ル、モト保安警察ノ保甲ニヨリテ力足ラサルニ及ンデ聯庄制度ヲ施シタルモノニ外ナラズ、然レ保甲制度ハ行政警察ヲモ行ヘテ、聯庄制度ハ專ラ保安警察ニ任ズルノミ

又保甲聯庄ハ己ニ本史第五章ニ説ク如ク、國初ニ於テ施行セラレタルノ跡ナシ、康熙六十年朱亂善後ノ策トシテ行ハレタルモノニシテ、而モ一弛シテ常ニ勵行セラレタルモノト認ムル能ハズ、蓋シ依ツテ以テ上政府ノ行政散漫ニシテ下人

民ノ公共ノ精神ニ乏シキヲ窺フニ足ルモノナリ

第七章 中世紀

臺灣清領
トナルノ
起源

康熙二十二年（西曆千六百八十二年）、提督施琅鄭氏ヲ亡シテ臺灣ニ屯レ以テ鎮撫ニ從事ス、實ニ今ヲ去ル二百五十年前トス、

臺灣創業ノ功ハ、福建布政使姚啓聖及ビ水師提督施琅ニ負フモノ多シ、初メ鄭氏ノ昌盛ヲ極ムルニ當リテハ、破竹ノ勢アル清軍モ閩海一帶ヲ一拋シテ其蹂躪ニ任カセ、邊民ヲ移シ地ヲ清フシテ以テ其銳鋒ヲ避クルノ已ム可ラザルニ至レリ、已ニシテ康熙帝位ヲ嗣ギ、退嬰主義ノ邊患ヲ絶ツ所以ニアラザルヲ思ヒ大舉鄭氏ノ本據ナル臺灣ヲ擣カントスルノ意アリ、是ニ於テ姚啓聖ヲ福建布政使ニ任シテ之レヲ圖ラシム、是時ニ當リ鄭氏ハ尙金門廈門ヲ占踞シテ處々ニ海鎮ヲ置キ、首尾連貫シテ勢尙ホ猖獗ヲ極メシカバ、啓聖ハ漳州ニ至リ、盛ンニ招降ヲ行フテ眞僞トナク之ヲ容レ、以テ鄭氏ヲシテ内疑ヲ生セシメ、次デ朱天貴ヲ致シテ其計ヲ用ヒ金門ヲ回復セシカバ、鄭氏ハ、遂ニ澎湖臺灣ニ退キ、閩海一帶ハ漸ク清領ニ歸セリ、已ニシテ又々鄭氏ノ將施琅ヲ致シ、上請シテ之レヲ内大臣ニ昇任シ、討臺ノ舉ハ遂ニ之レニヨリテ成ル

國初ノ招降政略

ノ源ヲ開ケリ、
 施琅ハ、明敏周到ノ老將ニシテ康熙帝ノ優渥ナル知遇ニ感シ、内大臣ヲ以テ水師提督ヲ兼任セラル、ヤ、舊部下ヲ招集シ兼テ反間ヲ放チ成功經ノ相嗣テ死シ、克峽立チテ年少ニ國軒補佐トナリ大ニ嚴刑ヲ用ヒ少主ノ威ヲ立テ、將士疑懼ノ色アルヲ窺ヒ、大舉シテ舟師ヲ用ヒテ之ヲ澎湖ニ破リ、遂ニ克峽國軒等ヲ降シテ鄭氏六十年ノ功業ヲ覆ガニセリ、其招降政略ヲ見ルニ、頗ル度量ノ寬濶ト手段ノ敏活ナルヲ見ル可キモノアリ、敵兵ノ傷者ハ醫藥ヲ給シテ之レヲ救助シ、降者ハ衣領飲食ヲ給シテ之レヲ逆用シ舊ニ安ンジテ農耕ヲ爲サシメ、又タ克峽ヲ公爵ニ其將馮錫范及ビ劉國軒ヲ伯爵ニ封ジ、殊ニ國軒ヲ天津總兵ノ職ニ任シ、且ツ成功經ノ柘ヲ南安ニ歸葬シ奉祀スルヲ准ス等、(康熙二十九年)突昨ノ間ニ恩遇ノ隆ヲ加ヘ、其君民ヲ籠絡シテ反抗ヲ思フノ由シナカラシメタリ、思フニ六十年海島唱義ノ鄭氏君臣相頼ルノ久且固ヲ解キテ、一蹶シテ立ツ能ハザラシメシモノハ豈ニ康熙帝ガ度量ノ大ト、施琅ガ手腕ノ敏ナルニ因ラザルナキヲ得ンヤ

國初治臺ノ政略

臺灣國初ノ行政機關

尙治臺ノ政策ヲ見ルニ、寬猛兩劑シ、恩威並行ノ概アリ、地租ヲ全免シ稅率ヲ輕減スルガ如キ、一萬ノ武備水師ヲ常設スルガ如キ、(當時ノ人口ハ)、施琅ノ上奏文ニヨルニ、約三萬人、國初戶籍調査ニヨルニ、約一萬六千餘人ニ對シ、一萬ノ武備ハ、眞ニ過大ノモノタリ、然レモ多年海寇ノ味ヲ飽喫シタル清朝ハ、此過大ノ武備ヲ設ケテ海寇ノ本源ヲ絶ツノ意ニ急ナリシヲ見ルナリ、海禁ヲ嚴ニシタルガ如キ、政治機關ヲ周密ニシ、行政事務ヲ振張シタルガ如キ、皆此消息ヲ見ルニ足ルモノナリ、而シテ史ノ記スル所ニヨレバ、以上ノ設計ハ姚啓聖及施琅ノ上奏意見ニ基キ康熙帝ガ英明ナル裁斷ヲ加ヘタルモノト認ム可シ、是創業ノ功、啓聖、琅ニ負フモノ多シト云フ所以ナリ、
 康熙二十三年、詔シテ東寧ノ名ヲ改メテ、臺灣トナシ、分巡道一員ヲ置キ、臺厦兵備道ト稱シ、厦門及ビ臺灣ヲ半年毎ニ交代シテ駐在シ、外、福建布政使ニ隸屬シ、内、文武ヲ總督シ、行政及ビ武備ノ責ニ任ンジ、且ツ學政使及按察使ヲ兼テ、學政及ビ司法ヲ司ドラシム、

一府三縣
畫ノ行政區

武備ノ大
略

更ニ道臺治下ノ行政區畫ヲ一府ニテ總轄シ、臺灣府ト呼ビ、臺灣郡城ニ駐在シ又府治ヲ分ツテ、臺灣、諸羅、鳳山ノ三縣治ニ分テリ、而シテ各府縣ニ屬スルニ教授ヲ以テシ、縣下ノ學政ヲ司ドラシメ、學官及文武廟ヲ建テテ之ニ附屬セシメタリ、

別ニ海防同知廳アリ、水師ノ汛防ト協力セシメ、海岸防備上ノ行政ヲ管理セシメタリ、

武備ハ、道臺ノ下ニ隸スルノ總兵ヲシテ之レヲ總轄セシメ、更ニ守備管區ヲ、府城、安平、南路、北路、澎湖ノ五管區ニ分チ、水師副將ニ、參將ニ、以下兵員約一萬ヲ以テ之レニ配布シ、且ツ之ヲ各地ニ小分シ、汛防トナシ、警察ノ任務ヲモ行ナハシメタリ、

以上文武ノ諸官ヨリ、兵丁ニ至ルマデ、皆ナ三年更替ノ例ニヨリ、内地ヨリ換班渡來セルモノニ係レリ、其文武行政機關ノ組織、及ビ行政事務ハ清國ノ制ト同シ、(以上詳細ハ附録ニ在リ、參照、)

康熙二十六年、福建省、福建鄉試ニ、臺灣在住人ノ登榜スルコトヲ准ス、是レヨ

文部官ノ
在臺年限

リ先キ、歲科二試ヲ設ケタリシカ、今又タ鄉試ニ登ルコトヲ准セルナリ、此年、又タ道臺ノ毎三年ニ一回、管内ヲ巡視スルノ例ヲ定ム、

康熙二十八年、鳳山縣ニ、社學一ヲ設ク、臺灣縣、又タ社學一ヲ設ク、前二十年設立ノモノト合セテ二ナリ、

康熙三十年、臺灣各文官ノ在臺任官期限ヲ定メテ三年トシ、清國內地ノ各相當官ヲ以テ更替スルノ令ヲ定ム、是ニ依ツテ、道臺ハ又タ三年間臺灣ニ駐在スルコトナレリ、

康熙三十四年、葛瑪蘭ノ社蕃、貢ヲ諸羅縣ニ獻ス、

葛瑪蘭ハ、蛤仔難ト呼ビ、今ノ宜蘭ノコトニシテ、當時三十六社アリ、嘉靖年間、林道乾、曾テ蘇埃ニ竄泊セシコトアルノ外、絶ヘテ外界ト關係スルコトナシ、海岸ハ風波荒ク、陸路ハ榛荆滿チテ、海陸共ニ交通ノ不便ヲ極タレバ、此ニ至ツテ其貢ヲ獻ンスト云フモ、一定ノ例規ニ依ルニアラズ、恐クバ尙ホ今ノ蕃人ガ、山ヲ越ヘ溪ヲ過キテ人界ニ出テ、貿易ニ來リタルガ如キ乎、然レテ蘭地ヨリ諸羅縣ニ至ルハ、思フニ極難ノ事ナリシナラン、是レヨリ三十

吳球ノ亂
ハ朱ノ
伏線ナリ

年後、藍鼎元ノ東征記事ニ依レハ、曰フ、雞籠以外路ノ行ク可キナク、又タ
 澳ノ泊スベキナシ、惟夏月風靜ナル時ヲ待チ、小舟ニ乘リ、海邊ニ沿フテ行
 ク。一日ニシテ三朝社ニ至リ、三日ニシテ蛤仔難ニ至ルト記セリ、
 康熙三十五年、新港、東田尾ノ民、吳球ナルモノアリ、朱祐龍ト計リ、朱ヲ以
 テ明帝ノ後裔ナリト稱シテ、亂ヲ謀ル、謀熟セズシテ敗レ、忽チ蕩平セラル、
 此吳球ガ明ヲ以テ樹旗ノ號トセルハ、尙ホ當代ノ遺民、明ノ治ヲ思ヒタルヲ
 推見スルニ足ル、究竟六十年朱一貴大亂ノ伏線トシテ見ル可シ、
 康熙三十六年、臺灣鄉試舉人ノ定額ハ、在來一員ノ定メニシテ、福建鄉試中ニ
 臺字號トシテ編入セラレシカ、是ニ至リ總督郭世儀ノ奏ニヨリ、臺字號ヲ廢シ
 福建鄉試中ニ編入シ、別ニ定員ヲ赴ケサルトナレリ、(雍正十三年及乾隆元年
 ニ至リ更ニ復歸一員ノ定トナス)
 康熙三十八年、吞霄社蕃目(酋長)卓个、卓霧、北投社ノ蕃目冰冷ト通シテ、
 人ヲ殺シテ官ニ抗ス、
 初メ、通事黃申ナルモノアリ、吞霄ニ在リ、賦役ヲ課シ金錢ヲ索ムト虛日ナ

國初撫蕃
ノ狀

シ、土蕃之ニ堪ヘズ遂ニ之レヲ殺シ、併セテ其徒數十人ニ及ブ、鎮、道、之
 レヲ聞キ使ヲ遣ハシテ招諭セシメタレドモ、入ルコトヲ得ズ、次テ北投社ノ氷
 冷又タ人ヲ殺シ卓个ト相應シテ反抗ス、依テ兩標ノ兵ヲ派シ、北路參將常泰
 ヲ以テ之レニ將トシ、先ツ吞霄社ヲ征セシム、常泰ハ新港、蕭壠、麻豆目、
 加溜灣ノ四社ヲ教導トシ、進ンテ卑个等ヲ攻ム、卑个等能ク之ヲ防キ教導ノ
 四番死傷甚ハタ多シ、依テ更ニ岸裏社番ニ賄ヒ其後ヲ襲ハシメ、遂ニ之ヲ平
 ラグ、後冰冷モ亦タ水師把總ノ爲メニ破ラレ、蕃亂全ク平ラグ、然レモ此
 役ハ師ヲ勞スルコト七閱月、兵員ノ瘴癘ノ爲メニ死スルモノ數百人ニ上ホリシ
 ト云フ、之レ清軍討蕃ノ濫觴ナリ、
 尙當時ニ於テ歸化セシ生蕃ハ、總督覺羅滿路ノ奏文ニヨルニ、南路生蕃、山
 猪毛社等十社、四百四十六戶、老幼男女千三百八十五名、北路生蕃、岸裡社
 四百二十二戶、老幼男女三千三百六十八名トアリ、此南北ノ二蕃ハ、共ニ從
 來殺人獵頭ヲ事トシ、討伐ヲ行ヒタルコト已ニ前年ニ見フル所ナリシカ、此蕃
 社討伐ノ結果、大ニ威武ヲ輝カシタルガ爲ニ、漸ク招撫ニ就キタルナラン、

其之レヲ處置スルノ法トシテ記ス所ヲ見ルニ、各蕃會ノ約束ニ任カセ、之レヲ約束スルコトナク、又タ戶口ヲ編查スルコトナク、却ツテ兵民ヲ約束シテ其蕃界ニ入ルコトヲ嚴禁シ、事端ヲ擾生スルコトヲ杜ギ、從來交通ノ熟蕃ヲノミシテ舊ノ如ク貿易ヲ爲サシムルノミ、又タ其貢賦トシテハ、南北二路、毎年鹿皮五十枚（換銀十二兩）ヲ納メシメ、臺地兵餉ノ歲入ニ供シタリト云フト雖、是レ果シテ一定ノ賦稅ナリシヤ否ヤ、當時ノ局ニ當ル者ハ、招撫手段トシテ銀牌、衣帽、豚酒ヲ蕃人ニ與ヘ、殊ニ蕃酋ヲバ優待シタルノ事ヲ願ミルトキハ、物品交換タルノ狀アリ、殊ニ兵備ヲ戒メテ山猪毛蕃ニ對スルニハ南路岸ノ淡水汛、峙裡蕃ニ對スルニハ半線汛ノ舊汛ヲ以テシテ、舊ニヨリテ彈壓ニ資用シタリトアルヲ見レバ、名義上、歸化ノ美名ヲ誇ラントスルニアリタルカ如シ、是レ以テ當時ノ撫蕃狀態ヲ窺知スベキモノナリ、

劫却ノ亂

康熙四十年冬十二月、諸羅ノ劉却ナルモノ亂ヲ謀リ、四十二年擒ニ就キ誅ニ伏ス、却ハ無賴漢ナリ、平生武技ニ巧ミナルヲ以テ、無賴ノ子弟ト往來シ、約ヲ盟

ヒ黨ヲ結ヒシカ、妖說ヲ立テ、人心ヲ惑亂シ、十二月、其黨ヲ嘯聚シ、下加冬ノ汛營ヲ襲ヒ、進ンテ茅港ニ至リ、市中ヲ掠奪セシカバ、亂民起リテ之ニ隨ヒ、附近熟蕃亦タ之レニ應ジ、劫掠四出シテ、良民ノ之レカ爲メニ産ヲ破フルモノ甚ハタ多シ、已ニシテ急水深ニ屯據ス、北路參將白通隆鎮臺ノ遣兵ト共ニ之レヲ急水ニ攻メ、大ニ却ヲ破ル、却遁レテ蕃地ニ伏セシカ、十港ニ於テ擒ニ就キ一族共ニ斬ニ處セラル、

康熙四十三年、府城東安坊ニ崇文書院ヲ建ツ、乾隆十五年ニ至リ、新ニ海東書院ヲ建テ舊海東書院ヲ以テ崇文書院トナス、
 康熙四十四年冬饑フ、三縣ノ地租ヲ免ンス、
 康熙四十六年冬饑フ、社租十分ノ三ヲ免ンス、
 康熙四十八年諸羅ニ社學七ヶ所ヲ建ツ、彰化ニ社學一ヶ所ヲ建ツ、村塾ノ義ナリ、共ニ巡撫ノ諭旨ニヨリテ設立スル所タリ、
 同四十九年冬饑フ、
 同五十年地大ニ震フ、

康熙五十年萬壽宮中殿ヲ建テ朝賀ノ處トナス、巡道陳瓚ノ經營スル所ナリ、又此年文廟大成殿ヲ修理シ、啓聖祠明論堂等ヲ建設シ、又學院ニ附屬セシムルノ學田ヲ置キ以テ其經費ニ充ツ、之レ皆巡道陳瓚ノ創意ニ出ツル所、其後各縣皆ナ之レニ倣ヒ、獎學ノ風之レヨリ起レリト云フ、(陳瓚ハ臺灣吏治第一名ノ稱アリ、試業ニ公平ニシテ官務ニ清廉ニ官莊ノ歲入ヘ一切公ニ歸シテ秋毫私スル所ナク、道路橋梁水利開拓ノ事務ニ就テモ熱心開導スル所アリタリト云フ、五十一年全臺ノ地租ヲ免ス、)

康熙五十二年彰化ニ倉敖ヲ設立ス、康熙五十二年人頭稅額ヲ定限シ、五十年ノ人口ヲ以テ定メトナシ、以後人口増殖スルモ課稅セザルトセリ、(人頭稅一丁ニ付四錢八分六厘、番丁ハ此限ニ非ズ)

康熙五十三年秋大ニ旱ス、臺灣鳳山ノ地租十分ノ三ヲ免ス、五十四年秋九月大風及大震アリ、五十六年冬饑フ、地租十分ノ三ヲ免ス、

康熙五十六年、澎湖城ヲ築ク、總督覺羅滿保ノ、巡撫陳瓚ト議シテ建ツル所ナリ、

康熙五十七年、淡水ニ(今ノ八厘至)淡水營守備ヲ設ク

是レヨリ先キ、陳少林建議シテ、淡水ヲ以テ咽喉ノ地ナリトナシ、營成ヲ置カンコヲ請フ、是ニ至テリ内地ヨリ兵員ヲ増遣シテ、淡水ニ守備營ヲ置キ、遙ニ諸羅北路ニ接應セシム、蓋シ滬尾港頭、舟楫ノ便ヘ移民ノ繁殖ヲ促シ、移民ノ繁殖ハ、保護守備ノ急ヲ感セシメ、陳少林、當年ノ議論ヲ實行セルニ至レルナリ、

其編制兵員左ノ如シ、

守備一員、千總一員、抱總二員、步戰守兵五百名、

康熙六十年四月、朱一貴ノ亂アリ、

一貴ハ、長泰ノ人ナリ、游手無賴ニシテ、臺灣ニ渡リ、差役トナリシカ、免ゼラレテ、鴨ヲ飼ヒテ生ヲ計ル、奸民ノ來リテ過キルモノアレハ、一貴、輒チ鴨ヲ烹饌ヲ具ヘテ之ヲ款待シテ歡ヲ盡セリ、時ニ承平日久シクシテ守備解

類シ防警廢弛ス、一貴心ニ之レヲ輕ンズ、是歲鳳山令欠ケ、知府王珍縣篆ヲ攝シ、政ヲ次子ニ委テ、收儉ヲ極メ、數々羅織シテ獄ヲ作コシ囚繫スルモノ百餘人ナリ、奸匪之ヲ口ニ籍キテ人心ヲ搖惑ス、黃殿ナルモノ鳳山羅漢門ニアリ、惡少年李勇、吳水、鄭定瑞等ト約シテ一貴ヲ見テ、曰ク、今地方長官ハ、但賭博ニ沈湎スルヲ知ルノミ、兵民瓦解セリ、大事ヲ舉ントスルハ此レ其時乎ト、一貴曰ク然リ、吾姓朱ナリ、若シ明裔ナリト云フヲ以テ鄉村ヲ登カサバ、從者必ラス多カラシ、皆曰ク可ナリト、一貴ヲ推シテ渠首ト爲シ職ヲ立テ大元帥ト書ス、朱、夜岡山ヲ出テ、諸汛ヲ襲劫セリ、南北路ノ奸民、共ニ蜂起シテ之レニ應シ、南路ノ徒ハ、參將苗景龍ヲ淡水ニ攻メテ景龍ヲ殺シ、北路ノ徒ハ、諸羅縣ヲ略奪シテ參將羅萬倉ヲ戕シ、賊將杜君英ハ鳳山ヲ襲ヒ、總兵歐陽凱、副將許雲等ト戰ヒテ之レヲ破リ陽凱許雲ヲ殺シ、勢破竹ノ如ク、兵丁又々内應スルモノ多ク、遂ニ臺灣府ヲ陷ル、道臺梁文煊知府王珍水師遊擊張聖王鼎等文武百官、皆官守ヲ捨テ、澎湖ニ遁ル、唯淡水守備陳策義民ヲ募リテ固守シ、滬尾ノ一角賊地タラサルノミ、朱、兵ヲ舉ケテヨリ

僅カニ七日ニシテ全臺殆ント朱一貴ノ手ニ落ツ、是ニ於テ朱自ラ中興王ト稱シ永和ト號シ、大ニ群賊ヲ封ズ、文武百官ノ澎湖ニ遁ルモノ、稟シテ急ヲ福建總督滿保ニ告グ、滿保變ヲ聞キ、廈門ヲ以テ臺灣ノ咽喉ヲ控制スルトナシ親シク廈門ニ駐シテ作戰計畫ヲ立テ、布政使沙木哈ヲシテ、延建以上ノ米ヲ督買セシメ、復タ檄ヲ浙江廣東兩省ニ移シテ、米ヲ廈門ニ運ヒテ、平糶セシメ、南澳ノ總兵藍廷珍ヲシテ、水師提督施世驥ニ澎湖ニ會シ、期ヲ剋シテ討戰セシム、時ニ淡水營守備陳策又々使ヲ遣ハシテ、援ヲ總督滿保ニ請フ、滿保乃チ金門守備李燕、北路營守備劉錫等ヲシテ、海路淡水ニ星赴シテ應援セシム、世驥ハ、廷珍ト澎湖ニ會シ、兵三萬、戰艦二千六百艘ヲ率ヒテ發ス、時ニ賊中内亂起リ、加フルニ淡水ニ在リテハ、陳策、鄉勇ヲ招集シテ要害ヲ固守シ諸羅ニ在リテハ、義民興起シテ縣城ヲ興復ス、施驥等、又々鹿耳門ニ上陸シ直ニ賊ヲ破リテ安平鎮ヲ復シ、則チ令ヲ下シ殺掠ヲ禁シ、檄ヲ傳ヘテ招降ス、閩里ノ百姓、所在大清良民ノ旗ヲ立テテ風ヲ臨ンデ降ル、廷珍、進ンテ

朱一貴ノ反亂ハ性質ハ反亂ノ明證ナシ
匪亂ハ性質ハ反亂ノ明證ナシ
匪亂ハ性質ハ反亂ノ明證ナシ
匪亂ハ性質ハ反亂ノ明證ナシ

府城ヲ復シ、世驃モ亦タ西南ノ賊ヲ破リテ之ニ會シ、朱ノ黨遂ニ四散ス、廷珍、乃チ遊擊張賊ヲシテ、淡水營守備陳策ニ會シテ上淡水ヲ狹攻セシム、一貴乃チ灣裏涇ニ走ル、義氏之ヲ溝尾庄ニ圍ミテ之ヲ擒ニス、杜君英次テ復タ降ル依テ之ヲ京師ニ檻送ス、次テ遊擊謝希賢ヲシテ復タ兵ヲ率ヒテ陳策ト會シテ半線ヲ平ケシム、是ニ於テ北路二百里諸羅ヨリ淡水ニ至ルナリ悉ク平安ニ歸ス、

此朱一貴ノ反亂ハ、臺灣國初ノ大亂ニシテ、其源因ヲ研ムルトキハ、臺灣匪亂ノ性質ヲ明ニスルヲ得可シ、何ントナレハ臺灣ノ匪亂タルヤ、二百年來、連續シテ一興一朴シ、而シテ其各亂ノ性質ハ略ホ相似テ、恰モ臺灣ニ於ケルノ間歇的マラリヤ症ト云フ可キモノナレハナリ、而シテ之ヲ考查スルニハ、却ツテ國初ノ出來事ニ就テ觀察スルトキハ、一屬之ヲ明瞭ニスルヲ得可シ、何ントナレバ凡テノ病症ハ其初發ノ時ニ於テ尤モ其近接セル症候ヲ認メ易キカ故ナレハナリ、此レニ依ツテ之ヲ查スル時ハ(一)民族ノ種類、(二)其結果、(三)思想、(四)氣候及ヒ土地、(五)境遇、(六)行政ノ腐敗、軍務ノ廢頽ヨリ來ルヲ見

朱一貴反亂ノ原因

臺民ハ鄭多シノ遺民

ルベキナリ、

(一) 民族ノ種類

臺灣匪徒ノ性質ヲ研ムルニハ民族ノ種類ヲ研ムルヲ以テ必要ナリトス、蓋シ朱亂ニ於テモ見ルガ如ク匪徒ノ勢ヲ得ルニ當リテヤ山河草木悉ク匪ニアラザルナキノ觀アリテ其匪徒ノ一朝一夕ニ起ルニ非ラサルヲ知ル可ク其臺灣民族ノ根底ニ發芽スルヲ見ルガ故ナリ、(諸反亂ニ於テモ悉ク然リ)而シテ臺灣ノ民種ヲ考查スルトキハ左ノ如ク分類ス可シ、

(甲) 鄭氏ノ遺民、提督施琅ノ鄭氏ヲ亡ボスヤ、其屯田兵ヲ内地ニ送還セルアリト雖モ、其招降ニヨレル官兵ニハ、請ニ任カセテ臺地ニアリテ歸農セシメ、又タ其亡國ノ民タル鄭氏ノ民ハ舊ニ仍リテ農耕ニ從事セシメタリ、然ルニ此亡國ノ民ハ由來鄭氏トハ大地主ト小作人トノ間柄ナルノミナラス彼ノ官兵ト共ニ六十有餘年間鄭氏ノ恩澤ヲ被ムルモノナリ、惟施琅ガ國初ノ設計ノ、果斷且ツ周到ニシテ、恩威並行シ、以テ斯遺民ヲシテ舊ヲ思ヒ新ヲ厭フノ念ヲ起スノ違ナカラシメタリシモ、已ニシテ施琅ノ死シ、其

遺略ヲ襲行スルノ人ナキニ至リ、康熙三十六年、吳球ノ亂ニ於テ、已ニ朱ヲ以テ旗ヲ掲クルノ號トスルヲ見タリ、是レ豈ニ匪亂ノ鄭氏ガ遺民ニ原因スルノ徵證ニアラザランヤ、而モ是レ一縷ノ導火線而已、乃チ朱一貴ノ亂ニ於テハ、此導火線ノ破裂セルモノト謂フ可シ、朱一貴ノ語ニ曰フ、吾姓朱、以テ興ル可シト、思フニ、伺鴨ノ匹夫ヲ以テ、兔ニ角ニモ一萬餘ノ汛防ヲ連破シ、一府三縣ヲ足下ニ蹂躪シ得タルハ、此遺民ノ之レカ根底タルガ故ナランノミ、

其餘タトヒ此遺民ニアラサルモ、凡テ移住民ハ、多ク對岸大陸沿海ノ地方ヨリ渡臺シタルモノニシテ、而ノ對岸地方ハ、鄭氏ガ臺地ト等シク恩威ヲ並行シタルモノニアラサルナシ、故ニ其餘ノ民モ亦タ準遺民ト云フ可キモノナリ、

臺地ノ民
多シハ流民

且ツ全體ヨリ着眼シテ曰ヘハ、臺灣移住民ハ、北胡ヨリ(清國ヨリ)南方福建ニ壓迫セラレタル明代ノ遺民多クシテ、而ノ福建ハ澆頑ニシテ多數ノ人民ヲ收養スルコト能ハズ、而ノ之等多數ノ人民ハ、臺地ノ沃土ヲ望ンテ蟻集シ

臺地ノ民
多シハ流民

タルモノナレバ、全體ニ於テ、臺地ニハ明代ノ遺民多數ヲ占メタリト云フ可シ、鄭廟ガ臺灣南方ニ於テ崇尙セラレ、後年沈葆楨ガ人心収攬ノ爲メニ其廟ヲ建設シタルモノハ、鄭氏ノ遺澤深ク人心ニ銘シタルノ證ナリ、

(乙) 海賊ノ流亞、明末ノ航海貿易ハ、凡ヘテ海賊ニヨリテ行ナレタルノ觀アリ、殊ニ臺灣ハ、倭寇アルト蘭人タルト鄭氏タルトヲ問ハズ、皆其片手間ニ海賊ヲ營ミタルモノ、開拓セル所ナリ、思フニ、臺海一面風波穩カナラズ、龍鯨馳突スルノ間ニ於テ一葉ノ片舟ヲ馳セテ遺利ヲ天涯ニ求ムルハ海賊ニアラザレバ爲シ能ハザル所ナラン、而ルニ康熙帝ノ威武遠ク海隅ニ及ビ、水師ノ雄鎮臺灣及其對岸ニ連設セラレテヨリ、海賊ハ其根據ヲ失ヒ、跡ヲ晦マシ職ヲ轉ンセサル可ラサルコトナレリ、而ノ臺灣ハ之等海賊ニ向ツテ恰好ノ潛匿場ナリ、其海賊ノ流亞ガ、臺灣ニ移殖セシ事實ハ推シテ明カナリト云フ可シ、國利殊ニ海防ヲ嚴ニシ汛兵ヲシテ海面ヲ巡遊セシメ、又大竹ノ輸出ヲ禁シ、沿海漁業ノ取り締リヲ嚴重ニシタルガ如キハ則チ之レガ反證ニアラザル乎、理臺末議ニ其消息ヲ洩ラシメテ曰フ、將軍施

琅ノ世、奥中惠潮ノ民ヲ嚴禁シテ渡臺ヲ許サズ、蓋シ惠潮ノ地數々海盜ノ淵藪トナリテ而シテ積習未タ忘レザレバナリト、而シテ當時海禁嚴ナリト雖モ偷渡甚シカリシハ是レ又タ史ノ記ス所ナレバ、海賊ノ臺地移民ノ一部ヲ爲シタルハ明カナリ、

又赤崁筆談ニ云フ所ニ據レバ、贛港ハ捕魚ノ人ヲ招キテ賦稅ノ從ツテ出ツル所ナリト雖モ實ニ亦タ研究ノ由テ濕キ所ナリト、後年有名ナル蔡牽ガ耕具ヲ船ニ乗セテ蘇澳ニ拓殖ヲ計リタリシカ如キ、時勢ハ已ニ轉遷シテ企圖空シク違ヒタリト雖モ、亦タ以テ海賊ガ移民ニ變ンズル次第ヲ推測シ得ルノ證也、且ツ當時渡臺ノ移民ハ海賊ニアラザレバ則チ其流亞ナリ、凡ソ新開地ハ冒險慄慄ノ人民ノ拓殖ニヨリテ成ル、殊ニ臺地ハ怒濤澎湃ナル黄海ヲ經來セサル可ラズ、又タ新來シテ職ヲ求ムルヤ内ハ同類漢人間ノ生存競争ニ、外ハ蕃人驅除ニカメサル可ラス、況ンヤ草萊未タ開ケズ瘴癘シテ甚ハタ深キニ於テヲヤ、之レヲ望ンテ雲來霧集スルモノハ海賊ニアラズンハ又タ其流亞ノ多キハ自然ノ勢ナリ、名ケテ準海賊ト云フ可キ乎、朱亂

閩粵悍民
ノ分類ハ
如何ナリ

後裔時ノ經綸者ナル藍鼎元ガ數々臺地ノ逋逃ノ數ナルヲ苦言シ悍民ノ慄慄馴致シ難キヲ稱説シタルハ其消息トシテ見ル可シ、將タ移民ノ規則ヲ嚴重ニシテ船舶ヲ取り締リ、若クハ水師陸汛ヲ密ニシタルガ如キハ皆ナ之レカ反證ノ事實ナリ、故ニ海賊若クハ其流亞ハ臺灣移民ノ一部ヲ成シタルモノト云フ可シ、

(丙) 閩 (漳泉) 粵悍民、之レ海賊流亞ノ外ニ別ニ項目ヲ建ツルヲ要セサルニ似タレドモ、其結果ノ別ニ一種亂階ノ境遇ヲ開クモノアリテ宜シク匪端ヲ構成セルモノトシテ數フ可キナリ、蓋シ閩人ト匪人トハ其性質言語習俗ヲ異ニシタレハ、初メニシテ分類爭鬪後ニシテ匪徒嘯集タリシハ國初以來臺灣ノ常觀タリ、國初已ニ施琅カ惠潮民 (粵人) ヲ以テ悍風制シ難シト爲シテ其渡臺ヲ禁シタルハ、分類ノ亂階ヲ制セントシタルノ意ナルヲ知ル可シ、將タ藍鼎元ガ閩粵人ニ檄ヲ傳ヘテ以テ其分類ヲ融解シタルノ書ハ、以テ閩粵民ノ國初ヨリ亂階タルヲ見ルナリ、理臺末議ニ記ス所ニヨレバ、臺灣始メテ版圖ニ入りテ五方雜處ノ區トナリ、而シテ閩粵ノ人尤モ多シ、先

時郭逆海上ニ竊踞スルノ時其開墾ハ十二三ナシ、郭逆ノ平後ニ及ンテ招來シテ田ヲ墾サシメ賦ヲ報スルニ至ル、(中略)而ノ閩人粵人ト數相適フモ閩多ク散處シテ粵常ニ華居シ其勢常ニ敵セサルナリ、康熙辛丑朱一貴ノ亂ヲ爲シ事ヲ始ムルハ、謀リコト南路與莊中ヨリ出ダタリ、繼テ我師安平ヲ破リ市メテ政治ヲ復スルヤ、南路粵壯ハ則チ衆ヲ率ヒテ先ツ迎ヘ稱シテ義民トナセリ、粵壯ハ臺ニアリテ能ク功首タリ亦タ罪魁タリ云々トハ、詳カニ分類ノ亂階ヲ説キタルモノト云フ可シ、故ニ曰フ閩粵ノ奸民ガ分類ハ匪亂ノ端ナリト、(咸豐年間分類論參照)

(二) 其結果、

以上三項ノ民族上ノ關係ハ其結果トシテ第一項ノ爲メニ新ヲ厭ヒ舊ヲ思フテ亂ヲ企テシメ、第二項ノ爲メニ臺地俗習ヲシテ眼ニ法紀ナク慄悍ニシテ亂ヲ好マシメ、第三項ノ爲メニ分類爭鬪ハ一變シテ他莊槍奪トナリ再變シテ官府襲撃トナラシム、共ニ是レ匪亂ノ原因ヲ馴致セルモノナリ、

(三) 思想、

匪亂ノ原因トシテ臺民ガ思想ヲ講察スルトキハ臺灣人ノ其母國人ガ有セル思想ヲ繼續セルコトヲ注意スベシ、之レヲ解セザレバ匪亂ノ頻生ヲ解ス可ラズ、何ントナレバ何如ナル民族ト雖モ誰レカ亂ヲ好ミ治ヲ嫌フモノアラン、タトヒ臺灣ニ於テ爾ク匪亂ヲ起スノ傾向ヲ有スル民族アリト雖モ漸ク恒産ヲ生スレハ恒心ヲ生シテ、又タ亂ヲ好ミ匪ヲ企テルコトヲ欲セサルハ是レ人ノ常情ナレバナリ、隨ツテ何等別箇ノ因縁ガ之ニ加ハルコトナケレバ以テ匪亂ノ頻生スル所以ヲ解ス可ラズ、而ルニ支那人ハ革命的原素タル一種群賊的習癖アリ、加フルニ利害的志尙ハ其根本ノ主義ニシテ又迷信的觀念ハ其崇尙セルトコロノ信條ナリ、而シテ之等ノ思想信仰ハ清國ニ臺灣ヲ絶タザル根本ノ理由ニシテ、而シテ臺灣人ハ等シク之ヲ繼受シ臺灣ニ在リテ又タ等シク匪亂ヲ起スノ動機タルモノナリ、左ニ其理由ヲ講察ス可シ、

(甲) 王ト云ヒ侯ト呼フ寧口種アランヤ、山東ノ鼠賊ト蔑シ去リタルノ群賊ハ秦ノ天下ヲ覆シタルニアラズヤ、成レバ則チ王タリ成ラサレバ則チ賊タルノミテフ觀念ハ確カニ支那人ノ思想ニシテ、而シテ臺地ノ彼レカ如キ民族

盜賊的
匪亂の
原因也

臺民が
亂由來
ハ匪亂
の成因
ナラト
スル

匪亂の
動機
ハ
想
信
條

氣風ノ上ニ於テハ尤モ容易ク濫醸セラル、モノタリ、是レ梁山泊の盜賊ノ絶々サル所以ナリ、殊ニ一證ト云フ可キハ臺灣ニ在ツテ尤モ嗜好セラル、ノ民間文學ハ三國誌水滸傳等凡ヘテ盜賊の傳記ナルト是レナリ、之ヲ劇場ニ演シ之ヲ口頭ニ講スルハ、如何ニ又臺灣土民ガ思想ノ反射的發展ニ非ル乎、抑モ亦タ之ニ因テ愈々連想上其性質ヲ馴致セザル乎、藍鼎元ノ言ニ臺網久シク吞魚ヲ漏ラシ、民國法ノ何物タルヲ知ラズ安逸シテ亂階ヲ爲スヲ思フ、甫メ平ヲキテ復々起ルヲ圖ル云々トハ、臺灣人ガ盜賊的舉動ヲ確認シタルモノト云フ可ク、將々朱亂ガ此思想ニ緣源セルヲ見ル可キモノナリ、

(乙) 支那人ノ志尙ハ功利ナリ、支那人ノ主義ハ現世の利害ナリ、儒教ノ禮義道德ハ凡テ其假面ヲ裝フノ虛具ニシテ、阿堵物ハ實ハ其心境面目ナリ、而シテ臺灣ノ母國人ヨリ此思想ヲ繼受セルハ殊ニ甚ハタシ、清國人ハ多少事ニ當リテ悠揚ノ態度ヲ紛飾スレモ、臺灣人ハ何ノ容赦ナク實利ニ奔レリ、試ミニ臺民ガ市井ニ争フ所ヲ聞クニ多クハ毫厘ノ口角ニ係レルヲ見ル可ク

功利的主義
ハ匪亂
ノ原因ナリ

將々彼ノ廟裡ニ祈請スルヲ見ルニ悉ク福田利益ヲ求ムルノ熱心ナルヲ觀ル可キナリ、(例セバ宗教ノ如キモ彼等ニアリテハ現世の福田ヲ邀フルノ具ノミ) 而シテ此觀念ナルモノハ又タ土匪の觀念ト變シ易シ、何トナレバ土匪一旦起リテ、土匪ニ結ンテ利トナラバ土匪トナリ不利ナラバ良民トナリ、彼等ニ在リテハ其良民タルト土匪タルトハ良莠ノ區別ニアラズシテ利不利ノ辨ナレバナリ、善不善ノ分別ニアラズシテ弱強ノ區別ナレバナリ、東瀛載筆ノ記事ハ此情況ヲ傳ヘテ曰フ、從來臺灣數年事ナキヲナシ、賊匪旗ヲ豎テ逆ヲ謀ルハ尋常トナス、本ト技倆ナシ沽庄飯ヲ派シ衆ヲ擁シ財ヲ詐ルニ過キズ、從ハザレバ即チ焚槍シテ人ヲ殺ス、其蠢愚頑迷ノ徒群然トシテ附和シ、袋ヲ携ヘ挺ヲ荷ヒ招カスシテ自ラ至ル、意ハ物ヲ掠シ食ヲ趁スルニ在リ、利ヲ嗜ミ身ヲ忘レ法紀ノ何物タルヲ知ラス云々ト、(此論文ノ本章ハ咸豐年間ノ記事ニ在リ參照セヨ) 朱亂ニ當リテモ所在蜂起シテ之ニ應シテ府縣汛防ヲ攻破シテ七日ニシテ天下ヲ獲タリト云フモノハ、群民附加ノ情ト利奔名走ノ狀ヲ見ル可キモノナリ、是レ利害的思想ノ匪亂ノ原因ト

ナル者ニシテ又朱亂ノ原因タリシモノナリ

(丙) 支那人ハ古來科學的思想絶無ナルヲ以テ迷信殊ニ甚ヘタシク、拜自然教ノ信徒タリ、是故ニ天變地異ハ四海亂世ノ豫告ニシテ、奇異ナル瑞祥ハ聖人與ルノ吉徵ナリ、五彩ノ雲ハ常ニ未來ノ帝王ガ居所ノ上ニ掩ハレ、奇異ナル相貌ハ直ニ傑人ノ徵候トセラル、故ニ不平ノ奸雄ガ事ヲ興サントズルニ當リテハ常ニ斯民ガ迷信ヲ種子トシテ謠言ヲ放チ誹語ヲ作りテ之ヲ煽動シ提撕セザルコトナシ、臺灣ニ於テハ殊ニ甚シトナス、

且實際ニ於テモ、天災地異ハ天下多數ノ貧民ヲ困苦セシムルモノナレバ、苦シテ而シテ亂ヲ思フハ其常情ナルニ、マシテ之レヲ煽動シテ其天災地異ヲ天ノ命名ナリトスルニ於テマシテ、迷信ハ謠言ヲ生シテ謠言ハ遂ニ亂階トナルハ、清國反亂史ニ於テ歴視スル所ニシテ而シテ臺灣ノ匪亂ニ於テモ亦タ常ニ等シク見ル所トス、

史ノ記ス所ニヨレバ、朱亂前ニ於ケル天災地異ハ、頻々トシテ起レルヲ見タリ、四十九年冬五穀實ラズ、天下大ニ饑ヘ、五十年秋、及五十四年秋地

震アリ、五十六年冬又タ大ニ饑ヘ、五十九年大地震アリ、是等十年間五回ノ天災ヘ、豈ニ彼カ迷信ノ強クシテ而モ糊口ニ縮セルノ亂民ヲ刺撃セザラシヤ、

又史ノ記ス所ニヨレバ朱ハ鴨ヲ飼ヒシニ其鴨且暮出入毎ニ隊伍ヲ編セシカハ、愚民ハ常ニ之ヲ異トセリトアリ、(戴萬生ノ亂ニ於テ萬生ガ樟腦火ヲ屋上ニ燃ヤシタル等亦タ同シク迷信煽動ノ策ナリ) 思フニ之等迷信ガ匪亂ノ原因タリシハ明カナリ、

(四) 氣候及土地

氣候ノ犯罪的事實ト關係セルハ輓今刑事統計學ノ確認スル所ニシテ、山川風土ガ又タ人類ノ氣稟ニ影響セルハ古今人物史ノ報スル所ナリ、

臺灣ノ酷熱ナル氣候ハ人品ヲ放任ニ傾カシメ粗暴ニ流レシメテ自ラ修メテ秩序ヲ保維スルノ念ヲ薄カラシムルハ自然ノ勢ニアラザル乎、瘴癘ノ氣強ク風雨ノ頻リニ狂フハ人ヲシテ回顧シテ命ノ常ナキヲ感ゼシメテ自暴自棄ニ流レシムルハ理勢ノ常ニアラザル乎、海ノ狂フテ觀山ノ險シキヲ望ミ自然ニ其氣

深山大澤
以養匪亂所
成ル所

臺民境遇
以構匪亂所
成ル所

質ヲシテ之レカ狂險ヲ感受セシムルコトナキ乎、且ツ實際ニ於テ臺灣ノ如キ山林ニ富ムノ地ハ、匪徒ノ踪跡ヲ晦マズニ於テ甚ハタ便アリ、史ニ其消息ヲ傳ヘテ曰フ、臺民亂ヲ倡フヲ以テ嬉シミトナス、豈ニ真ニ刑戮ノ畏ル可キヲ知ラザランヤ、大山深險アリテ連逃ノ籤タルコトヲ得ルニヨルナリ、成レハ則チ出テ、民害ヲナシ、敗ルレハ則チ去ツテ山狙トナリ人跡至ルコトナク其底ヲ窮ムルナシ彼レ何ヲ憚ツテカ爲サザランヤト、

朱亂ニ於テモ其餘孽ノ深山ニ遁ルモノヲ蕩掃セントシテ年所ヲ費セリ、是レ氣候及ヒ土地ガ匪亂ノ原因タル所以ナリ、

(五) 境遇

以上天然の境遇ガ匪亂ノ原因タルガ如ク、又タ社會的境遇ハ之ヲ滋養セルモノ大ナリ、

閩粵民族ガ其嗜好性質言語ヲ異ニスルニヨリ、其祖先教ニ緣源セル郷土心強固ナルニヨリ、若クハ等シク臺灣拓開ノ場頭ニ立チテ生存ノ競争ヲナスニヨリ、分類争闘ヲ境遇ノ生シ、此境遇ガ匪亂ヲ惹起スルコトハ民族關係ノ章ニ於

臺地蕃族
除ノ境遇
ハ蕃徒去
集ト相去
ル一壁ノ

テ説ク所ノ如シ、

且ツ國初ニ尙ホ一種ノ境遇ガ氣風ヲ兇惡ニシタルハ、國初家族ヲ携フルコトヲ禁シタルヲ以テ、無賴徒手ノ民、日ニ紛擾ヲ嬉シトシタル事之レナリ、當時ノ記文ハ傳ヘテ曰フ、臺灣ハ五方雜處シ、驍兵悍民、屋ナク家ナク、日ニ相聞聚スト而シテ内、此漢人間ノ境遇ノ外ニ、彼等移住民ハ尙外界ニ對スルノ境遇ヲ有シ、而シテ此外界ニ對スルノ境遇ハ、匪亂ノ原因タルコト多シ、外界ノ境遇トハ何ソゾヤ、即チ臺灣拓開ノ事業トシテ、生蕃ヲ驅除スルコト是レナリ、

思フニ臺灣ノ原野ハ原ト生蕃ガ自由ノ獵場トシテ其生活ヲ樂シミシ桃源場タリシモノナリ、而シテ已ニ云フガ如ク慍悍無賴ノ民族ハ容赦ナク蕃人ノ獵場ヲ奪ヒテ市場ヲ開キ道路ヲ通シ、田園ヲ拓開セシモノナラン、是レ業戶業主(大租戶小租戶)及ヒ汛防隘丁ノ起ルノ所以ニシテ、抑モ國初人民ノ境遇ハ蕃人驅除ト蕃居奪略ニアリタルヲ推知ス可キモノナリ、思フニ此奪略的境遇ハ、匪徒嘯集ト相去ル一壁ノミ、彼等奪略ヲ職業トスル

モノニアリテハ、分類争闘若クハ盜賊抄掠若クハ匪徒嘯聚等ヲナスハ尋常茶飲ノ事ナリシナラン、凡ソ海港ノ民ハ、冒險慄悍ナリトノ理ハ、其職業ノ冒險ナルニヨレリ、臺灣ノ民風ガ冒險慄悍亂ヲ起スヲ以テ尋常一樣ノ事ト爲スハ、其日常ノ職業ガ、等シク冒險慄悍亂ヲ爲スノトナレバナリ、故ニ當時國初ノ政府ハ漢人ガ蕃人トノ交渉擾攘ヲ以テ匪亂ヲ起スノ端緒ナリトナシテ其蕃界ニ入ルヲ禁シタリ、然レモ此時漢人ハ已ニ多ク蕃居占奪ヲ爲シ終リタル後ノ事ナルノミナラズ、此禁アリテヨリモ尙ホ遺利ヲ求ムルニ急ナル漢人ハ、續々蕃界ニ假入シテ禁地ノ須臾ニシテ腹地トナリタルモノ、處々悉ク然リ、見ル可シ、此外界ノ境遇ガ幾何カ匪亂蜂起ノ原因タリシト

(六) 行政ノ腐敗、軍務ノ廢頹、

前諸項ニ云フ所ハ皆以テ朱亂ヲ惹起スルノ原因タリシモノナレドモ等シク間接ノ原因ナリト云フ可シ、直接ノ原因トシテハ、行政ノ腐敗及ビ軍務ノ廢頹

行政ノ腐敗
軍務ノ廢頹
朱亂ノ原因
直接ナリ

ニ因リシカ如シ、

抑モ康熙帝ハ英明ノ主ニシテ百船ノ制度ヲ建テ清朝ノ基ヲ固フシタリ、故ニ臺灣國初ノ經綸ヲ策スルニ當リテモ啓聖施琅ノ言ヲ用ヒテ境土尙ホ開ケサルニ三縣ヲ分置シ且ツ又々人口ニ比シテ、多數ナル一萬ノ武備ヲ備ヘシメ、文武行政ノ機關組織、整然トシテ具ハリシハ已ニ行政編中ニ陳ブル所ノ如シ、而ルニ三十年來治平相襲キ、臺地ノ文武員辨ハ三五年ニシテ交代スルニ拘ヘラス、氣弛ビ力沮ミテ又々帝意ヲ受ケテ國初ノ綱紀ヲ振張スルナク、獨リ百姓ヲ魚肉トシテ私腹ヲ肥ヤスヲ以テ事トセリ、是レ一ハ康熙帝ノ晩年ニ當リ、督率ノ力張ル能ハサリシニヨル乎、將々鞭長フシテ海外ノ臺灣ニ及ハザリシニヨルカ、抑モ臺地ノ天然氣候ガ文官武員ノ心骨ヲ軟化シタルニ由ル乎、或ハ制度就中交代ノ制若クハ薄俸ノ制ノ罪ニヨル乎、兎ニ角ニモ國初ハ施琅ノ計議實行セラレ、奸民モ亦タ隙ニ乘スルヲ能ハサリシニ、是ニ至リ彼レ區々ノ賊徒ヲシテ文武員辨ヲ指シ賭博ニ沈湎スルヲ知ルノミ、兵民瓦解スト云フニ至ラシメタルハ、何如ニモ其文恬武嬉ノ狀ヲ觀フ

可キナリ、殊ニ鳳山令ガ收檢ノ政ハ彼レ奸徒ヲ反撥セシメタルハ、朱亂記事
中ニ記ス所ノ如シ、

藍豪元ガ當時巡使黃玉甫ニ送ルノ雜詠ハ、以テ當時ノ風尚ヲ見ル可シ、
臺俗傲豪奢、亂後風猶昨、宴會中人産、衣裘貴戚愕、農墾士不勤、逐來趨驕
惡、蠶凌多健訟、空際見樓閣、無賤復無貴、相將事博博、所當禁制嚴、威信
同錄錫、勿謂我言迂、中心細忖度、爲火莫爲水、救時之良藥、

尙ホ當時ノ識者ハ、臺灣ノ文官武員ガ交替ノ制ニヨリ去來常ニ後人ニ推諉シ
テ臺地ノ民政武備ニ親切ナラズトシ、請リテ以テ宮斯土者、不免有傳舍之意
隔膜之視ト爲セリ、將タ兵丁ニ就テモ、班兵自遠來、良匪情形、路徑要害、
皆生疎不能熟、以是細偵密訪、猶枘鑿之不相入云々ト云ヘリ、共ニ時弊ニ適
切セルノ言ト云フ可シ、

之ヲ要スルニ以上直接間接ノ原因ハ匪亂ヲ醸生シタルモノニシテ、而シテ又
等シク臺灣匪亂ノ常因タルモノナリ、

以上間接直接ノ原因ハ此亂ヲ惹起シテ全臺遂ニ賊手ニ落チ、僅カニ淡水一ノ

地方ニ陳策ノ義民ヲ募リテ據守スルニ過キズ、總督ハ自ラ廈門ニ出テ、作戰
計畫ヲ爲シ、福、浙、廣、ノ糧米ヲ動かシテ二萬以上ノ大兵ヲ擧ケ討伐シタ
ル程ナレハ、左スガニ亂源ヲ絶チ匪株ヲ刈ルニ於テハ頗ル威信ヲ用ヒ、又善
後ノ經營トシテ幾多ノ施設ヲナセリ、蓋シ支那政府ハ國大ニ人多キヲ以テ、
行政散漫ニシテ多クハ人民ノ自治ニ任カシ、獨リ其威信ヲ壓制的ニ嚴行シテ
以テ統一ト治安トヲ計ルヲ政要トセリ、殊ニ臺地ニ在リテハ行政ノ不行届甚
ハタシクシテ殆ント民アリテ官ナク、人々個々皆ナ蠶食ヲ以テ都市村落ヲ形
成シタル様ナレバ亂後ニ於テ特ニ威信ノ立ツヲ必要トセリ、幸ニ當時藍廷珍
ノ幕賓藍鼎元ナルモノアリ、活眼卓識ニシテ能ク臺地ノ人情風俗ヲ察シ議ヲ
立テ、膺懲打擊先ツ民ノ向背ヲ定メ、然ル後元凶匪首ハ必ラス擒殺スルノ方
針ヲ定メ、而シテ附和ノ人民ニハ生路ヲ開キ先ツ元凶ヲ擒ニシテ賞ヲ受ク可
キ旨ヲ告示シ、以テ順逆ヲ分別シ一掃清平ノ效ヲ收メ得タリ、是レ必竟支那
政府政略ノ要訣ヲ行フタル者ナリ、馬克惇曰フ、治臺ハ匪ヲ鎮メ盜ヲ弭ムル
ヲ以テ要務トシ、法ヲ執リ人ヲ用フルヲ以テ大經トス、法嚴ナラザレバ則匪

益肆ニシテ黨益多ク、遂ニ之レニヨリテ不軌ヲ計ラン、徒ラニ勸戒ヲ事トスルモ益ナシト、見ル可シ先ツ脅懲スルニアラサレバ以テ桀猾ノ人民ヲ馴致スルニ足ラサルヲ、徒ラニ懷柔旨義ヲ以テ勸戒ヲ事トスルハ尙ホ息ヲ掩フノ類ナランノミ克悼又タ曰フ、苟モ民ヲ馭スル法ヲ得ズシテ政治人ヲ服スルニ足ラズ、偏執躁妄疑惑因循ナランニハ、將ニ却ツテ匪賊ノ笑フ所トナリテ劫掠縱横至ラサル所ナカラント、試ニ左ニ匪類ヲ處スル清國ノ刑罰ヲ列舉シテ以テ何如ニ之ヲ嚴重ニスルカヲ見ントス

黨與ヲ集メテ官ニ抗拒スルノ罪

- 一、首魁トナリテ黨與ヲ招集シ叛亂ヲナシ、官兵ニ抗拒シ或ハ官衙ヲ燒毀スルモノハ其首魁ト附從者トヲ論セス、悉ク斬殺シ、其家屋ハ燒毀シ所有ノ地所ハ悉ク官ニ沒收ス、其家族ハ、首魁ハ、婦女老幼ヲ論セス悉ク死刑ニ處シ、附從者ハ、婦女小兒十二未滿ノモノニ限り其罪ヲ宥恕ス、
- 二、黨與ヲ某村ニ招集シテ官兵ニ抗拒スルモノアレハ、其集黨ノ一村

ハ村長人民ヲ論セスシテ悉ク斬殺シ、家屋田地家族等ハ第一條ノ如ク處分ス、若シ隣村五清里以内ノ村ニシテ官ニ報セサル時ハ其一村人民家屋ハ燒毀シ斬殺シテ其田地ハ官ニ沒收ス、若シ其以前ニ官ニ報告セル隣村ハ其罪ヲ免ス、

三、黨ヲ集ムルモ未ダ官兵ニ抗拒セサル以前ニ當リ、隣村之ヲ官ニ報告シ、官兵搜索シテ匪首ヲ捕縛セルトキハ、其匪首ノ家屋ハ燒毀シ、其家族ヲ捕縛シ、夫々處斷ス、若シ此時誤テ良民ノ家ヲ燒キタルトキハ修理ノ資金ヲ給シ、良民一人ヲ誤テ殺シタルトキハ安葬金トシテ貳拾四圓ヲ給ス、

四、黨與ヲ集ムルモ同村ノモノ、若クハ隣居ノモノ匿藏シテ官ニ報告セサル内ニ、官ヨリ探偵シテ之ヲ討伐シ、誤テ良民ヲ殺シ、若クハ良家ヲ燒毀スルヲアルモ官ニテハ一切之ニ關セス、其村長ハ叛人ト同シク罪ニ處ス、

強盜犯ニ對スル罪

- 一、首魁トナリ強盜ヲナシ掠奪ヲ事トシ人民ヲ殺傷スル等ノ事アレバ、則チ其犯人ノ家族ヲシテ日限ヲ定メ犯人ヲ捕ヘ官ニ送ラシム、若シ類ヲ集メテ強盜ヲナスモノアレハ其家族一同罪ニ處シ、婦女小兒十二歳未満ノモノハ罪ヲ免ス、其強盜ヲ匿藏スル家ヘ之レヲ燒毀ス、
- 二、匪首ノ家ニシテ別途營業ヲナスモ仍同居セルモノハ第一ノ如ク家族一同ヲ處分ス、
- 三、匪首ニシテ已レノ家ヲ離レテ十清里外ノ地ニアルモノハ、其家族ハ罪ヲ免ス、若シ十清里内ニシテ、其家主罪アレハ、其他ノモノ官兵ニ報シテ日限ヲ定メテ捕縛スベシ
- 四、強盜暗夜間ニ財物ヲ掠奪シテ未タ人ヲ傷害セサルモ、其首魁ハ斬殺シ從者ハ永久禁錮ス、其家族ニハ等シク遭難ノ人ニ物品ヲ賠償セシメテ後罪ヲ免ス、家屋ハ何レモ之レヲ燒毀ス、
- 五、強盜ノ白晝財物ヲ掠奪シ人命ヲ燒殺スル等ノ事アレハ、其犯人ハ第一ニ照ラシテ家族一同罪ニ處ス、

朱亂善後ノ經營

保甲制度

支那ニ於テ保甲制度ノ必要ナル所以

以上ノ如ク刑罰ハ慘絶酷絶ヲ極メ、人民ヲ脅嚇シテ以テ其治平ヲ計レリ、刑法學上脅嚇旨義ハ正ニ支那刑法ノ大主旨ナリ、當時藍鼎元ハ奸匪通謀者ヲ黯面シテ原籍ニ押送スルノ手段ヲ以テ輕シトナシ、總督ニ上申シテ、惟是黯面雖差、畢竟一藥即去、似不如誠耳之不可復續ト云ヘリ、以テ如何ニ嚴重ニ匪類ヲ膺懲シタルカヲ徵ス可シ、

更ニ善後ノ經營トシテハ、第一保甲聯庄ノ制度、第二蕃界ノ經綸、第三政治機關ノ擴張、第四兵備ノ増設整理之レナリ、

第一保甲聯庄制度

支那司政者ガ政治ノ秘訣ハ施政ノ大要大綱ヲ保チ威ヲ立テ、而シテ人民各自ノ一ハ其自治ニ委スルニアリ、若シ其自治ノ境遇ニ干涉シテ法網ヲ密ニシ、一舉一動ヲ取締リ或ハ監督ヲ嚴ニシ、衛生ニ警察ニ殖産ニ興業ニ教育ニ立チ入り過クル時ハ、却テ平地ニ波ヲ起シ煩苛ノ誹忽チ起ル、乃チ民ノ自治ニ委シテ無爲ニシテ化スルトキハ、仁政ノ碑銘忽チ興立セラル、支那ニハ國家ノ組織甚ハタ不完全ニシテ社會ノ編制ハ甚タ備ヘレリ、是レ近來西風ニ觸接シ

臺地保甲
ノ由來

テ國家ノ將ニ解體セントシテ、社會ノ愈繁榮ニ赴カントスル所以ナリ、故ニ此人民ノ社會的傾向ヲ利用シテ、保甲聯庄ヲ布クハ施政ノ妙用ニシテ、實際支那ニ政治ナルモノ存スルハ實ニ此一點ニ在リ、況ンヤ亂後靖盜ノ手段タルニ於テヲヤ、

保甲聯庄ノ制度ハ康熙九年ノ聖諭十六條ニ淵源シ、大清會典ニ規定セルコトハ已ニ國初自治制度ノ部ニ説クカ如ク、支那ノ戶口編制自治警察ナリ、是ニ至リ亂後ノ經營トシテ、(雍正元年)此十六條ヲ敷延シテ萬言ヲ作り、之レヲ臺地ニ頒布シテ實行ヲ命ジタリ、(臺灣府志ニハ雍正十一年トアリ)

其聯庄保甲盜賊ヲ弭ムルノ演義一節ヲ載録ス、

從來民ヲ安スルハ盜ヲ弭ムルニ在リトス、摘發ト守禦ノ法ハ必ス事ニ先ンシテ之レカ備ヲ爲スヲ要ス、故ニ緝捕スレハ賞アリ、踈縱スレハ罰アリ、諱盜ニ禁アリ、違限ニ條アリ、而シテ最モ善キハ保甲ニ如クナシ、十家ヲ甲ト爲シ十甲ヲ保ト爲ス、甲ニ長アリ保ニ正アリ、簿冊ヲ設立シテ交モ察シ互ニ警シム、此レ即チ井田守望ノ遺制ナルナリ、故ニ聖祖仁皇帝ノ上諭ニ曰ク、保

雍正帝が
保甲聯庄の
勸諭的
勸諭

甲ヲ聯子テ以テ盜賊ヲ弭メヨト、誠ニ四海九州ヲシテ閭里モ堵ニ安セシメ、本ヲ澄マシ源ヲ清フセント欲スルモノニシテ聖慮ハ實ニ周切ナリトス、唯タ恐ル遵行スルコト既ニ久シク遂ニ因循ニ至ルヲ、吏ハ則チ徒ラニ戶籍ヲ稽シ、民ハ則チ徒ラニ門牌ヲ置クノミ、而シテ聯比糾察ノ法ニ於テハ未タ實心奉行スルヲ見ス、以テ勾引窩藏ノ弊種々ニシテ生スルニ至ル、隣舍失事アルモ秦越ノ觀ヲ爲スアリ、富家劫カサレハ反テ指シテ悖出ノ當然トナス、甚シキハ且ツ公ヲ假テ私ヲ濟シ、盤詰處名ニ籍テ無厭ノ苛求ヲ滋ス、汛防(巡邏兵)ハ依テ騷擾ヲナシ、胥吏(小役人)ハ縁テ奸ヲ生ス、保甲ノ名有テ保甲ノ實無シ、保甲ノ累有テ保甲ノ益ナシ、此レ盜賊ノ弭メ難キ所以ナリ、夫レ良法ノ民ニ利アルハ奉行ノ必ス其實ヲ求ムルニ在リ、嗣後城市鄉村ニ保甲ヲ嚴行シテ所在各保ヲ分チ、每保各十甲ヲ統ヘ、域ハ坊ヲ以テ分チ郷ハ圖ヲ以テ別チ、排鄰比戶互ニ相關シ、一甲ノ中ト雖モ巨室大戶ナルモノハ僮(雇人)佃(小作人)多キハ數百ニ至ルアリ、此内良ト否トアル本戶自ラ責任ヲ有ス、若シ一店一舍ノ村落ニ散布スル者ハ業有ルト業無キト、或ハ良ナルト或ハ不ナルトハ、里正及

比保正ニ於テ以テ隠々ニ平素ニ窺フヲ得、出入毎ニ以テ隠ニ其行踪ヲ察スル
 ヲ得、遇々恒業ヲ務メス群飲シ、聚闘シ鬪雞シ走狗シテ夜ニ集テ曉キニ散シ、
 乃至ハ履歴明カナラス踪跡疑フ可キ者アラハ、皆立トコロニ究察ヲ爲シ暫ク
 モ甲内ニ容ル、ユトヲ許サス、其荒原ノ古廟開肆ノ發祠ハ尤モ奸ヲ藏シヤス
 シ、更ニ宜シク防察ニ緊密ヲ加フヘシ、汛地兵丁ニ至テハ務メテ必ス日夜ニ
 巡邏シ一體ニ查詰シ、端ヲ借テ事ヲ生スルナク、仇ヲ狹テ害ニ陥ルナク、賄
 賂ヲ受ケテ狗縦スルナク、情面ヲ借テ姑容スルナク、力ヲ協セ心ヲ同フシテ
 輪流ニ分派セヨ、則チ盜賊ハ身ヲ容ル、ノ地ナクシテ軍民ハ安靜ノ樂ヲ享ケ
 ン、查スルニ昔人禦盜ノ法ハ村ニ一樓ヲ置キ樓ニ一鼓ヲ設ケ、一家失アレハ
 鼓ヲ擊テ號ト爲シ、群起シテ其要害ヲ守レリ、盜賊將タ安クニカ逃レンヤ、
 謂ユル兵法ヲ保甲ノ中ニ寓スルモノナリ、若シ夫レ江海出汲ノ區ニシテ保甲
 ヲ以テ行フヘカラサル者アランニハ、舟楫往來ニ號ヲ絡子粽ヲ聯子、彼此互
 相稽查シテ位類モ亦藏匿シ難カラシメ、皆實心ニ奉行シ、事ニ先ンジテ之レ
 ガ備ヲ爲セ、若シ視テ具文通常一般ノ文句ト爲シ、怠忽ニ從事セハ盜セラ

下級行政
 ハ保甲ノ
 吏役ニヨ
 リテ行ハ

ル、者ニ至ツテハ財ヲ失ヒ、連坐スルモノハ累ヲ受ケ、惟ダニ朕カ息盜安民
 ノ至意ニ背クノミナラスシテ亦タ甚ハダ爾等保身保家ノ良計ニ非ラサル
 ナリ、

以上ノ如ク、保甲ハ自治警察ニシテ、十家ヲ牌トシテ牌頭ヲ置キ、十牌ヲ甲
 トシテ甲長ヲ置キ、十甲ヲ保トシテ保正ヲ置キ、(郷ニ在リテハ郷保ト云ヒ街
 ニアリテハ坊保ト云フ) 別ニ總理董事ヲ設ケテ評議裁決ヲ爲シ順次ニ責任ヲ
 持タシメ以テ警察ノ基ヲ爲セリ、其平生ノ警備ニハ壯丁巡邏ニ任ンジ、若シ
 犯罪ノモノアルトキハ甲長郷保告發ノ任ニ當ル可ク、廳伍皂快ノ差役ニヨリ
 テ捕縛シ或ハ汛兵ニヨリテ拘引セリ、保甲ノ費用ハ民ノ義捐ニヨレリ、(道光
 十七年婁雲莊規參照) 又タ下級行政者トシテ總理地保郷保ハ民事訴訟喧嘩口
 論ノ仲裁法令頒布莊邑ノ公共工事寺社祭典ノ事ニ至ルマテ凡テ其評議ニヨリ
 テ裁決シタリ、
 郷保地保總理ハ皆ナ公撰ナレド、名簿ヲ各屬縣廳ニ出シテ其命令ニ聽順スベ
 キノ定メナリ、

又保甲ノ制ヲ結ヒテ各莊共同シテ匪賊ヲ防クヲ聯莊ト云ヒ、凡ソ外寇内亂アルトキニハ保甲ヨリモ尤モ聯莊ノ行ハルヲ見タリ、又々其冬時盜賊多キヲ以テ、冬防局トテ殊ニ冬時ノミ行ハル、聯莊ノ制度ヲ施行スル地方アリ、(基隆地方此慣習アリタリ)

尙ホ藍鼎元ガ當時ノ意見ハ更ニ一步ヲ進メ、此保甲聯莊ニ今ノ所謂團練ノ性質ヲ帶バシメントスルニ在リタリ、

鄙人愚見、以爲作賊可以欺官、不可以欺民、能避巡兵、不能避鄉里、莫若因其勢而防範之、就各縣各鄉、僉舉一幹練勤謹、有身家、顧惜廉恥之人、使爲鄉長、就其所轄數家喻戶曉聯莊相助之心、給之遊兵、以供奔走使令之役、如有一家被盜、則前後左右各家共出救援、堵截各處要口、務必協力擒獲、別設大鄉總一二人、統轄各鄉長、督率稽查、專其責成、鄉長有生事擾民、縱容奸匪、緝捕不力、救護不齊等弊、大鄉總究察報查、如有失察、一體同罪、是雖鄉兵之名、而衆志成城、不啻有鄉兵之實、今擬、臺灣中區設鄉長六名、南路鳳山設鄉長十二名、大總二名、分轄之、每鄉長一名、准給養遊兵四名、大鄉總一名、

名給外委千把總銜牌、以榮其身、准養兵十名、其遊兵口糧、每月銀一兩、米三斗、就官莊內撥出支給、以爲贍養之資、計共三縣、遊兵一百四十名、每月支銀一百四十兩、米四十三石二斗、三縣鄉長共二十六名、大鄉總四名、應給養廉多少、憲臺酌量定奪、伊等工食既皆仰給于官、則與官兵一例、文武均行約束、調遣無敢不從、凡地方有竊劫盜賊、就各鄉長、跟要限期、緝獲真盜、解官究處、初限不獲、拘遊兵叱責、再限不獲、拘鄉長罰月糧工食、戴罪圖功、三限不獲、拘鄉長正身重懲、大鄉總記大過一次、凡盜賊不能緝獲、至三次者鄉長責革、大鄉追鎖外委職牌、以示懲勸、雖月糧似重傷、但爲地方之利、自不得顧惜小費、欲節省、則每名月銀七錢五錢亦可、米三斗不易也、無月糧、則彼將事擾民以爲食、非徒無益、爲害更大、且天下亦無得腹而爲人辦事之理、必資其養廉、方可責以清楚、大鄉總能幹練辦公、勤謹三年無過犯、有綏靖地方實績、重行擢用、以示鼓勵、某庸陋無知、切思以人治人之道、不知憲臺以爲何如也、

註考、此鼎元ノ意見ハ、當時ニ行ハシタリシヤ否ヤ、今其考證ヲ欠クト雖

保甲制度ノ雍正元年臺灣ニ頒布セラレテ實行セラタレルハ、思フニ鼎元ノ此奏案ニ緣源セルモノト云フ可キ歟、將タ臺灣ニ於ケル有事團練民兵論ノ嚆矢ハ實ニ此鼎元ノ奏案ニ基クモノトス、

尙參考ノ爲メ、坊間傳フル所ノ聯庄保甲制度ヲ參録ス、

聯庄保甲

我朝ノ聖訓ニハ各明條ノ存スルアリテ庶民ハ之レヲ遵奉シ其ノ分限ヲ恪守シ安堵其業ヲ營ム事ヲ得ルモ、遠隔ノ村莊ニ至リテハ聖訓ニ違背シテ其分限ヲ守ラス、不正ノ所爲ヲ業トシテ同類ヲ聚集シ、或ハ強盜ヲナシ或ハ竊盜ヲナシテ分ヲ守ヲ守ルノ良民ヲ害スルモノ亦少シトセス、吾曹茲ニ感アリ、各庄ノ村長ト協議ヲ遂ゲ、縣札ヲ奉シテ以テ保甲聯庄ノ方法ヲ設ケ、各人民其分ヲ守リ業ヲ勵シ、患難直救ヒ以テ聖訓ノ主意ニ報公スル爲メ、公議規約ヲ設ケ聯合十ヶ庄民ヲシテ堅ク遵守セシム、

大糠榔堡總理 (呂琳余虞) 地保 (玉徳成) 鄉保 (王天湖)

并各庄ノ耆老頭人等、規約書十二枚ヲ作り一枚ヲ縣ニ納メ一枚ヲ共ニ保存

シ、十枚ハ各莊ニ一枚宛ヲ配テ、以テ後日ノ證トナス、

規約項目

- 一、盜賊若シ炬火ヲ點シテ略奪ニ來ルアラハ附近ノ左側ノ五軒右側ノ五軒ハ、高聲ヲ發シテ之レヲ左右側三軒ニ同シテ高聲叫成スベシ、若シ其情況ヲ知リテ各莊民ニ報セス、此規約ニ違フ者ハ、罰銀トシテ上戸ハ四圓、中戸ハ貳圓、下戸ハ壹圓ヲ徵シテ以テ賞與ノ費項ニ充ツ、
- 一、竊盜ノ視フアリテ各家各戸其聲ヲ聞キテ直チニ出デザルガ如キモノアラバ、罰銀トシテ、上戸ハ四圓、中戸ハ貳圓、下戸ハ壹圓ヲ納メシメ以テ賞與ノ費項トス、
- 一、各莊ノ公所 (村役場) ニハ各一個ノ大鼓ヲ備ヘ置クベシ、若シ掠奪ニ來ル賊勢盛ナルトキハ大鼓ヲ打ツヲ號トナシ、其聲ヲ聞キタルモノハ各自備フル壯丁ヲ率ヒテ直チニ應スベシ、若シ應セザルノ者アラバ直チニ官ニ具申シテ相當ノ處分ヲ乞ヒ、決シテ假借スルコトナシ、
- 一、強盜等行人ヲ道ニ要シテ財物ヲ奪ヘントスル際、其賊ヲ捕スルコト一

名ナレバ賞金トシテ六圓ヲ給ス、若シ武器ヲ弄シ其捕拿ヲ拒ムトキ其賊ヲ斃スコト一名ナレバ、賞與トシテ金四圓ヲ給ス、若シ牛ヲ牽キ去ラントシ猪豚羊ヲ盜マントシ籬壁等ヲ穿ツノ竊盜ヲ捕ヘタルモノハ、一名ニ付キ貳圓ノ賞金ヲ給ス、各者ノ總董頭人ハ其金額ヲ即下ニ給シテ決シテ言ヲ食マズ、而シテ其捕拿シタル盜賊ハ官署ニ轉送シテ其斃シタル盜賊ヲ官署ニ報ジ、其差圖ヲ受ケ決シテ擅リニ私斷スルコトナシ、

一、盜賊ノ爲メニ傷ヲ負フモノハ、醫師ヲシテ療養セシメ其費用ハ公所ニ於テ負擔シ、其外ニ賞金トシテ毎月三圓宛ヲ給與ス、若シ彼等ノ爲メニ命ヲ致スモノハハ葬祭費トシテ金五拾圓ヲ給與ス、而シテ總董頭人等ハ、即時ニ支給シテ決シテ言ヲ食マズ、

一、盜賊ヲ圍ミテ之レヲ拿フルヤ、其現場ニ於テ捕ヲ拒ムトキハ之レヲ殺スモ敢テ差支ナキモ、捕縛ニ就キタル後ハ概シテ亂リニ殺戮毆打スルコトヲ許サズ、若シ違フモノハ官署ニ送リテ其罪ヲ追辨ス、

一、妄リニ人民ヲ誣告シ、又ハ陷穿シテ強盜又ハ竊盜タリトシ、混淆シテ

テ捕拿スルヲ許サズ、違フモノハ官署ニ送リテ其罪ヲ追辨シ決シテ假借スルコトナシ、

一、賞與ニ供スル費項ハ、已ニ公議ヲ經テ支拂徴收等條款ノアルアリテ、各庄平算ニ徴シ猥リニ之ヲ費消スルヲ許サズ、若シ如斯ノ輩アラバ直ニ通知スベシ、各庄ノ頭董ニ於テモ擅行スルコトヲ得ス、

一、若シ庄中ノ庄民ニシテ賊ノ爲メニ銃器ヲ奪ハル、モノアランニハ、公費ヲ以テ之ヲ支給スベシ、上戸ハ四分、中戸ハ二分、下戸ハ一分ヲ出金セシム可シ、

一、嘉義撲津附近ノ大路ニハ常ニ壯丁ヲ派シテ其要路ヲ守ラシメ、務メテ通行ノ安全ヲ保護シ匪類ノ掠奪スルヲ禦グベシ、

一、各莊人民中互ニ仇アリト雖モ互ニ相仇ヲ報スルガ如キコトヲ許サズ、公道ヲ守リ官ニ稟申シ其判決ヲ仰グベシ、違フモノハ官署ニ稟申スベキモノトス、

一、各莊ノ人民ハ各分限ヲ遵守シ、務メテ規矩ヲ蹈ミ準繩ニ循ヒ、外匪類

ニ交通シ自ラ禍ヲ貽スベカラス、
一、賭博ノ如キハ、盜トナルノ門戸ナレハ堅ク禁止シテ以テ其門戸ヲ閉鎖ス、

總テ此規約ハ聯莊タル拾ヶ村内ニ執行スルモノトス、

註、保甲聯莊制度ニ就テハ、後章道光十七年淡水同知婁雲莊規、嘉慶十七年及ヒ道光四年蘭地同制度及ヒ近世史劉時代ノ制度ヲ參照スベシ、以テ其全豹ヲ窺フ可ケレバナリ、

第二蕃界ノ經綸

國初蕃人ニ對スル經綸ハ簿書ノ徵ス可キモノナキカ故ニ知ル可ラサルト雖也、當時ノ時勢ニ因テ之ヲ察スルニ散漫ナル當時ノ政治ハ移住民ヲシテ獨リ其蠶食ノ慾ヲ逞シフセシムルニアリタルヲ以テ、慄悍胃嶮ナル移住民ハ蕃民ヲ驅逐シテ以テ其土ヲ侵食スルヲ事トシタルハ明カリ、左レハ蕃人ハ多ク高地ニ逃レテ此等侵食者ヲ以テ終生ノ仇トナスルニ至リ、即チ所謂高地蕃トナリ、然ラサルモノハ歸化シテ、蕃餉ヲ輸スル熟蕃トナリタルカ如

シ、(古代記參照) 而シテ其熟蕃ニ對スル國初ノ撫訓ノ方法ハ又簿書ノ徵ス可キナシト雖也、通事ヲ置キテ其中間ニ立テ專ラ媒介ノ勞ヲ取ラシメ、蕃人ヲシテ蕃餉ヲ年貢輸セシメシト云フモ、藤葛竹木若クハ土產(漸開化シテ耕作セルモノハ其米)ノ若干ヲ官ニ納ムル迄ニシテ、而シテ其間專ラ利益ヲ取ルモノハカノ媒介ノ通事ナリシナリ、通事ハ蕃制トテ蕃人ノ利益ヲ蠲斷セルノ例ヲ開キシ、之ヲ三十年番番社蕃亂ニ徵シテ見ル可シ、唯夫レ彼ノ冒險ナル移住民ハ蕃人ヲ山カラ山ヘト追驅シテ遺利ヲ獲取シタルハ、勢底止スル所ヲ知ラサリシカ如シ、例ヘバ當時鼎元ノ竹犇記事ニ徵スルモ、竹塹浦寬長百里、行竟日無人煙、野蕃出沒、伏草野以伺殺人、割首級、剝髑髏飾金、誇爲奇貨、由來久矣、行人將過此、必倩熟蕃、挾弓矢爲護衛、然後敢行、亦間有失事者、以此視爲畏途、云々トアリ、而ルニ此畏途ノ地ハ異時僅カ二十年、則チ雍正九年(自康熙六十年)ニ至リテ淡水縣知ノ處トナレリ、豈ニ惟若田碧海ノ變ノミナランヤ、以テ當年移住民ガ蠶食ノ勢昌ナルヲ推見スルニ足ルモノアリ、

藍廷珍朱亂ヲ平ラクルニ當リ朱黨ノ蕃地ニ遁ル、ヲ憂ヒ、大ニ諸軍ヲ配布シテ蕃界ヲ警戒セリ、其後蕃亂平ラクニ當リテモ北方ノ經綸ニ就テ云ヘバ、淡水謝守備ニ檄ヲ傳ヘ、人ヲ派シテ石碇文山ノ內蕃地ヨリ、三貂頂總嶺ヲ經テ以テ恰仔難ニ至ルノ探險ヲ爲サシメ、兼テ遁逃ノ踪跡ヲ探ラシメタリ、是レ北方內山第一ノ探險ナリ、(附考又南方瑯瑤、檳榔林內山地方ハ匪類杜君英ノ根據地トシテ殊ニ剿絶ニ力ヲ盡シタリ)、

其善後ノ處置トシテハ次年(康熙六十一年)ニ諸蕃界地ニ土牛紅線ヲ作レリ、土牛紅線トハ地ノ蕃界ニ接シ民ノ蕃人ト交ル處ニ土ニテ堆ヲ作り、人民ノ樵採耕土スルニ當リ、此界ヲ超ヘテ峠ヲ啓クヲ許サズト云フニ在リ、蕃社雜記ニ曰ク、康熙六十一年、官ノ此土ヲ築キシハ、凡ソ生蕃ニ逼近スル所、相去ル數十里、(清里)或ハ十餘里、石ヲ堅テ、之ヲ限リ、超ヘテ入ルモノハ禁アリ、是レ匪類遁逃ノ藪根ヲ刈リテ民蕃交渉ノ峠端ヲ杜クノ主旨ニ據レリト、蓋シ此朱亂後剿蕩ノ舉ニ於テ蕃界ノ遁逃ヲ剿スルニ苦シミ、且ツ前年香霄社ノ内亂アリテヨリ、退嬰ナル當局者ハ此等姑息ノ離隔方法ヲ案

番界ニ土牛紅線ヲ作ル

出スルニ至リタル者ト云フ可シ、而モ是レ臺地ニ於ケル蕃界經綸ノ第一舉ナリ、

第三文治ノ擴張

文治ノ擴張

既ニ保甲聯庄ノ制度ヲ布キ、内ハ自治保安ノ機關ヲ立テ、外ハ土牛紅線ヲ築キテ蕃界ヲ限リ、民蕃交渉匪類潜伏ノ端ヲ絶タントセリ、然レモ已ニ開クルノ村落ト已ニ喁々タル移住民トハ遠ク從前ノ官治外ニ在リ、而シテ此民ハ實ニ前文屬々記述スルカ如ク、蕃ヲ驅リテ蠶食シ己レアリテ官ヲ知ラサル所謂眼ニ法紀ナキノ徒ナリ、之ヲ治スルノ術ハ、獨リ彼等ヲシテ監督ナキノ自治下ニ置ク可ラサルモノアリ、況ンヤ、朱亂ハ、此民ニ蕙蒸セラル、モノ多キニ於テヲヤ、且ツ獨リ土牛紅線ヲ築キテ安ンス可ラサルナリ、是ニ於テ、文治及ヒ武備ノ増設トナレリ、又タ是時勢轉化ノ勢ナリト云フ可シ、

試ミニ在前當局者カ何如ニ經營ノ議ヲ立テタルカヲ見ルニ、支那政府慣用旨義ナル退嬰政略ニ出テタリ、是ヨリ先キ、諸羅令周鐘瑄ハ、流民ヲ清革

シテ大甲ヲ界トスルノ請ヲ爲シ、鳳山令宋永清ハ、瑯璠ヲ棄ツルノ議ヲ立テタルハ皆此類ナリ、(是レ先ニハ明初ニ澎湖ノ民ヲ内地ニ移シテ、以テ海盜ノ亂源ヲ絶タントシ、後ニハ乾隆初年ニ、清國內地人ノ渡臺ヲ禁ンシ及ヒ臺人ノ内山蕃界ニ入ルヲ禁ンシタルト同シク、支那政府ガ保守的ノ常套政略ニ基クモノナリ)是ニ至リ、又總督滿保ハ、亂後善後ノ策トシテ、羅漢門、檳榔林ハ、朱一貴、杜君英ノ事ヲ起セシ地ナルヲ以テ、悉ク焚燒シテ其移住ノ人民ヲ驅逐シ、往來耕種スルヲ禁ンジ、以テ患ヲ防キ根ヲ抜クモノトセリ、是レ噎ニ因テ食ヲ廢セルモノ、亦タ其退嬰主義ニ出テタルモノナリ

是時ニ當リ藍鼎元ノ活眼卓識ナル能ク時勢ノ已ム可ラサルヲ察シ進取ノ經營ヲ企テ、以テ總督ニ抗議セリ、其要旨ニ曰フ、臺地初メ郡縣ヲ設ク、其轄スル所百餘里(清里)ニ過キズ、今ヲ距ル未タ四十年ナラサルニ開墾流移ノ民、延袤二千餘里、(清里)糖穀ノ利天下ニ甲タリ、此ノ後四五十年ヲ經バ、内山々後ノ野蕃ノ到ラサルノ境モ皆將ニ良田美宅トナラントスルコト萬々

遏抑ス可ラズ、今乃チ現成ノ村社ヲ廢シテ卵嘘トナサントス、設ヒ勵禁ヲ爲スモ斷々トシテ能ハサルナリ、曩ニ諸羅令周鐘瑄ハ大甲ヲ以テ界トナスノ議鳳山令宋永清ハ瑯璠ヲ棄ツルノ請アリ、今北ハ淡水雞籠ニ至リ、南ハ馬磯頭ニ至ルノ間皆ナ欣然トシテ樂郊タリ、爭フテ趨クヲ驚ノ如シ之ヲ限ラント雖凡惡クンゾ得テ之ヲ限ラン職等ノ愚見ニ以爲ラク、人ハ良匪ナク教化スレハ則チ馴ル、地ハ美惡ナク、經理スレバ則チ善キナリ、兵ヲ添ヘテ防ヲ設ケ、廣ク開墾ヲ聽スニ如クハナシ、地ノ利盡キ人力齊シクシテ雞鳴狗吠相聞フルニ至ラバ、匪賊アリト雖凡、將ニ逋逃ノ藪ナカランドス、何ソ必スシモ噎ニ因テ食ヲ廢シ、乃チ身ヲ全フシ害ヲ遠クニトヲナサンヤ云々ト以テ何如ニ鼎元ガ博大ノ概量ト、劃切ノ卓識トヲ備ヘタルカヲ見ル可ク、將タ時勢ノ轉化ハ、實ニ文治ノ擴張及ヒ武備ノ設置ヲ促シタルカヲ見ルベキナリ、

鼎元ノ意見ナル文治ノ擴張ニ就テハ、諸羅地方ハ虎尾溪以上ヲ劃リ、別ニ一縣ヲ設ケテ半線ニ駐劄シ、六七百里清里ヲ管轄セシメ、淡水八里盆ニ巡

檢郡役所ヲ置キテ雞籠山後ヲ兼顧セシメ、鳳山縣丞一員ヲ搭樓ニ駐劄シテ阿猴林篤佳等ノ處ヲ巡察シ以テ東南一帶ヲ彈壓セシメ、下淡水ノ巡檢ハ留都ヲ許サズ、(從前不毛ノ地ニ任官セラレタルモノハ自ラ郡ニ住シテ代人ヲ任地ニ遣ハシタルナリ) 下淡水ニ駐紮下淡水ハ新竹以南ノ地ナリセシメ淡水以南ノ各莊及ヒ諸海口ヲ巡察セシムルニ在リタリ、以上ノ意見ハ、果シテ採用實行セラレシヤ否ヤ、今考證ヲ欠クト雖モ、超ヘテ一年、則チ雍正元年ニハ、彰化縣ヲ設置シ、令ヲ半線ニ駐紮シ、諸羅ノ虎尾溪以北大甲溪以南ヲ割キテ、其管轄ニ歸セシメ、又々淡水廳ヲ彰化ノ南街ニ設ケ、彰化縣治下ニ在リテ、大甲以北ヲ統治シ、且ツ彰化ノ獄務(警察事務)ヲ督セシメ、更ニ廳下ヲ十二堡ニ分テ、各堡總理四五名、地保卿保十餘名ヲ公選シテ下級行政ノ責ニ任ンゼシメタリ、是レ元ガ意見實行ノ一班ナリト云フ可キナリ、其後チ又雍正九年ニ至リ、淡水廳ヲ竹塹今ノ新竹ニ移スニ至レリ、所謂氣運ノ促ス所ハ人力ノ遏抑ス可ラザルモノ是レナリ、

行政ノ方針

又此時マテ諸羅及ヒ鳳山縣衙ハ郡城内ニ設ケラレテ各官ハ實際其任地ニ臨往セサリシカ、是ニ於テ各地ニ直往スルトナリ、而シテ鳳山及ヒ諸羅ノ縣市ヲ開キタルカ如シ、
元カ慎重剴切ナル行政上ノ意見ヲ建テタルヲ見ルニ曰フ、大ニ文武ノ官ヲ更革シテ須ラク新ニ潔介嚴能ナルモノヲ慎選スベシ、民ヲ保ツト赤子ノ如ク國ヲ理スルトハ家事ノ如クス可シ、教化ヲ興シテ以テ風俗ヲ美ニシ、兵ト民トヲ和シテ以テ地方ヲ固ス可シ、内地ニ親ヲ遣スノ民ハ有司ニ執照ヲ擅給シテ過臺スルヲ許サザル可シ、(其亂ヲ助クルノ心ヲ長ス可ラザレバナリ)、新墾散耕ノ地ハ必ラズ籍ヲ按ンシ糧ニ編シテ其樂ヲ擅ニスルノ計ヲ擾スベシ、三縣縣治ヲ一處ニ萃メズシテ教養ヲ周クス可シ、南北寬濶ナルモ將領ヲ添設シテ、控馭ヲ密ナラシム可シ云々、以上行政武備振張ノ意見ト對比シテ其方針ノ存ンスル所ヲ見ル可シ、
 且ツ又此亂後ヨリ、(康熙六十年)文武大小百官ヲシテ眷屬ヲ携ヘ來ルヲ禁シタリ、其内故ニ制セラレ難ニ臨ンテ畏縮退避スルヲ制センガ爲メニ出デ

シヲ見ルナリ、又タ以上ノ行政擴張ト伴フテ、其統一ト監督トヲ計ルハ唯一ノ急務タリシカ故ニ專務道臺ヲ置キ且ツ御史ヲ新設セリ、即チ康熙六十年臺厦兵備道ヲ改メテ臺灣道トシ、兵備ノ兼任ヲ解キ之ヲ總兵ニ一任シ、以テ其行政ノ專務ニ力ヲ盡サシメタリ、

又同年滿漢ノ御史ヲ置キテ巡使臺灣監察御史トシ、一年毎ニ交代シ臺地ヲ巡視シテ其政治ヲ監督セシメ、又タ司法ノ上告ヲ取り扱ヘシメタリ、之レカ衙門ハ、雍正元年、臺灣府城内ニ、之レカ出張所ハ、鳳山縣内ニ設クダリ、

第四、武備ノ擴張及ヒ改革、

文治ノ擴張ニ伴フテ、武備ノ擴張モ、等シク鼎元ノ建議セル所ナリ、羅漢門中埔莊ニ汛兵三百、瑯瑤ニ千總一員兵三百ヲ置キテ以テ殘匪ノ鎮壓ヲ盡シ、南路ニハ下淡水營守備ヲ置キテ兵五百ヲ帶ヒテ新園ニ駐劄シ、岡山守備ヲ設ク、兵五百ヲ帶ビテ濁水溪ニ駐屯シ、羅漢門諸山ノ諸道ヲ警備セシメ、北路ニハ半線守備一名兵五百ヲ帶ビ、諸羅淡水ノ中ヲ警戒シ、上下ノ

武備擴張ノ擴張

氣脈ヲ通セシメ、又諸羅山ノ守備ヲ笨港ニ駐シテ兵一百ヲ増シ、下加冬守備ヲ新設シテ兵五百ヲ率ヒシメ、郡城ニハ城守遊擊一營兵八百ヲ増シテ鎮標三營ト相待ツテ守備ニ任ゼシメ、計三千六百名ノ増加ヲ必要トセリ、此建議ハ實行セラレシヤ否ヤ、考證ヲ欠ケトモ、超ヘテ十年、即チ雍正十年ニハ彰化協標三營ノ設置、淡水守備營ノ擴張、及ヒ城守營二軍、其他増員増兵ノ擴張ヲ見ルニ至リシハ、皆ナ藍鼎元ガ意見ニ緣源セルモノト云フ可キナリ、

次ニ増員ヲ建言セシハ書識トテ軍吏書記ノ勤務ヲ執ルモノ之レナリ、由來支那ノ武人ハ眼ニ一丁字ナキモノ多シ、故ニ軍中會計書記ノ職務ニ任ズルモノハ其營ノ統領自ラ人ヲ雇ヒテ其任ニ當ラシメ、依テ其給料ヲ填ムルニ實兵ヲ減シテ空名ヲ存ニスルノ陋習ヲ馴致セリ、是ニ於テ鼎元ノ意見ハ採用セラレ、臺鎮中營遊擊及ヒ各守備ニハ書識八名、外營遊擊ニハ兵六名、千把總汛防ニハ一名、南北二路參將ニハ各八名、總兵ニハ八十六名ノ書識ヲ用ユルニ至レリ、

次ニ増設ヲ企テシハ騎兵ナリ、鎮標三營ニ各騎兵六十名、南路北路二營ニ八十名馬四百匹ヲ備ヘンコトヲ以テセリ、此騎兵増設ノ議ハ實行セラレシ否ヤ考證詳ナラス、彰化縣志其他治臺必告錄ニヨレハ、臺灣騎兵ノ設ケアルハ林爽文ノ亂ニ當リ福康安ノ滿州騎兵ヲ伴ナヒ來リシニ緣源セルモノトセリ、考證ヲ待ツ、

又之ニ次テ城堡ヲ築ンコトヲ建言セシカ費用ノ許サザルヲ以テ臺灣府及ヒ鳳山諸羅二縣ノ周圍ニ土壁ヲ築クコトナレリ、蓋シ武備擴張ト共ニ、其支那防禦的戰術ニ於テ城堡ノ一大必要ナルカ故ナリ、

尙當時總督ハ諮問案ヲ下シテ臺地ノ總兵ヲ副將トナシ、總兵ヲ澎湖ニ移スノ議ヲ立テタリシカ、是レ亦タ鼎元ノ大ニ抗議シタル所ニシテ、其ノ言フ所ニヨレバ臺灣ハ沃野千里ニシテ山海ノ形勢ハ皆ナ尋常ニアラス、其地福建一省ニ亞グリ理ヲ論スレバ尙ホ當ニ兵ヲ増スベシ、總兵ニ易フルニ提督ヲ設ケテ五營ニシテ方ニ鎮壓スルニ足ル乃チ兵ヲ増ズシテ反テ減ンセントスルカト、蓋シ朱亂ニ於テ澎湖ノ累ヲ受ケザリシニヨリ、時ノ總督ハ其退

要保守旨義ヲ以テ湖澎ニ退キ紛擾ヲ臺地ニ絶ントセルナリ、而シテ藍鼎元ハ此議ノ臺地ヲ棄ツルモノニシテ、臺地ヲ棄ツルハ澎湖ヲ棄テ漳泉ヲ棄テ且率ヒテ閩浙江廣四省ノ紛擾ヲ招ク所以ナルヲ切言シ、總督ノ議ヲシテ中止セシメタリ、

以上武備ノ擴張ヲ計リシガ、次ニ其改革及整理ヲ計レリ、

第一ニハ兵權統一上ノ改革ナリ、國初以來兵ノ統轄上ニ就テ總兵ハ臺厦兵備道ナル文員ノ兼官ニ隸屬シテ制ヲ仰キタリ、而ルニ、朱亂後行政武備共ニ整備擴張ヲ要スルコトナリ各繁雜ヲ極ムルノミナラズ、總兵ノ武員ヲ以テ官等ノ下レル道臺ニ制ヲ仰クハ事體ニ於テ不倫ナルノミナラズ、隨ツテ兵權統一上ニ於テモ弛廢ヲ來スノ原因トナル者ナルカ故ニ、武備擴張ヲ要スルノ折柄第一ニ統轄力ヲ敏捷強固ニスルノ必要ニ迫リ、道臺ノ兵備兼官ヲ解キテ臺厦道ト改メ、兵權ハ全ク總兵ノ手ニ委シテ統一ヲ計ルニ至レリ是レ軍制上ノ一大改革ナリ、

第二ニ改革ヲ企テシハ、内部ノ秩序ニシテ、教育、軍紀ノ勵行、及恤兵ノ

舉是ナリ、蓋シ、外機關ヲ擴張スルト雖モ、内秩序ノ整ハサル時ハ、百ノ改革モ事ニ益スル所ナク、且ツ從來兵力廢弛ノ弊ハ、教育ノ不備、軍紀ノ不立ニ原因スルモノニシテ、殊ニ練習ノ如キハ、有名無實ニ歸シタリシカ是ニ至リ、三六九ノ日ヲ以テ定期トナシテ、必ラス演習ヲ實行セシメ、之ヲ報告スルノ例ヲ定メテ又檀ニ汛防ヲ離ル、トヲ禁シ、長官ノ兵員ガ逃亡ヲ看過シテ、其名ヲ借リ其給料ヲ私スルノ弊ヲ嚴禁シ、兼テ兵員ノ欠乏ヲ土人ニヨリ填補スルヲ禁セリ、之レ軍紀勵行ノ一端ニシテ共ニ時弊ニ適切ナルモノト云フヘキナリ、然モ支那兵ハ本來ノ性質ニ於テ備兵タリ且ツ愛國心ノ素養甚タ厚シト云フ可ラズ、故ニ給與ヲ優ニシテ以テ其甘心ヲ得ルニアラザレバ、事ニ當ツテ死力ヲ得可ラザルナリ、況ンヤ臺兵ハ一時ノ派遣タルニ於テヲヤ、之ヲ加俸恤給スルハ、兵勢振肅上ニ於テ必要トスル所ナリ、是レ雍正二年戊戌兵ノ故郷眷族ニ米ヲ與フノ制ヲ定メタル所以ナルナリ、

其上諭ニ曰フ、臺灣ニ更代守備スルノ兵丁ハ、海外邊疆ニ在リテ、糧餉ハ

臺灣ニアリテ支給シ、彼等ノ故郷ニ留ムル所ノ家口ヲ養贍スルコトナケレバ差ニ當ルノ兵丁ハ必ラス分心シテ苦累セン朕甚ハタ軫念ヲ爲ス、毎月戸ニ付キ米一斗ヲ給シテ以テ養贍ニ資ス可シ、内地米少ケレバ則チ臺灣存スル所ノ米石ヲ動支シ、船價雇募ヲ合計シテ、運ヒテ廈門ニ至リテ交付シ、地方官ヲシテ自ラ親シク戸ヲ按シテ發給シ、務メテ實惠ニ均沾セシメヨト後來(雍正七年)恤兵條例ヲ規定セル源由トナレルモノニシテ武備擴張ノ一端ナリトス

雍正元年府城内東安坊及ヒ鳳山縣ニ兩察院ヲ建ツ、

雍正二年浙江省饑フ、米一萬石次年米四萬石ヲ補運ス、

同年噶瑪蘭東螺以北二十五社ヲ彰化縣屬トス、

同年竹塹ヲ經テ艦舸ニ至ルノ道路ヲ開ク、

是レヨリ先キ、彰化ヨリ基隆ニ至ルニハ、海岸沿沙ヲ踏ンテ至ルノ一路アリシノミナリシカ、彰化縣淡水廳ヲ設ケテヨリ、各所ニ散在セルノ移住民ハ、竹塹浦ニ集中シテ、開墾耕種シ、海邊往來ノ路ノ跋涉シ難キヲ以テ、大湖口

揚梅樞、桃仔園、龜崙嶺、新莊、海山口ヲ經テ、一路ヲ開設シ、以テ艚舸ニ通ゼリ、然レトモ當時各處尙蕃人ノ出沒シテ行人ヲ伺殺スルアリ、故ニ大路ヲ行旅スルモノハ、各社ノ熟蕃ヲ率ヒテ、里程ヲ案シ護送セシメタリト云ヘリ、

雍正二年滬尾城ヲ修理ス、

此城ハ、西班牙人ノ築キシ所ニシテ、其後蘭人更ニ山頂ニ樓ヲ建テテ周ラヌニ雉堞ヲ以テセシカ、鄭氏ニ至リ又之ヲ重修シ、此ニ至リ更ニ修理ス、(現今ノ英國領事館之レナリ)

同年半線ノ倉ヲ以テ彰化縣ニ歸シ、淡水倉ヲ以テ淡水廳ニ歸ス、

半線倉ハ康熙五十四年知縣周鐘瑄ノ建ツル所ニシテ、半線ヨリ竹塹ニ至ルノ兵米ヲ貯フ、當時ノ淡水倉ハ今考證ニ由ナシ(或ハ曰フ、乾隆五十六年ニ至リテ淡水倉六處ヲ修築スト、(竹塹府志ニ曰フ、淡水倉四處 嘉慶十二年ニ建ツト、事實符セズ參證ナマツ)

雍正三年總督滿保ハ、臺灣ニ戰船修理場ヲ置キテ、臺湖ノ戰船九十八隻ヲ以テ

蕃婦ノ人頭稅ヲ免ス

鹽令發布

之ニ交付シ、臺灣道臺協臺ヲシテ監督修造セシメ責ヲ道臺及協臺ニ歸セシム、是レヨリ先キ康熙三十四年臺灣ノ戰船ハ内地ノ工人工料ヲ運ヒ來リテ修造セシカ、其煩ニ堪ヘザリシカハ道府屬ノ十八隻ハ内地ニ送リテ修造セリ、是ニ至リテ全ク臺灣ノ專責ニ歸スルニ至レリ、

雍正四年、蕃婦ノ人頭稅ヲ免ニス、又タ蕃丁ノ人頭稅ヲ一石銀三錢六厘ノ割ヲ以テ銀納セシム、當時蕃丁千七百四十八人ニシテ徵銀二千六兩九錢餘ナリ、

雍正四年、鹽令ハ頒布シ、鹽業ヲ以テ官業トナシ、臺灣府ノ管理ニ歸ス、本島ノ鹽業ハ鄭氏ノ時ニ於テ、當時ノ移住民ガ濱海低窪ノ地ニ就キ、自ラ工資ヲ投シ、勢力ヲ費シテ開築セシニ創マレリ、其製鹽販賣ハ、一ニ人民ノ自由ニ任カシタリ、降テ支那政府ノ世トナリ、又舊ニ仍リ人民ノ自由營業ニ任カシ、政府ハ其許可及承認ヲ與ヘ且其租稅(餉銀トシテ兵餉ニ當テタリ)ヲ臺鳳二縣ニ於テ徵集シ來リシカ、年所ヲ歷テ其民業ナルカ爲ニ、競曬控爭ノ弊ヲ釀シ、且ツ賣價一ナラサルヲ以テ、再タヒ臺灣府ノ管理ニ歸シ、四所ニ鹽埕ヲ設テ鹽館ヲ建テ倉庫ヲ築キテ其鹽埕ノ製鹽ヲ貯蓄シ、更ニ之ヲ人民ニ請負賣下ケ、其所得ヲ以

テ製鹽小作人及ヒ之カ監督ノ入費ヲ支拂シ、餘銀ハ府庫ニ收メ、布政使ニ報告シテ兵餉ニ充タリ、(同治七年ニ至テ之ヲ改正ス)、光緒十年ニ至リ又之ヲ改正ス其鹽埕二千七百四十四格アリ、

水沙連社人ノ叛亂

雍正四年、秋、水沙連社ノ蕃骨宗等亂ヲ計ル、總督高其俾、巡道吳昌祚ニ檄シ淡水同知王汗ト共ニ之ヲ協征セシム、昌祚ハ北路秦將何勉ヲシテ、兵ヲ率ヒテ直ニ水沙連、北港ノ蛤仔難社ニ至リシカ、諸蕃震攝シテ撫ニ就ク、後復タ南港ニ入り、骨宗父子三人及其黨阿密氏、麻薯等二十餘蕃ヲ拿ヘテ殺ス、之ヲ討蕃ノ第二舉トス、

今藍鼎元ガ之ニ關スル論策ヲ披抄ス、其消息ヲ見ンカ爲也、

謝郝制府兼論臺灣蕃變論

近聞、臺地土番復有崩山等社、猝彰化縣治、騷擾作禍、此曹不知寬大之恩、欲煤爐之煽、自速其死、無足矜憐、冬春沙之變、兵威未振、拓撫據行、竊已疑其非計、謂當消衅未萌、免動干戈、則可既已勞師、兩月弗能取勝、然後招之使來、以怯弱養成驕恣、固知不能無復起之患也、爲今之計、宜大振軍威

招募土兵之義

連根撲滅、使他社蕃夷知國法不可犯、然後一勞永逸、臺鎮請兵三千之意、想亦如此、似當稍假便宜、使之奮勵立功、多縱火炮、以足其用、更製木盾、以禦藥箭、焚山烈澤、直搗幽深、廓清亦易々耳、但必咨內地調兵似覺招徠耳目或滋宵小之疑、不如在臺招募土兵、做威繼光分號編伍一日成軍之法、召集易而成速、蓋山谷崎嶇、官兵不如民兵之利、選擇精壯、雷厲風行、隔海千里、不知就地取材之捷也、或以事平之後、有易集難散之虞、則北路地方千里、兵力本弱也、安居無事、常且宜議增防、況今逆蕃出擾、已有明徵、亡羊補牢、寧能稍緩、彰化上下四五百里、僅委之守備一營、四五百兵、此當改設遊擊增兵五百、無疑也、去歲閩邸抄有淡水同知移駐竹塹之議、不知張宏昌失事、何以仍在沙轆、必竹塹未墾無村落民居之故耳、竹塹居彰化淡水之中、距彰化縣一百四十里、一路空虛、上下兵力俱皆不及、宜移同知駐此、以扼彰淡之聯絡數百里聲援、然後臺化以下、血脉相通、似應請旨特設參將一營、兵一千、同駐其地、恭置村落、招民開墾、計、竹塹埔、至鳳山崎寬平百餘里、可闢千頃良田、向以無民棄置、致野蕃出沒、爲行人患、若安設官兵、則民不待招而自

聚土不待勸而自闢。歲多產穀十餘萬。爲內地民食之資。而野蕪不能爲害矣。二處添設之兵。皆當另募。然後內地防汛不至空虛。宜一面奏聞。一面募用。先得新兵一千五百名。協剿蕃逆。廓清更易。古人搏鼠亦用全力。不肯以其小而忽之。部覆准行之後。卽以分防兩營。照在臺各營例。年滿內地撥兵。或將竹塹一營屯田。俾定室家。作土著。與各營班兵爲主客相維之勢。尤防範之最密也。方今西郵用兵。

宵旰厲念。東方海外。微茫疥癬。以天舉速滅爲要。不可欲圖省事反致蔓延。大人妙算神威。必有出人意外。非廢員所能規測。但感佩盛情。不覺自忘其固陋。欲抒千慮一得之愚。惟大人諒其心而恕其罪。則幸甚矣。

臺灣田制ノ利弊

雍正五年巡道尹秦へ臺灣田制ノ利弊ヲ查シテ、彰化以北新墾ノ地ニ就キ新制ヲ布カンコトヲ請ヘリ、

蓋シ國初臺灣ハ茫々タル原野ニ富ミ、野水縱横トシテ土濕ヒ地肥ヘ、耕シテ以テ美田ヲ得可シ、是ニ於テ資本家業戶ト云フ大租戶是レナリヘ、盛ンニ佃人(小作人)ヲ招集シテ開墾シタリ、是レ内ヘ以テ匪類姦徒ヲシテ招墾ニ應ジ足

ヲ托セシムルニ足リ外ハ以テ熟蕃ヲ驅逐シテ其故郷ヲ失ハシメ、再生蕃ニ化セシムル所以ナラズンバアラズ、且ツ納租ハ業主其實メニ任ンシテ其租額ハ國初ニ定ムルカ如クナレド、業主ハ之ヲ小作人ニ求メテ納租セサル可ラサルカ故ニ、小作人ハ恰モ二重ノ政府ヲ戴クノ觀アリテ、是レ小作人ノ力堪ユル所ニアラサルノミナラス、斯クテハ業主自ラ資本ノ利殖ヲ獲テ開墾ノ業ヲ達ス可ラサルカ故ニ、業主ハ當時土地丈量ノ法ナキニ乘ジテ田藉ノ登録ニ當リ、隱弊シテ實ヲ報セズ、而シテ其隱田ノ高ハ殆ント登録ノ田積ニ倍加スルニ至レリ、是レ臺地開墾ノ速ナリシ所以ナリ、而モ到底是レ臺灣田制ノ一大長弊ニシテ、亦タ臺灣發達ノ性質面目ヲ顯ハスモノナラズンバアラズ、(劉ノ改革ニ至リテモ此大租戶ヲ買收スル能ハズ、其土地丈量ヲ行フニ當リテハ先ツ稅率ニ四割ヲ減ジ以激變ヲ來サザルコトヲ期シタレド是カ爲ニ民情不穩ヲ來シ、遂ニ彰化地方ニ反亂ヲ見ルニ至レリ)、是ニ於テ尹秦ハ彰化以北ノ新墾地ニ就キ新制ヲ布カンコトヲ乞ヒ、一人ニシテ數里ノ地ヲ兼併スルコトヲ許サズ、又タ同時ニ自ラ小作ヲ爲シテ約一人五甲ノ制ニテ、十人ノ共同事業タラシメ、三年

ノ後ハ清國內地ノ租率ニ照ラシ納租セシメ、又熟蕃ノ土地ヲ侵スヲ准サス、其熟蕃ノ爲メニハ一社ニ付三百甲ヲ與ヘ社田トシ、其子孫ノ業トナサシメ、一ハ侵食ノ勢ヲ制シテ蕃人ノ生存ヲ保護シ、以テ一ハ民藉田積ヲ明カニシテ、奸徒匪類ノ寄托スルヲ拒ギ且ツ田制ニ付キ、確實ノ登録ヲ期シ、征徴ニ付眞實ノ租額ヲ求メントセルナリ、奏議ノ行ハレザリシハ實ニ當時ノ欠陥タリシノミナラス、臺地稅務田制ノ一大長弊ヲ馴致セルモノト云フ可シ、然レ雍正九年彰化以北ニ畫一ノ稅率ヲ定ムルニ至リシハ此奏議ニ緣源セルモノト云フ可シ、

同年臺灣道ノ學政使兼攝ヲ解キテ漢御史ヲシテ之ヲ兼任セシム、

同年渡臺兵ヲ練撰シテ派遣更代スルノ例ヲ出ス、

其上諭ニ曰フ、臺灣防汛兵丁ノ例内地ヨリ派遣交代セルモノニヨル、而ルニ該營ノ幹部ハ往々卒伍ノ中勤慎誠實ニシテ營中有爲ノモノヲ派遣スルコトヲ忌メリ、是ニ於テ渡臺ノ兵ハ約束ニ違ハズシテ放肆ニシテ事ヲ生ゼリ、此レ乃チ歷來ノ積弊ナリ、朕之ヲ知ルコト甚ハタ悉クス、嗣後臺灣交代兵ハ宜シク該

渡臺ノ兵ヲ練撰ス

官辨ヲシテ勤慎用フ可キノ人ヲ挑撰派遣セシム可シ、倘シ渡臺ノ兵仍ホ事ヲ生ジテ發覺スルアラバ、該官ノ幹部ハ其聯帶ノ責ニ任ゼシメテ一併ニ議處スベシト、此勅令ハ酷ニ失スルノ嫌アレド、由來支那人ノ官タルト民タルトヲ論ンゼズ、其各自ノ責任ヲ忽カセニスルノ弊ハ比々皆ナ然リ、特ニ兵丁汛防ノ無規律ハ此時ニ當リテ愈甚シキヲ加ヘタルヲ以テ、此聯帶責任ノ勅令ヲ發シ以テ此弊ヲ矯メントセルナリ、

兵器修理ノ議

雍正六年彰化縣廳ヲ建設ス、

全年兵器改造ノ例ヲ定ム、是レヨリ先キ兵器ハ各營ノ自ラ製造備具スル處ニ任ゼシカ、破壊損傷多カリシカバ、是ニ於テ換臺兵丁ノ武器ハ督撫ニ責ヲ有セシメ、豫備金中ヨリ製造給與シテ渡臺ノ時ニ巡視御史及總兵ヲシテ點驗セシメ、仍シ用ニ堪ヘザルモノアルトキハ之ヲ督撫ニ紹介シテ製造セシメ、尙三年在臺中ニ損壞スルトキハ同シク督撫ヲシテ製造給送セシムルコトセリ、

全年臺廈道臺ヲ改メテ臺灣道トシテ專ラ臺灣ニ駐在セシム、臺灣始メテ專任道臺アリ、當時道臺ハ兼テ船政ヲ督シ哨船工廠ヲ設ケ、其他司法行政財政ノ政

始メテ駐臺專任道アリ

海兵交代ノ例

務ヲ督セリ、
全年水師兵員更替期限ヲ六年トス、總兵王郡ノ奏ニヨル、
先是清國ヨリ、更替シ來ルノ水兵ハ多クハ姓名ヲ欺冒シテ其實海事ニ倣ヒタルモノハ甚ハタ希ナリ、於是其弊ヲ矯メンガ爲メ、特ニ更替ノ期ヲ長フシテ六年トナシ以テ海事ヲ習熟セシムルニ在リタリ、

雍正七年春二月鳳山山猪毛生蕃ヲ討伐ス、

生蕃ノ人ヲ殺シ頭ヲ獵シテ以テ雄ヲ誇ルハ其常習トスルトコロナリ、山猪毛ノ生蕃ハ殊ニ其甚シキモノナリシガ、雍正六年十二月漢人ヲ殺スコト二十二人ノ多キニ至リシカバ次年春二月時ノ總督ハ臺灣道臺鎮臺ニ檄シテ、遊擊斷光潮 同知劉浴ヲシテ其兵ヲ帶ビテ前進シ、更ニ北路參將及諸羅縣知ニ命ジテ其後路ヲ絶チテ大舉討伐セシメ、遂ニ山猪毛ヲ平ラク、是レ討蕃ノ第三舉ナリ、

文員交代ノ例

全年、臺灣道臺同知通判知縣交代ノ例ヲ定ム、其ノ各員在臺一年ニ至レバ、福建總督ハ閩省内地ニ於テ、其ノ更替ノ官吏ヲ棟ヒテ臺ニ到ラシメ、舊員ヲ協辦

年額恤兵銀四萬兩ノ例

スルコト半年ノ後、舊員ヲシテ内地ニ回ラシメ、其政績優著ナルモノハ昇級セシメテ以テ鼓勵ヲ示セルナリ、

全年臺灣戍兵ニ毎年賞銀四萬兩ヲ與フノ例ヲ定ム、

其上諭ニ曰フ、福建臺灣戍守ノ兵丁ガ其父母妻子ノ留マリテ内地ニ在ルモノニハ已ニ加恩シ、毎月米糧ヲ給與シテ以テ養贍ノ資ト爲セリ、聞ク臺兵ノ前例ニ毎月領スル所ノ錢糧中ヨリ五錢ヲ控除シ、内地ニ送リテ一家養贍ノ用ト爲スト、朕思フニ兵丁遠ク海洋ニ涉レルニ得ル所ノ餉銀ヲバ復タ控除シテ以テ其養家ノ口トナサンニハ恐ラクハ本身ノ用度或ハ足ラザラン、今特恩ヲ駐臺兵丁ニ沛フシテ毎年賞銀四萬兩ヲ給シ、(五萬六千圓)内地家口ヲ養贍スルノ用ト爲シ、總督等ヲシテ均平沽分シ期ヲ按シテ給發シ兵丁本身ノ食用ヲシテ已ニ寬舒ナラシメ、而メ其父母妻子ノ内地ニ在ルモノヲシテ又々養贍セシメ、以テ朕カ恤兵賞勞ノ至意ヲ示セヨト、(米一斗ヲ給スルコトハモトノ如シ尙賞銀ハ一人ニ付銀二錢八分ニ當レリ)
全年潛ニ渡臺スル者ヲ拏フルノ禁制ヲ發ス、

潛渡臺ノ禁令

其禁令ノ重ナル條款ハ、犯者アレバ嚴ニ之レヲ訊問シ其乘船所ヲ追究シ、其

蕃界侵入ノ禁令

地方ノ當該各官ハ海口ノ察ヲ失シテ此等潛渡者ヲ致セル者トシテ、罰俸一年ニ處シ若シ各官衙ノ此等犯者ノ隱蔽シテ報ゼザル時、或ハ他ヨリ告發セラレ又ハ上長官衙ヨリ摘發セラレバ該官衙文武各官ヲ盜律ニ照ラシテ處分セシメタリ、蓋シ朱亂ガ奸徒無賴ノ渡臺者ニ緣源スル多キニ顧ミテ以テ此嚴令ヲ發スルニ至リタル歟、抑モ亦タ臺土移殖ノ勢益熾ニシテ遂ニ之ヲ禁ズルノ必要ヲ生ジタル乎、蓋シ國初施琅カ海賊橫行ノ端ヲ絶ンカ爲メニ海禁ヲ嚴ニセシカ、自然經濟ノ理法ハ其嚴令ニモ拘ハラズ、閩粵濱海ノ民就中春來秋去ノ出稼民多カリシト云フ數十萬ヲ吸集シテ遂ニ朱亂ヲ惹起スルニ至リ、茲ニ再ビ海禁ヲ嚴ニスルノ必要ヲ見ルニ至リタルモノナルベシ、

全年蕃界侵入ノ禁ヲ立テタリ、

是ヨリ先キ、土牛紅線ヲ築キ、人民ノ侵界ヲ禁セシカ、侵食ノ勢益甚シカリシヲ以テ、大ヒニ禁ヲ嚴ニシテ之レカ警戒ヲ怠レル當該地方官吏ハ、官一等ヲ降ダシ其上長官ハ罰俸一年ニ處シ、若シ賄賂ヲ納レテ之ヲ許ス如キアラバ、免職ノ上、賊罪ノ律ニ照ラシテ處分セシメ、又タ三年間民蕃交渉ノ事ナク、

竹塹廳ノ設置

彰化縣及竹塹廳ノ行政縣下

無事平安ナル時ハ、當該官ノ姓名ヲ上申セシメテ褒獎シ且ツ該地ノ民蕃ニ賞與ヲ給スルノ例ヲ定ム、是レ亦タ民蕃交渉ノ紛擾ニ懲リテ其退嬰政治主義ヨリ姑息ノ手段ヲ講セル者トシテ見ル可シ、而シテ反面ニ於テ移住民侵食ノ勢ガ益民蕃交渉ヲ致セルヲ證スルモノナリ、

雍正八年御史ノ留臺ヲ二年トシ、在官一年半トナレハ交代員ヲ派遣シ半年間協辦ヲナサシメ而ル後交代セシム、

雍正九年竹塹(今ノ新竹)ニ淡水同知署ヲ移シ、大甲溪以北ノ行政司法財政ヲ管理セシム、葛瑪蘭蕃社又タ之ニ屬ス、

蓋シ此時ニ至リ、彰化縣及ヒ淡水廳下ノ行政事務ハ、大ニ膨脹シテ、且ツ具備セルニ至レルカ故ナリ、今其當時ノ規制ヲ查スルニ、左ノ如シ、

縣衙、彰化縣衙、淡水廳衙、設立セラレ、彰化ノ鹿仔港、蔴霧里、及ビ淡水竹塹、八里坌ニ巡檢ヲ置ク、

倉敖、彰化縣倉敖四所、淡水廳倉敖四所、監倉二所、蕃社々倉三十四所アリ、

管轄 彰化縣管轄保莊ハ二十六保、二百四十二莊、蕃社二十七社、淡水廳管轄保莊ハ百三十二莊、蕃社六十九社アリ、

津渡、彰化縣ノ虎尾溪、濁水溪、大耳溪等、淡水廳八里坌渡、劍潭渡、擺接渡等ニ津渡ノ制ヲ設ク、

水利、彰化縣鹿坡港、等ノ水利ヲ通ズ、

港灣、彰化縣鹿子港、海防港、三林港ハ島内貿易ノ爲メニ開口シ、淡水廳ノ

勞施港、蓬山港、後瀧港、中港、竹塹港、南嵌港ヲ島内貿易ノ爲メニ開口

シ、其貿易船隻ヲ十隻ニ限ル、

舖遞、彰化縣ニ舖遞七、草埔、西螺、埔姜林、小岡、大武郡、半線、大肚舖

(各舖兵三名、

淡水廳ニ舖遞十一、

大甲舖、舖兵三名、

貓孟舖、全、

吞霄舖、全、

後壘舖、全、

老衢崎舖、全、

竹塹舖、全、

南嵌舖、全、

艇舸舖、舖司一名兵四名、

錫口、全、

水返脚、全、

暖々街、全、

義塚、彰化縣ニ義塚一ヲ立シ、淡水ノ義塚ハ乾隆道光年間ニ設立スルモノナリ、

養濟院、彰化縣淡水廳共ニ後年ノ設立ニ係ル、

收入諸款、田園、彰化縣雍正十二年調一萬三千五百七十七甲餘、

淡水廳下則園五十三甲餘、及四十九項餘、(彰化縣ヨリ分轄セルモノ)外ニ下

則田十七項餘、下則園三十一項餘、

地租、彰化縣地租九百十四石餘、

淡水廳地租七百七十四石餘、(此地租ハ新稅率ニ因リテ征スル所後章參照、
人頭稅、彰化縣十一兩餘、(丁數僅カニ二十四民丁ナルカ故ナリ以テ民衆事務
ノ粗漏ヲ見ル)、

淡水廳五兩餘、(人丁十一)、

水餉、彰化縣二百六十六兩餘、

淡水廳十一兩餘、

陸餉、彰化縣四百四十八兩餘、

淡水廳十六兩餘、

官莊、彰化縣官莊二所、四百七十三兩、

(淡水廳官莊二所ハ乾隆二十六年設立ニカ、ル)、

隆恩息莊三所、(雍正八年王郡ノ奏ニ基ク)

一、竹塹城內ニ在リ、臺灣城守營參將ノ設立ニ係ル、

一、海山堡彭家莊ニ在リ、彰化北路協副將ノ設立ニ係ル、

彰化淡水
支出願

一、中港街ニ在リ、艋舺營ノ設立ニ係ル、

支出諸款合計、彰化縣一千五百十五兩餘、(兵餉ハ算セズ)

俸給、千百七兩、

進表費、二兩、

諸廟祭典香燈費、百七十兩餘、

鄉飲費、六兩、

諸廟修繕費、十一兩、

進士貢生舉人賞匾、四兩餘、

舉人會試路費、三十兩、

救恤費、百六十五兩、

囚人食料、二十兩、

淡水廳支出高二百八十四兩餘、

俸給、二百八十四兩餘、

雍正九年ニハ他ノ額目ナシ、

學制、彰化縣、縣學一所、儒學教授一、生員若干、
社學一所、
土蕃社學十九所、
淡水廳、土蕃社學六ヶ所、
書院義塾等、雍正九年頃ニ設立セラレズ、且ツ淡水ニハ官立校ナシ、
附、淡水地方人口増殖ノ景況、
雍正九年調査、十一丁(實數ニアラズ)人頭税ノ定額數也、
乾隆二十九年三十丁、(前同段)、

此時實在人口ハ三萬三百四十二丁口、
嘉慶十六年、二十一萬四千八百三十三丁口、
道光二十一年、四十二萬千三百六十丁口、
雍正九年、彰化以北新墾ノ田ニ付キ畫一ノ税率ヲ定メテ征徴セリ、
是レ巡道尹秦ノ奏議ニ緣源セルモノニシテ、同安下沙則ニ照ラシ、一甲ヲ十
一畝三分トナシ、租銀ハ玄米ヲ以テ上納シ、上田每畝銀八分五厘三毫四絲、

(銀三錢六厘玄米一石(我五斗)合計每甲租玄米二石七斗四升有奇、(二石ハ我五斗)
中田每畝征銀六分五厘八毫八絲四忽、秋米三合八抄七撮、合計每甲租米二石
八升有奇、下田每畝租銀五分七厘五毫五絲、(秋米ハ租ナシ)、合計每甲租米一
石七斗五升有奇、島地ノ上ハ中田ニ照シ、中ハ下田ニ照ラシ、下ハ每畝租銀
五分六厘一毫八絲、下田ニ照ラセバ少差ナリ、
之ヲ要スルニ、此税率ハ獨リ彰化以北ニ行ヘル、モノニシテ、(彰化以北新墾
ノ田、初メテ官ニ報陸セシヘ、康熙五十三年ニシテ、爾來彰化舊率ニヨリテ
收租セシモノナリ)以南ハ、國初ノ舊率ニヨリテ征徴シタリ、而ルニ新稅ハ舊
稅ニ比シテ三分ノ一ニ當レリ、是レ漸ク行政ノ整備シテ、隱田ノ行ハレサル
ト共ニ、勢ヒ租ヲ輕クセサルヲ得サリシカ故ナル可シ、
全年十二月、大甲面社蕃林武力ノ亂アリ、
蓋シ漢人北漸ノ勢ハ既ニ竹塹ニ署ニ設クルニ至リ、漢人田園ヲ侵食スルノ急
ナルハ、又タ大甲蕃ニ遺利ヲ殘サルトナリ、激シテ以テ此蕃亂ヲ惹起シ
タルモノナリ、

鎮臺(總兵)呂瑞麟之ヲ討チテ克タズ各處附近村落皆其焚ク所トナル、淡水同知張宏章義民ヲ招集シテ阿東社ニ至ル、蕃人突起シテ鎗矢齊シク發シ、義民隨テ死スルモノ十八人ナリ(後十八人ヲ旌表シ春秋ニ致祭ス)是ニ於テ蕃勢甚々猖狂ニシテ復タ沙轆香霄等十餘社ト連合シテ彰化縣ヲ合圍ス、百姓奔逃シテ道路ニ絡繹ス、鳳山ノ狂徒吳福先等又タ間ニ乘ジテ起ル、十年六月ニ至リ總督郝王鄰ハ廈門ニ出張シ、前總兵王郎ヲ陸路提督ニ任ジ、兵ヲ率ヒテ呂瑞麟ト共ニ行ヒテ討平セシム、七月出師鹿港ニ着シ、先ツ吳福生ヲ破リ、次テ參將季應越等ヲシテ阿東社ヲ圍ミ、別ニ參將靳光潯ヲシテ隘口ヲ扼シ、其去路ヲ絶チ八月金門鎮ノ季之棟等ヲシテ道ヲ分チ進戰シ、遂ニ林武力ヲ獲テ之ヲ平グ、出師ヨリ是ニ至ル四閱月ナリ、區々タル生蕃ノ爲メニ其清國內地ノ大兵ヲ動かセシメタルト斯クノ如キハ如何ニ當時臺灣戍兵ノ爲メナキカヲ見ルニ足ル可シ、之ヲ北路ノ討蕃第三舉トス、

全年臺灣縣(羅漢門駐)鳳山縣(萬冊駐)諸羅縣(笨港駐)ヲ新設ス、彰化ノ巡檢設立ト同シク下級行政廳ノ擴張ナリ、

在臺者
家族ヲ
招致ス
ルヲ准
ス

雍正十年在臺民ノ家族ヲ招致スルヲ准ス、

先是七年渡臺者ヲ嚴査シ海禁ヲ嚴ニシタリシガ、(前章如所記)新開地治安ノ策ハ移民ヲシテ家族ヲ形作りテ團欒シテ其堵ニ安ンゼシムルニ在リ、是ニ於テ在臺者ガ在内地ノ家族ヲ招携スルヲ准セリ、

雍正十年吳福生亂ヲ謀リ戮ニ就ク、

同年、竹塹巡檢ヲ添設シテ竹塹ニ駐セシメ、兼テ司法警察ノ任務ヲ取ラシム、

又タ八里坌ニ巡檢ヲ置ク、

雍正十一年淡水同知徐治民竹塹ノ周圍ニ刺竹ヲ殖ヘ城壘ヲ築ク、

同年臺灣道員ハ鎮臺協臺ノ例ニ倣ヒ三年ニシテ任滿ノ期トナシ、同知知縣ハ參將ノ例ニ倣ヒテ二年ヲ以テ任滿ノ期トナシ、協辦ノ臺ニ至リテ半年後交代セシム、

同年臺灣府城ノ西門ニ砲臺兩座ヲ築造シ、又タ南路茄藤港ニ砲臺十座ヲ築造ス、

軍備擴張

雍正十一年臺灣府及四縣ニ訓導各一員ヲ置ク、學政ノ振張ト認ム可キモノナリ、同年軍備ヲ擴張ス、

是レヨリ先キ康熙六十年朱亂善後ノ方法トシテ監鼎元ハ軍備振張ノ議ヲ建テシガ、未ダ實施スルニ及バザリシニ、九年ニ至リ熟蕃ノ反亂アリ、匪類又々之ニ乘ジテ起リ彰化、鳳山一帶地方ノ再ビ亂ル、ニ至リ、是ニ於テ亂後ノ軍備擴張ヲナスヲ左ノ如シ、

第一總兵ヲ掛印總兵トセシ事、

掛印トハ其印ヲ捺シテ獨裁スルノ權限ヲ附與セルモノナリ、雍正元年ニ臺厦兵備道ノ職ヲ解キテ兵權ヲ總兵ノ手ニ一任セシガ、是ニ至リ更ニ其獨裁ノ權力ヲ附與スルガ爲メ掛印總兵ニ昇陞セルニ至レルナリ、

第二舊營ノ増汎増員、

- (イ) 總兵直轄ノ左營ニ於テ千總一員、把總一員ヲ増ス、
- (ロ) 南路營ニ於テ都司一員、千總一員、把總二員、步戰兵五百名ヲ増

總兵ヲ掛印總兵ニ昇ホス

舊營兵ノ増兵

ス、

(ハ) 淡水營ニ於テ、(康熙五十八年ノ新設ニ係ル) 其守備營ヲ都司營トス、

第三新營ノ増設、

- (イ) 城守營參將ヲ以テ之ヲ總轄シテ左右二軍ニ分テ、左軍ハ守備一千總一、把總二、步戰守兵五百名、右軍ハ守備一、千總一、把總二、步戰守兵五百名、

(ロ) 北路參將營ノ廢撤ト北路協標中左右三營ノ新設、

協標ハ副將ノ統轄スル所ニシテ舊北路參將營ヲ擴張セルモノナリ、三營ニ分ツ、

中軍都司(中軍)ハ參謀機務ヲ兼ヌ營ヲ彰化ニ置ク、

左營守備ヲ諸羅ニ(舊駐劄地)右營守備ヲ竹塹ニ置ク、

總計舊北路參將營ニ比シ増加スルモノ都司一、守備一、千總四、把總八、步戰守兵千二百八十名ナリ、

北路營ノ撤去北路協三營ノ新設

新營ノ増設

守備管區
ノ改設
第一守備
管區
第二守備
管區

第四守備管區ノ改革擴張及ビ配置汛防ノ増設

- (一) 第一守備管區兼全臺統轄ノ所在地ナル府城へ舊ノ如シ、
- (二) 第二守備管區へ新設ニ係リ、臺灣縣ノ行政區域内ニシテ、其警備へ新設ノ城守營ノ任ズル所ニシテ參將臺灣府城内ニ在リテ之レヲ統轄シ、更ニ其管下ヲ二分ス、

(甲) 岡山管區、

左軍守備之ヲ直轄シ其管下ノ汛防左ノ如シ、

- (イ) 山頭、山腰、山尾、狗勻、崑南、安店等塘、兵百八十名、
- (ロ) 羅漢門汛、猴洞口汛、千總一、兵八十名、
- (ハ) 庫蓬林汛、大湖、半路、竹塘等塘、把總一、兵五十名、
- (ニ) 鹽水浦汛、港岡角、帶圍、瀨口塗、塹埕等塘、兵五十名、

(乙) 下加冬管區、

右軍守備之ヲ直轄シ、其管下汛防左ノ如シ、

- (イ) 哆羅國汛、烏山頭、八將溪、急水溪、鐵道橋、等ノ塘、兵三十

第三守備
管區

名

- (ロ) 佳里與汛、芽港尾、水堀頭、拔仔林等ノ塘、把總一、兵二十七名、

- (ハ) 加漕灣汛、溪邊水、柵紫頭港、拔仔林等ノ塘、兵五十名、

- (ニ) 大穆降汛、葛松、小橋等塘、兵五十名、

- (ホ) 舊社汛、大灣、嵌下塘、兵五十名、

(三) 第三守備管區へ、鳳山縣下ニシテ南路營ノ警備ニ任スル所ニシテ、舊ノ如シ、但シ都司一員ヲ増シテ下淡水ニ分遣シ其他汛防ヲ増設セリ、即チ參將一、兵五百名へ舊ニ仍テ鳳山ニ駐シ、其管下ノ汛防左ノ如シ、

- (イ) 下淡水阿里港汛、都司一、千總一、兵共三百名、

- (ロ) 鳳彈汛、下埤頭汛、守備一、兵二百五十名、

- (ハ) 新園汛、兵百五十名、

- (ニ) 玉山汛、石井汛、千總一、把總一、兵百名、

(ホ) 萬丹汛、把總一、兵五十名、
(ヘ) 攀桂橋汛、把總一、兵五十名、

(四) 第四守備管區ハ舊北路營ノ司リシ所ナリシカ、行政區域ノ増大シ彰化淡水地方縣治ヲ開クニ至リ、從前ノ北路營ニテハ規模小ニシテ、其守備ニ任ズヘカラズ、故ニ協標營ヲ新設シ諸羅彰化竹塹地方ヲ管轄セリ副將一、全司令官兼彰化ノ衛司令官トシテ、彰化ニ駐在シ、中軍都司一、千總一、兵四百五十名ヲ直轄セリ、更ニ其守備管區ヲ三分スルコト左ノ如シ、

(甲) 彰化管區、

中軍都司ノ直轄スル所其管下ノ汛防左ノ如シ、
(イ) 貓霧揀汛、千總一、兵二百五十名、
(ロ) 南北投汛、把總一、兵八十五名、
(ハ) 柳樹浦汛、把總一、兵百名、
(ニ) 貓霧汛、把總一、兵五十名、

(ホ) 蓬山汛、把總一、兵百名、

兼牛罵 沙轆 大肚ヲ巡遊ス、

(乙) 諸羅管區、

左營守備ノ直轄スル所其管下ノ汛防左ノ如シ

(イ) 斗六門汛、千總一、兵百名、
(ロ) 石榴班汛、把總一、兵三十名、
(ハ) 笨港汛、千總一、兵百五十名、
(ニ) 鹽水港汛、把總一、兵六十名、

(丙) 竹塹管區、(或淡水管區)

右營守備ノ直轄スル所、千總一、把總二、直轄兵五百名、
更ラニ管內ノ汛防ヲ分ツテ三小管區トス、
(イ) 中港汛、把總一、兵五十名、
(ロ) 後壠汛、千總一、兵百名、
(ハ) 南嵌淡水汛、把總一、兵五十名、

(五) 第五守備管區ハ、康熙五十七年ノ設立ニ係リ、守備營ナリシガ、今新ニ都司營ニ上ボセリ、

都司、總指揮官トシテ、八里盆ニ駐在セリ、直轄兵數明カナラズ、(艦舢渡頭ノ兵ト合シテ二百九十八名ナリト云フ)、更ニ管内ノ汛防ヲ區分シテ、三小區トス、

(イ) 艇舢渡頭汛、及ヒ長道坑、烟墩、霄裏塘ヲ兼轄ス、千總一、兵數不明、

(ロ) 海山港汛、及ビ砲臺、北港、小雞籠塘ヲ兼轄ス、

把總一、兵七十名、

(ハ) 大雞籠汛、及ヒ大雞籠港、金包里塘ヲ兼轄ス、

把總一、兵百二十名、

(六) 第六守備管區、安平水師舊ノ如シ、

(七) 第七守備管區、澎湖水師舊ノ如シ、

第五、汛兵ヲ文衙ノ差役トセシ事、

第六守備管區
第七守備管區
汛兵ヲ文衙ノ差役ト採用ス

恤兵令ノ一定歴恩

又タ以上武備ノ擴張ニ基キ汛兵ヲ文衙ニ採用スルニ及ベリ、蓋シ民壯(文衙門ノ警吏)ハ多ク無賴流寓ノ者ヲ用ヒタルニヨリ、官威ヲ戴キテ事端ヲ滋生シテ良民ヲ剝害シ弊狀四出シタルヲ以テ、是ニ至リテ澎湖通判、臺灣府經歷臺鳳諸彰四縣典史ノ民壯四十四名ヲ存留セルノ外、道衙門、府衙門、臺防同知衙門、知縣衙門ノ民壯三百五十六名ヲ廢撤シテ保甲ニ編入シ、其兵器ヲ徵收シテ鎮標管兵内ニ置キ、道衙門二十四名、府衙門二十名、同知衙門十五名、淡同知衙門二十四名ニ給シテ其警吏タラシメタルナリ、又軍備擴張ノ餘響ナリ、

第六、恤兵令ヲ一定セシテ、

先是雍正七年恤兵トシテ毎年四萬兩ヲ給與スルノ勅令アリシカ、是ニ至リ(或ニ曰フ雍正八年總兵王郡ノ奏文ニヨリ、四萬兩ヲ以テ臺地各兵營所在地ニ付キ田畝砂糖製造所、養魚池等ヲ購ヒ、各營ヲシテ之ヲ經理セシム、冬期利益收納ノ後テ例ニ從テ納稅シタル上、其六分ヲ以テ兵丁ノ巡回路費、兵丁患者後送費、兵丁遺體後送費トシ、其餘ハ交替兵ノ路費ニ充テ其四分

ハ臺灣府庫ニ貯ヘ、兵丁ノ家眷カ吉凶事件ニ際シ、給與スルノ費ニ充テ
テ請ヒ、准可セラレタリ、是レ隆恩莊ノ濫觴ナリ、而シテ之カ爲メ隆恩
莊息莊公館三ヲ建設セリ、

一ハ臺灣府城ニ在リ城守營參將ノ設クル所、

一ハ海山堡彭家莊ニ在リ彰化北路副將ノ設クル所、

一ハ中港街ニ在リ艋舺參將ノ設クル所ナリ、(以上或ハ雍正九年
建設トモ云フ)

又其恤賞銀ノ分配額及ヒ恤賞例ヲ定ムルヲ左ノ如シ、

鎮標三營兵二千七百七十名、五千五百四十兩、

城守營兵千名、二千兩、

南路營兵一千五百名、三千兩、

北協三營兵二千四百名、四千八百兩、

淡水營兵五百名、千兩、

安平水師二營二千五百名、五千兩、

澎湖水師二營二千名、四千兩、

兵丁恤賞
則例

恤賞則例

一、兵丁妻ヲ娶リ若クハ其子女婚嫁スル片ハ銀三兩ヲ與フ、

一、兵丁火母及ビ其妻ノ死亡スル片ハ銀四兩、

一、兵丁遺骸後送費ハ四兩、

一、兵丁遺骸後送路費ハ遠近ニ從テ上下二等ニ區別シ、上遠キモノ三

兩、下一兩五錢ヲ給ス、但シ同原隊ニ三名以上ノ遺體ヲ運送スル片

ハ、三錢ヲ減ズ、水師兵ノ遺骸ハ營船ニヨリ後送スルカ故ニ一兩ヲ

給ス、

一、患者後送原隊ニ回ルモノハ每旅宿所ニ付四分、

一、巡回兵丁ハ、毎日一分五厘ノ路費ヲ給ス、

一、期滿歸還兵ノ路費ハ遠近ニ從ヒ、三等ニ分チ、上二兩、中一兩五

錢、下一兩ヲ給ス、

文官交代

同年臺灣道臺ハ鎮臺ト同シク留臺三年ニシテ知府、同知、通判、知縣ハ參將ノ
例ニ照ラシ、留臺二年ニシテ協辦官來臺シ、半年協辦ノ後チ更代シ、其道臺以

下在任間治蹟アレバ、内地ニ在リテ昇官スルノ例ヲ定ム、
雍正十二年巡道張嗣昌建議シ各縣ニ土蕃社學ヲ設置ス、

臺灣縣、五ヶ所

鳳山縣、八ヶ所

諸羅縣、十ヶ所

彰化縣、十九ヶ所

淡水廳、六ヶ所

同年文官ノ年四十以上ヲ過テ子ナキモノハ家族ヲ從ヘテ渡臺スルヲ准ス、康

熙六十年ニ頒布セル臺灣文武諸官ノ從眷渡臺ノ禁例ヲ解キシ也、

同年、彰化城ヲ築ク、

雍正十三年十月彰化ノ柳樹浦登ノ生蕃肆出シテ焚殺ス、彰化副將ノ同知ト牒知

シテ之ヲ討平ス、

同年諸羅、灣裏街地震ヒ、民家倒塌スルモノ多シ、三千兩ヲ賑恤ス、

乾隆元年、書院ヲ獎勵スルノ勅令ヲ頒布セラル、

蓋シ乾隆帝ノ學政ニ銳意スルヲ見ル可ク、又タ科擧ノ弊ニ顧視スル所アリシ
ニヨル歟、然レ洛陽ノ說ニ拘泥セラレ未ダ國家教育ノ本旨ニ及ビ至ラザルハ
乾隆帝ノ英資ト雖モ、支那國情一步ヲ脱出スル能ハザルヲ見ル可シ、又之ニ
次テ五年ニ大學ヲ頒チ、四十四年五十二年ニ同ジク教育勅語ノ頒布アリ、(後
章參照スベシ)

其大意ニ云フ、書院ハ人才ヲ育スル所ニシテ已ニ雍正先帝ノ國庫金ヲ以テ其
經費ヲ支給セラル、ノ例ヲ定メラル、ガ如キ、恩意至渥ナリト云フ可シ、蓋
シ京師國子監ヲ建ツルト雖モ遞升ノ法ナシ、(小中大學ト進課スルノ制度ナキ
ヲ云フ)、是レ書院ノ必要ナル所以ニシテ特ニ人材ヲ教育シテ朝廷教育ヲ重ン
ズルノ意ニ負カザルヲ期スル者ナリ、抑モ學業ハ儒者ノ本務トス、況ンヤ藉
テ以テ聲氣ノ資、遊揚ノ具トナスヤ、内身心ニ益ナクシテ外民物ニ裨ナシ
即チ降テ文章ニ求ムルモ名ヲ成スハ希ナリ、是レ豈ニ養士ノ初旨ナランヤ、
即チ各省督撫學政ハ必ラズ書院ノ長ヲ選ブニ經ニ明ニ行ヒ修マリテ模範トナ
ル可キモノヲ以テシ、生徒ヲ選ブニモ秀異修足ノモノヲ以テシ、放誕不羈ノ

モノヲ退ケ、朱子ノ白鹿洞規ニ倣ヒ其身心ヲ檢束シテ分年讀書ノ法ニ倣ヒ、課程ヲ了ヘテ經史ニ貫通セシム、之ニ率ハザルモノアラバ擯斥免職ス可シ、又其教學ノ任ニ當ルモノ三年ニシテ功課ヲ考ヘ、尙六年ノ後成效アルモノハ奏請シテ昇級ヲ議スベク、諸生中材器尤異ノモノハ薦舉シテ以テ鼓舞ニ供ス可シト、

同年彰化ニ普濟堂ヲ建設ス、

同年内地沿岸地方ニアル船戸ノ私ニ路照ナキモノヲ載セテ渡臺セシムルヲ嚴禁シ、之ガ警戒ヲ怠ル當該地方ノ官吏ハ處罰ヲ加ヘ、以テ無賴者ノ渡臺ヲ禁ズルコトヲ講ゼリ、

同年八里坌城堡ヲ觀王山ニ作ル、人民ノ義捐シテ築造スル所ナリ、

同年、人頭稅四錢ヲ減ジテ每丁銀二錢ヲ徵ス、之ニヨリ徵收高減額シテ三千七

百六十五兩餘トナル、國初八千餘兩ニ比シテ半數強ニ當レリ、

其勅令ニ曰フ、元々ヲ愛養スルコト内地百姓ト海外蕃民ト皆一視同ニシテ徭ヲ輕シ各其所ヲ得セシム、聞ク、臺灣丁銀(人頭稅)每丁銀四千七分ヲ徵シ再ビ

人頭稅減額

蕃人人頭稅減額

火耗ヲ加ヘバ則チ五錢ニ至ルト、查スルニ内地ノ徵銀ハ一錢ヨリシテ二錢三錢ニ至リテ各地相等シカラザルモ、之ヲ臺灣ト比スルニ、臺地ハ内地ノ倍數ナリ、民未ダ歷スルヲ免レズ、茲ニ臺灣四縣丁銀ヲ以テ悉ク内地ノ例ニ照シ

每丁銀二錢ヲ徵シ以テ民力ヲ紓ヘ永ク例ト爲セヨト、乾隆二年、蕃丁ノ人頭稅ヲ減ジテ二錢トス、之ヲシテ民丁ト同ジカシムルナリ、之ガ爲ニ徵收高減シテ三百四十九兩トナレリ、(雍正四年ノ徵收高二千十六兩ニ比シテ六倍強ノ減額ナリ)其上論ニ曰フ、

聞ク、臺灣蕃黎大小計九十六社アリ、毎年輸納ノ項ハ名クテ蕃餉ト云ヒ、丁ヲ按シ徵收シ二兩ヨリ一兩有餘ニ至ルト、朕思フニ民蕃皆吾赤子ナリ、原ト技視ナシ、輸スル所ノ蕃餉ハ則チ百姓ノ丁銀ナリ、宜シク民丁ノ例ニ照ラシテ銀二錢ヲ徵シ其餘ハ悉ク裁減スベシ、督撫ハ宜シク地方官ニ轉飭シテ、出示曉諭シテ實力奉行シ、務メテ蕃民ヲシテ均シク實惠ニ沾ハシム可シ、又タ聞ク澎湖一廳淡防廳、均シク人丁ヲ編シ每丁銀四錢ヲ徵シテ從前ヨリ裁減スルコトナシト、亦タ宜シク臺灣四縣ノ例ニ照ラシテ、減徵ス可シト、

乾隆三年文武官ノ交渉事例ヲ一定セラル、其勅諭ニ曰ク、
 臺地ニ在リテ人民等不法ノ事アレバ武員先ヅ之ヲ拘引捕縛シ、地方官ニ移送
 シテ究治セシム、即チ武衛武員ハ平時司法警察ノ任務ヲ取ルモノナリ、又兵
 丁ノ事端ヲ生ジ擾動スルハ文武ヲシテ營伍ニ照會シテ責懲セシメ、若シ彼
 此推諉セバ罰俸一年ニ處ス、各地方官汛防員辨ハ切實ニ之ヲ奉行シ、時々調
 査ノ上報告ス可シ、該上長官衙更ニ之ヲ查校シテ徇縱スルアラバ徇庇ノ例ニ
 照ラシテ處分スト、蓋シ文官ヲシテ武員兵丁ノ進退ニ嘴ヲ容レシムルハ清制
 文官ノ勢武員ノ上ニ位スルガ故ナリ、然ルニ當時武備汛防漸ク備ハリ、兵員
 ノ恤給漸ク洽チク血氣ノ兵丁モ好ンデ渡臺スルトナリ、事端ヲ生ズルノ憂
 生ジテ遂ニ此令ヲ發スルニ至レルナリ、
 同年臺風二縣風災アリ、地租ヲ免ズルコト各々差アリ、
 乾隆四年臺灣ノ舉人會試ニ赴クモノ、數ヲ十人トシ、中ニ就テ一員ノ進士ヲ採
 用スルノ例ヲ定ム、巡視御史諾穆布ノ奏請ニ依ルナリ、
 乾隆五年諸羅鹽水港風災アリ二百兩ヲ賑恤ス、

全年臺灣民ノ家族ヲ内地ヨリ招致スルヲ禁ス、其移民ノ益熾ニシテ紛擾ノ端ヲ
 生ゼンコト恐レテ雍正十年ノ令ヲ廢シ、七年ノ禁ヲ復シタルモノナリ、
 全年大學ヲ頒布シ併セテ教育勅語ヲ發布ス、科舉ノ流弊ヲ矯正センカ爲ニ前年
 頒布ノ勅令ヲ補遺セルモノナリ、
 其大意ニ曰フ、士ハ四民ノ首タリ、而シテ大學ハ教化ノ先ニスル所ニシテ四
 方是ニヨリテ型ノ依ル可キヲ知ル、頃者生員ヲ教育スル古人ノ成法規條朱子
 白鹿洞規ヲ云フニヨル可キヲ云フ、已ニ備ハレル等ナレバ科名聲利ノ習、深
 ク人心ニ入リテ積重返リ難ク、士子皆ナ之ニ馳セテ聖賢ノ道ヲ志スモノナシ
 抑モ國家ノ經義ヲ以テ士ヲ取ルハ多士ヲシテ聖賢ノ言ニ由リテ聖賢ノ心ヲ體
 シ之ヲシテ聖賢ノ徒タラシムルニ在リ、豈ニ文藝ノ末ニ沾々タラシムルノ謂
 ナランヤ、朱子ノ論言ニ曰フ、學ハ以テ己レノ爲メニス、科學ハ其目的ニア
 ラズ、苟モ能ク思フ科舉ノ外ニ致シテ古人ノ學ヲ所以ヲ知ラバ則チ將ニ罷マ
 シト欲シテ已ム能ハザル者アラント、朱子ノ此言ハ古今ノ通患ニ適切ナルモ
 ノナリ、朱子又曰フ、科舉人ヲ累スルニアラス、人科舉ニ累セラルト、故ニ

學者己レノ爲メニスルハ聖賢ノ徒ナリ、科名ニ志スハ世俗ノ陋ナリ、國家ノ
人才ヲ養育スル將ニ用ヒテ君ヲ致シ民ヲ澤シ國ヲ治メ天下ヲ平ラカニスルニ
在リ、而ルニ積習ニ拘シテ聖賢ニ至ルヲ求ムルヲ能ハズ、豈ニ謬ラスヤ、朕
君師ノ任ニ當ル厚ク諸生ニ望ムアリ、適マ朱子ノ書ヲ讀ミ其言ノ士習流弊ニ
切中スルヲ見テ、故サラニ諸生ノ爲メニ之ヲ言ヒ、司教者ヲシテ教ヘル所以、
學者ヲシテ學フ所以ヲ知ラシムト、

同年臺灣兵丁交代ノ路費ヲ閩省ヨリ支給スルノ例ヲ定ム、是ヨリ先キ臺灣衛戍
兵員交替ノ路費ハ臺嘉二縣ノ官莊項目中ヨリ支給セシカ、此ニ至リ上諭ヲ奉シ
總督ハ閩省ニ在ル利息金錢中ヨリ餘剩セル數ヲ查算シ、毎年合計若干ヲ以テ此
中ヨリ更替兵ノ路途遠近ヲ分別シ、往來路費ヲ給シ營中ニテ貸借スルノ弊害ヲ
防杜セリ、上給每名路費一兩五錢、下給每名一兩ヲ給シタリ、上給ハ路途ノ遠
ク、下給ハ道路ノ近キモノヲ云フナリ、

乾隆六年巡臺御史書山張涓ハ上書シテ臺灣米價ノ低平ヲ保タンガ爲メ府倉ヲ建
テ豐歉ニ備ヘ、又廈門ヨリ兵米ヲ買フニ當リテハ前以テ稟知シ、且ツ時價ニヨ

兵丁交代
路費ヲ閩
省ヨリ發
給ス

府倉設立
ノ議

米價國初
ニ倍漲ス

リテ採買スルノ例ヲ定メンコトヲ請ヘリ、

蓋シ國初臺地ノ人少ナク而モ地肥ヘテ年ニ二回ノ收穫アリタルカ故ニ、穀價
低ク、粃一石銀三錢之レヲ我斗升銀價ニ換算セバ粃五斗、四十二錢ノ割合ナ
リ、然レモ此時ニハ銀少クシテ貴ク、穀多クシテ廉ナルカ故ニ一兩ヲ以テ一
圓四十錢ノ現價ニ換算シタルハ多少増算ノ誤ヲ含メルノ割ナリナリシカ故ニ、
盛ニ漳泉ニ向ツテ輸出シ、其額ハ福建兵餉補充及ヒ眷屬ニ送致スルノ兵眷
米ト合シテ、八九十萬圓ニ上ボリシカ、已ニシテ臺地人口ノ増殖著シキト銀
價ノ下落トニヨリ、銀價ノ輸入ハ交通盛ナルト共ニ増シタルハ自然ノ勢ナル
可クレバナリ、穀價ハ上ボリテ一石七錢、米價ハ一石一兩五錢ニ上ホレリ、
殆ント國初ノ倍價ナリ、是ニ於テ一旦緩急アルトキ益々穀價ノ暴騰ヲ來スノ
恐レアリトシ府倉ニ穀四十萬石ヲ貯フノ議アリ、三年ノ間ヲ以テ之レヲ買收
シ、以テ緩急豐歉ニ備ヘ又兼テ廈門兵米ノ從前一石三錢ヲ以テ採買スルノ例
ヲ廢シ、時價ヲ以テ買收スルノ議ヲ立テタリ、而シテ之レカ爲メニ時々米價
ヲ督撫提鎮ニ通報スルコトセリ、思フニ是レ臺地經濟ノ發達ヲ窺フ可キモノ

新墾田ノ新税率

ナル可シ、乾隆八年淡水海外渡航商船ノ數ヲ定メテ十隻トナス、舊制四隻アリシカ雍正元年、増シテ六隻トナシ、是ニ至リ十隻ヲ以テ定メトナセリ、乾隆八年道臺及教職ノ三年留任ノ後チ尙ホ半年臺灣ニ留マリテ協辨スルノ例ヲ廢シ、三年ニシテ更替セシムルコト、セリ、乾隆九年新墾田ヘ新税率ニヨリテ征徴セシム、是ニ於テ全臺ノ税率ハ三種ニ分タル、舊率、雍正七年ノ改正率、及此新税率、是レナリ、今當時ノ勅令ヲ披萃シテ、左ニ記ス

七年以後登錄徵稅ノ田園ヘ原議及ヒ部議ノ奏スル所ニ據ルニ皇考ノ諭旨ヲ欽奉シテ同安科則ニ倣フテ以テ臺灣舊額ニ照ラシテ納稅セシム可シト云フモ、朕念フニ臺灣ノ民人ヘ遠隔ノ海洋ニ在リ、應ニ薄賦ノ恩ヲ加ヘテ以テ優恤ノ意ヲ昭ラカニスベキモノナリ、乃チ從前ノ開墾田園ノ舊額ニ依ルモノハ減ズルコトナキモ、又々雍正七年以後報墾ノ地ハ宜ロシク仍ホ雍正九年春旨ノ案ニ遵フテ辨理シ、其已ニ同安下則ニ照ラシテ徵收スルモノハ則チ加賦ヲ再議セ

サル可ク、其以外嗣後ノ墾田園ヘ地方官チシテ肥瘠ヲ確勘シ實在チ酌量シ、同安則例ニ照ラシテ上中下ヲ分別シ、額ヲ定メテ收稅シテ墾民チシテ輸納ニ寛舒ナラシメ、以テ朕カ邊方チ惠ムノ至意チ知ラシメヨト、其稅税率左ノ如シ、

上則田、同安民米ノ例ニヨリ每畝一甲ハ十一畝三分銀八分五厘三毫四肆ヲ徵シ、米一石ヲ以テ穀三石ノ割トナシ、穀粳ニテ收メシムルコトノ如シ、(其價ハ時ノ相場ヲ以テ見積ルナリ)

中則田、同安民米ノ例チ照ラシ、每畝銀大六分五厘八毫八絲四忽チ徵シ、別ニ秋米三合八抄七撮チ徵シ、米一チ穀二ノ割ニテ收ム、

下則田、同安官米ノ例ニ照ラシテ每畝銀五分七厘五毫五絲チ徵シ秋米チ徵セス、

上則田、中田ノ例ニ照ラス、

中則田、下田ノ例ニ照ラス、

下則田、同安鹽米不徵ニ照ラシ、每畝銀五分六厘一毫八絲チ徵シ、秋米チ徵

セス、

其稅率我石ニ換算セバ左ノ如シ、
乾隆九年以後新墾田稅率

- 一上則田 四石一斗二升六合六一、 我二石一斗七升五合、
- 一中則田 二石八斗六升五合、 同一石五斗一升、
- 一下則田 一石七斗五升八合三、 同九斗二升七合、
- 一上則田 二石八斗六升五合、 同一石五斗一升、
- 一中則田 一石七斗五升八合三、 同九斗二升七合、
- 一下則田 一石六斗九升八合、 同八斗九升五合、

同年、臺地武官ニ輸シテ武官ノ小作人ヲ招集シ田畝ヲ耕作スルヲ禁ゼリ、其官勢ニヨリテ兼併ヲ行ヒ民蕃紛擾事件ノ之レカ爲メニ益滋生スルヲ加フルヲ以テナリ、當時ノ勅諭ヘ其消息ヲ見ル可キモノアリ之ヲ載録ス、

武官ノ土
地ヲ開墾
スルヲ禁
ズ

各省武官ニ諭シ各其任所ニ在ツテ地主タルヲ許サザルヘ、既ニ内地ニアリテ令示スル所ナリ、況ンヤ海外ハ民蕃交錯ノ地ナルニ於テナヤ。武官ニシテ

莊田ヲ開キテ耕作收利センニハ、縦ヒ民産ヲ占奪スルノコトナキモ、家僕小作人ノ勢ヲ恃ミテ人ヲ凌キ、事端ヲ生ジテ濕擾スルハ、勢ヒノ免ル能ザル所ナラン、朕聞ク、臺灣地方、從前ヘ地廣ク人稀レニ、土地豐潤ニシテ、武官上長莊産ヲ創立シ、佃人（小作人）ヲ呼ビ開墾シテ、以テ己レノ業トナスモノ比々トシテ皆ナ是レナリト、且ツ客民アリ、蕃地ヲ侵占シテ、彼此爭競スルニ乘シ、武官ハ其官職ヲ利用シテコレヲ沒收シ因テ鋸シテ己レノ有トナスモノアリ、或ハ亦タ前官ノ開拓セル田産ヲ受ケテ、據テ以テ己レノ有トナスモノアリト、若シ底ヲ徹シテ清革シテ、嚴ニ禁絶ヲ行フニアラザレバ遂ニ蕃民ト客民トヲ寧輯スルノ道ニアラズ、宜シク逐一察勘シテ、凡ソ武官上長ニ任ズル者ノ、田産ヲ創立セシモノハ、之レヲ勘丈察明シテ蕃地ヲ侵占スルコトナク、ソノ民蕃ト爭執スルコトナキモノハ、舊令ニ照ラシテ業ヲ立ツルヲ得ルト雖モ、若シ民蕃地界ヲ侵占スルノ處アラニハ、公ヲ乘リテ清釐シ、民産ハ民ニ歸シテ、前ニ倣フテ濛混シテ以テ爭端ヲ啓ラキ侵占ヲ逞クスルコトヲ許サズ、且ツ之レヨリ以後臺灣武官大小各官ハ、田産ヲ創立シテ、原野ヲ

開拓スルヲ許サズ、若シ名ヲ開拓ニ托スルモノアラバ、該官ヲ以テ部ニ交シテ、嚴ニ議處ヲ加ヘ、地畝ハ官沒シ、又該督長官ノ通同容匿スルモノハ、並ニ議處ヲ行フ可シ之ヲ欽シメヨト、

乾隆十年澎湖風災アリ六百兩ヲ恤賑ス、

乾隆十一年全臺ノ地租ヲ全免ス、清國內地全免ノ例ニ倣ヒタルモノナリ、

同年臺地民ノ家族ヲ携ヘテ移住スルヲ准ス、乾隆五年ノ禁ヲ解キタルナリ、

次ニ十二年ニ至リ再ビ之ヲ禁止ス、其一張一弛一ニ當局者ノ觀察何如ニ依リタルモノ、如シ、

乾隆十二年勅令ニヨリ全臺ノ人頭稅ヲ以テ、全臺ノ現在田賦ニ配賦シテ徵稅シ、業戶(大租戶)ヲシテ納稅セシム、

蓋シ、人頭稅カ政治上ニ於テ不穩當ニ、財務上ニ於テ不確ナルニヨリ、改正セシムルニ至リタルモノニシテ、則チ人頭稅ハ一變シテ地租ノ副稅トナリタリ(性質上亦タ財政上ノ一進歩ナリト雖モ、之レガ爲メニ田政稅率ノ繁雜ヲ來セシトハ一層甚シキヲ加ヘタルモノナリ、當時ノ配賦割合ハ左ノ如シ、國初

人頭稅
地租ニ配
賦ス

人頭稅
地租ニ配
賦ス

臺灣ノ田園ハ、共三萬〇六百十九甲九分八厘アリ、之ヲ十一畝一甲ノ割ニテ換畝セバ、三十三落六千八百十九畝七分八厘ナリ、雍正七年新墾田園ハ甲ニ依ラズシテ畝トナシ同安則例ニヨリテ課稅センガ、其田園三十二萬九千三百五十四畝七分、通計新舊田園六十六萬六千一百七十四畝五分ナリシガ、是ニ至リ丁銀ノ配賦ヲ定メ、上田一畝ニ付キ四厘一毫八絲六忽、中田四厘三毫八絲一忽、下田四厘六毫三絲九忽、上園四厘九毫二絲九忽、中園五厘二毫五絲七忽、下園六毫三絲三忽、新墾ノ田ニハ每畝七厘一毫六絲九忽、園ニハ每畝八厘六毫三絲九忽、尙每兩火耗銀七分併ニ平餘二分ヲ徵收シ以テ光緒十四年ニ至レリ、(火耗平餘ノ說明ハ附錄一卷ノ財政ノ部ニアリ)

同年臺灣縣ニ普濟堂ヲ設立ス、

乾隆十四年臺灣縣大雨アリ、河水氾濫シテ田畝ヲ毀損スルヲ多シ、

乾隆十五年大水大ニ田園ヲ破リ船舶ヲ碎クモノ甚ハタ多シ、

同年八里盆巡檢ヲ新庄ニ移轉ス、

乾隆十七年、漢御史ノ學政使兼攝ヲ解キ、臺灣道臺ヲシテ臺灣學政使ヲ兼テシ

乾隆十七年、臺灣監察御史巡視ノ例ヲ定メ、三年毎ニ一回宛巡視シテ必ズシモ臺灣ニ留駐スルヲ要セザラシム、又々學政使ノ任ヲ解キ、臺灣道ヲシテ之ヲ兼テシム、

乾隆十九年秋九月諸羅大旱大風アリ、詔シテ地租ヲ減ス、

乾隆二十三年巡臺御史楊通事社丁ノ慣例ヲ廢撤シテ蕃役ヲ免シ、併ニ私墾ヲ禁セリ、

當時ノ記文ニヨレバ土著ノ蕃人(熟番)ハ性順ニシテ魯ナルニ、移住ノ漢人ハ益々繁殖シテ奸良雜處シ、南北兩路ノ蕃地ハ彼レ奸猾ナル豪民ノ爲ニ詐取勢占セラレタリ、而モ亦タ其漢人ノ尤モ奸ナル者ニ至リテハ因縁シテ通事トナリ間ニ處シテ收斂シ雞豚迄ニ課税シ、且ツ其番人ニ賃銀ヲ與ヘスシテ勞役シ恣横至ラザルナク、幾ント蕃人ヲシテ生ヲ聊ンゼザラシメタリ、是ニ於テ楊觀察ノ巡臺スルヤ、乾隆九年ノ勅令ノ旨ヲ奉シ、先ツ通事社丁ノ例ヲ除キ、疆界ヲ釐定シ永カク蕃役ヲ免シ及ビ漢人ノ私墾若クハ採買スルヲ禁セリ、

養役ヲ免
社丁ノ慣
例ヲ廢ス

船部司
アテ

蓋シ熟番撫恤ノ一端ニシテ時弊ヲ一洗セルモノナリ、

乾隆二十四年淡水同知楊恩、竹塹城ノ四隅ニ砲臺ヲ設ク、此年淡水都司吳順艇

舸ニ移駐ス、艇舸ニ營アルハ茲ニ始マル、

同年彰化縣丞ヲ築港ニ置キ警察及ヒ船舶取締ヲ兼掌セシム、

同年諸羅縣ニ玉峰書院、彰化ニ白沙書院ヲ設立ス、

同年臺灣知縣夏瑚ハ義捐金ヲ募リ臺民ノ死屍ヲ廈門ニ轉送シテ該家屬ニ引キ渡

セリ、當時傳ヘテ善政ト爲ス、

同年、臺灣經費ノ不足ヲ告グルニヨリ、例規ヲ定メ、一年毎ニ福建省海關ヨリ

四十萬圓、上海々關ヨリ四十萬圓ヲ補助送給スルコトトナレリ、是レ臺灣財政

ノ一大膨脹ト云フ可シ、而シテ此ノ補助款ハ近世迄永續セシモノナリ(附錄第二卷財政ノ

照部參)

同年臺灣縣ニ監倉一、彰化縣ニ一、淡水廳ニ二ヲ設立ス、

乾隆二十五年臺民ノ家族ヲ携ヘ來ルヲ許ス、此令ハ一張一弛定リナカリシカ

乾隆二十四年ノ調査ニヨレバ、同二十三年十二月ヨリ二十四年十月ニ至ル迄、

臺民ノ家
族ヲ携ヘ
來ルヲ許
ス

清人ノ臺
地ニ在リ
テ死故セ
ル物ヲ送
ル故ニ送
ル傳ヘテ
善政ト爲
ス

密航犯案二十五件犯罪者老幼男女九百九十人ナリ。此外渡臺密航セシモノ、恐
 ラク此數ノ倍ニ上ホリシナラン。是ニ於テ福建巡撫吳子功ハ是レ拓殖ノ方法ヲ
 得ル所以ニアラズトシテ、奏シテ曰フ、民ハ土著鮮クレバ輕去ノ思アリ、人ハ
 室家アレバ久安ノ計ヲ謀ル、乃チ奸民ノ偷渡ヲ禁ンセンカ爲ニ併セテ良民ノ家
 族ヲ携フルヲ禁ジ、在臺者ヲシテ身ハ羈旅ニ同シク、常ニ内顧ノ憂ヲ抱カシメ
 在籍者ヲシテ天涯ヲ悵望シテ隅ニ向ツテ泣クヲ免レザラシムルハ皇上ノ一視同
 仁ノ聖意ヲ仰體スル所以ニアラズト、因テ允可ヲ得テ又々此禁ヲ解キ、更ニ令
 ヲ定メテ以後家眷ヲ招叫セシトスルモノハ之ヲ該所屬ノ廳縣ニ申請シ、該廳縣
 ハ之ヲ府道ニ報告シ、旅行免狀ヲ得テ回籍シ、更ニ該州縣ニ申請シ、再ヒ其路
 照ヲ得テ家族ヲ隨從シテ歸臺シ、更ニ廈門臺防同知及ヒ海口ノ水汛ニ於テ、旅
 行免狀ヲ查見シ、之ニ違ハザレバ上陸ヲ許スフトナセリ、
 乾隆二十六年諸羅新港巡檢ヲ移シテ平六巡檢トナス、
 乾隆二十八年淡水廳下竹塹ニ書院ヲ建設ス、明志書院是レナリ、
 乾隆二十九年淡屬ノ蕃社ヲ查セシ、七十社アリ、

鹿港理蕃
同知ノ設

乾隆三十一年鹿港ニ理蕃同知ヲ置キ同知衙署ト謂ヒ、淡水、彰化、諸羅、
 一廳二縣内ニ於テ民蕃ノ交涉事件アレバ、一切其管理ニ任ジ、兼テ又鹿港海
 防ヲ司トラシム、
 是レ二十三年楊御史改革ノ議ニ基キタルモノニシテ、此ニ謂フ所ノ蕃ハ、則
 チ熟蕃ニシテ當時記ス可キモノハ、嘉義ニ二十社、彰化三十三社、淡水三十
 六社之ナリ、當時蕃社ノ制度ハ每社通辨ト酋長トヲ設ク、其衆ヲ約束セシメ、
 而シテ同知ハ之レカ廢置ノ權ヲ握リタリ、此外歸化ノ生蕃ノ嘉義ニアルモノ
 由優六社及阿里八社アリ、崇又八社モ亦タ餉ヲ彰化ニ輸シタリ、淡水ノ怡仔
 難ハ名ハ餉ヲ輸スト雖モ通路梗塞シテ通セス、水沙連二十四社ト共ニ界外ト
 ナセリ、
 以上歸化ノ熟蕃ハ皆ナ雉髮セシメ且贖社輸納セシメタリ、贖社トハ民蕃互市
 ニシテ、輸納トハ租ヲ官ニ納ムルナリ、其歸化セサル蕃ニ至リテハ依然タル
 猛々獠々ノ狀態ニシテ其野性ヲ制スルニ由ナク、間々熟蕃ヲ掩殺スルモ有司
 之ヲ治スルヲ能ハスシテ手ヲ拱シテ大息セルノミ、此後隘丁ノ組織ハ之ニヨ

リテ起レリ、
蓋シ康熙六十一年土牛線ヲ築キテ生蕃ト境ヲ限リ、民ノ侵食シテ事端ヲ生スルコトヲ禁ゼシカ、蕃人蠶食ノ勢ハ到底此等姑息ナル隔離主義ニテ制止ス可ラズ、竹塹一帶野蠻出沒ノ地ハ遂ニ在廳ノ市街トナリテヨリ以來、蕃人拓殖ノ勢ハ駸々トシテ日將月進シ、廳ノ所謂土牛紅線ハ業ニ既ニ腹地トナリテ又々其痕跡タニ微スルニ由ナキニ至リ、是ニ於テ蕃ノ歸化附屬スルモノハ則チ同知ヲ設ケテ之レヲ管轄セシモ、其制スルコト能ハサルノ生蕃ニ至リテハ當局有司モ之ヲ禁スルコト能ハズ、汛防ノ兵モ又々之ヲ征スルノ餘裕ナシ獨リ彼レ拓殖ニ銳ナル冒險ノ漢人ハ此等官ノ保護ニ依頼スコトナク、自ラ民隘ヲ設ケテ傍ヲ防蕃ノ法ヲ講シツ、蠶食ヲ逞フシタリ、
傳説ニヨルニ暗坑内外五庄ノ地方ハ潘開鳳ノ開拓セシ所大崙坎地方ハ謝秀川ノ開キシ所、項雙溪地方ハ連喬與爾ノ移殖シタル所、其餘水返脚、深坑、新店、皆乾隆年間ニ開拓セラレタルモノナリト、彼等拓殖ノ法ハ墾戶(開墾ノ頭領)ヲ股ヲ集メ、(株)ヲ集メルコトナリ(賃)ヲ合シテ開墾セシモノアリ、(例)セハ大崙

坎ノ如シ)或ハ一有力家ノ資ヲ投シ、(業主)個人ヲ招キテ拓殖セシモノアリ、(例)セハ暗坑頂雙溪ノ如シ)而シテ之等拓殖ト云ヒ、開墾ト云フモ、皆原住民者ヲ驅逐セシメル上ノコトナレハ、其進取ト自衛トノ爲ニ、各要地ニ隘蕃ヲ設ケ、隘丁ヲ雇ヒ、日夜監視ノ下ニ於テ、拓殖ヲ計リタリキ、之レ所謂民隘ニシテ、後來官隘ノ緣源トナリシモノナリ、而シテ之等民隘ノ組織ハ、當時理蕃同知ノ已ニ蕃蕃ヲ制スルノ威力ナキカ故ニ、施然トシテ其爲スマ、ニ放任シタリシモノナリ、
又傳説ニヨルニ乾隆五十年林本源ハ私財ヲ投シ、基隆ヨリ暖々街、四脚亭、三瓜庄ヲ經テ三貂嶺ヲ超ヘ頂雙溪ニ通スルノ道路ヲ開キタリト云フ、固ヨリ鳥道獸徑ニ過キサレ可シト雖モ、各所ノ開拓ハ遂ニ道路開築ヲ促スニ至レルヲ見ルナリ、
乾隆三十五年九月彰化大穆降庄ノ奸民黃教亂ヲ作シ誅ニ伏ス、彰化ハ由來民風尤モ悍ニシテ亂ヲ好メリ、林爽文ノ亂、黃教ノ變、戴萬生ノ反、悉ク彰化ノ地ニ興ラサルナシ、然ルニ同治末年沈葆楨ガ全臺三區處ニ分

チ、彰化ニ中路營務處參謀部ヲ分設スルニ當リテ、林朝棟專ラ其責ニ當リ、在
來ノ匪首ニハ位冠ヲ與ヘテ招撫シ、以テ外面ノ平安ヲ維持セリト云ヘリ、(近
世紀附錄參照)

實學獎勵
ノ勅語

乾隆四十四年、實學ヲ獎勵スルノ勅語ヲ頒布ス、乾隆元年同五年ノ勅語ト同シ
ク、皆十科舉ノ弊習ニ鑑ミテ實學ヲ獎勵セシモノナリ、
其大意ニ曰フ、朕曾テ諭旨ヲ降セルヲ屬々ナルモ讀書士人藐々トシテ此義ニ
於テ顧ミルコトナシ、安クソ他日國家ノ任使ニ備ハルヲ求ムヘケンヤ、(科舉
ノ學チカメテ實學ヲ務メサルガ故ニ、及第ノ上時務ニ當リテ行フ所ハ學フ所
ニアラサルノ弊ハ、已ニ學政ノ部ニ説ク所ノ如シ)、近來制義ヲ習フモノ、唯
速達ヲ圖リテ正規ニ循ハス、遂ニ經籍ヲ以テ之ヲ高閣ニ束テ、庸陋墨卷ヲ
取テ勦襲シ、其浮詞ニ效フテ以テ全ク義ヲ精シクスルナシ、師ハ是ヲ以テ
教ヘ、第ハ是ヲ以テ學ヒ、舉子ハ是ヲ以テ揣摩ヲ爲シ、試官ハ是ヲ以テ去
取ヲ爲ス、且ツ今日ノ舉子ハ、異日ノ試官トナルモノナリ、若シ飄然悔悟ス
ルヲ知ラサレハ、豈ニ獨リ文風日弊フル、ノミナランヤ、即チ士習モ亦タ弊

ニ弊フレントス、嗣後文ヲ作ルモノハ務メテ經義ニ沈讀シテ先儒ノ傳說ヲ體
認シ、聖賢ノ精蘊ヲ開發シテ、務メテ陳言ヲ去リ、詞達シ理舉リ以テ古人立
言ノ道ニ合ス可シ、試官モ亦タ殿ニ甄別ヲ爲シ、一切ノ腐詞爛調ハ概テ擯ケ
テ錄セズ以テ朕カ雅ヲ崇ヒ萃ヲ黜クノ至意ニ副ハンコトヲ期スベシト、
乾隆四十八年泉漳人ノ分類爭鬪アリ、之ニ由ツテ其亂首タル翁雲寬楊光勳ノ田
園ヲ官沒セリ、

鹿港ヲ開
ク

乾隆四十九年鹿港ヲ開キテ閩省蚶江ト航海交通セシム、福州將軍永公ノ奏明ニ
基クモノニシテ臺地拓殖ノ北進セルヤ一出口ヲ求ムルノ必要ヲ生シ、遂ニ鹿
港ヲ開口セルニ至レルモノニシテ、當時鹿港ニハ一巡檢、一千總汛防アリテ
之ヲ取締マレリ、其後朱亂後ニ於テハ水師遊擊ヲ鎮スルニ至リシハ、又タ拓
殖北漸ノ勢ニ依レルナリ、

武員交代
ノ例ヲ改ム

乾隆五十一年將校武員交代ノ例ヲ改ム、
是ヨリ先キ總兵(鎮臺將)ヨリ都守(少佐)ニ至ル、皆三年ニシテ期滿チ交代セシカ、
此ニ至リ此例ヲ止メ總兵ハ歷俸五年ニシテ陸見上京天子ヲ拜スヲ奏請シ副將

(少將)參將(大佐)遊擊(中佐)都司(少佐)俱ニ歷俸五年ニシテ内地ニ陞補ス、千總把總ハ仍ホ舊規ノ如ク、三年ニシテ更代シ内地ヨリノ往復去來ノ兵ヲ統率セシメタリ、

林爽文ノ亂

同年十一月、彰化ノ民林爽文亂ヲ謀リ全臺擾動ス、

天地會

爽文ハ漳州平和ノモノナリ、臺灣ニ移住シ少ニシテ縣捕トナリ、尋テ官ヲ棄テ、去リ、匪徒ト潛行シテ大里杙ヲ抄掠セリ、此地彰化縣城ヲ去ル里餘ニ過ギス、殆ント盜賊ノ藪トナリシモ吏措テ問ハス、是レヨリ先キ閩廣間ノ奸徒黨ヲ結ビ天地會ト號スルモノ四十有八年ナリ、漳州ノ人嚴烟海ヲ渡リテ爽文ニ會シ、又タ此會ヲ組織ス、劉升陳伴王芬及ヒ淡水ノ王作林小文諸羅ノ揚光勳黃鐘張烈葉省蔡福鳳山ノ莊大田莊大悲等、等シク入會ス、後チ光勳ハ別ニ一派ヲ立テ雷公會ト稱セリ、是年七月ニ至リ臺灣道永福知府孫景燧ハ之ヲ探知シ、密ニ文武員ニ飭令シテ嚴緝セシメシニ、石榴班汛ノ把總陳和ハ黃鐘ヲ獲諸羅臺防同治啓挺ハ楊文麟及其子狗ヲ獲タリシカ、狗ハ吏ニ賄賂ヲ納レテ身ヲ免レ陳和ヲ殺サンコトヲ計レリ此時陳和ハ張烈ヲ獲テ夜ル斗六門ニ宿

雷公會

彰化城陷

セシカ、狗潛ニ其徒黨ト共ニ之ヲ襲テ烈ヲ奪ヒ去リ且ツ和ヲ殺スニ至レリ、於是永福ハ總兵柴大紀ト兵ヲ率ヒテ馳セテ諸羅ニ赴ムキ、數十名ヲ擒シテ姓名録ヲ搜出シ、次テ光勳十八人等ヲ審鞠シ、之レヲ市ニ斬リシモ根株未ダ拔ケス、烈等ノ餘黨ハ遂ニ鼠レテ大里杙ニ入り嘯聚セリ、是月初旬大紀ハ彰化ヲ巡視セシカ、北路理蕃同知ハ大紀ニ乞フニ彰化ニ駐屯シテ彈壓センコトヲ乞ヒタリシカ、大紀ハ獨リ中軍遊擊耿世文ヲ留メテ兵三百ヲ領シ、景燧ト同シク彰化ニ赴カシメタリ、景燧至リ新縣令俞峻副將赫昇額ヲ促シ、世文ト兵ヲ率ヒ往ヒテ大墩ニ屯シ、民ニ諭シテ賊ヲ捕ヘシメ且ツ村邑ヲ焚テ以テ威示セシニ、賊却テ之ヲ利用シ土民ヲ煽動セシカバ、衆民多ク之ニ從ヒ茄老山ニ會シ林氏ノ族主爽文ヲ推シテ其首タルヲ求メシカ、爽文初メ應セス、乃チ劉升ヲ推シテ首トナシ、大墩ノ營ヲ襲ヒ之レヲ陷レ、昇額以下數百人ヲ殺シ、次テ彰化縣ヲ襲フ、景燧長康等蕃人ヲ糾合シ、都司以下八十人ト固守セシカ、城遂ニ陷リ、諸官皆ナ之ニ死ス、

是ニ於テ淡水同知臺灣知縣ハ竹塹守備ト共ニ馳セテ中港ニ赴ムキ、其北來

竹塹陷落

賊勢ヲ拒キシカ、賊黨山嶺ヲ迂廻シ貓孟莊ノ李同、猫裏社ノ黃阿、何添ヲ糾結シ、直ニ新庄ニ迫ル、過クル所附隨スルモノ甚ハダ多シ、同知程峻彰化ノ陷レルヲ聞キテ退テ塹城ヲ守ル賊至リ城陷ル、峻等以下巡檢、悉ク之ニ死ス、

淡水地方陷落

是ニ於テ賊衆共ニ林爽文ヲシ推テ盟主トナシ、順天ト號ス、彰化縣署ヲ以テ盟主府トナシ、胥吏劉懷清ヲ彰化知縣トナシ、劉士賢ヲ北路海防廳征北大元帥トナシ、王芬ヲ平海大將軍トス、同時ニ賊黨林小文等亦タ新莊巡檢署ヲ毀テ遍ク旗旂ヲ豎テ、新莊、擺接、八芝蘭、滬尾、八里坌等ノ良民ヲ焚害ス、是ニ於テ滬尾都司ハ義民ヲ招募シ、十二月ニ至リ千總以下ヲ率ヒテ先ツ新莊ヲ搗キ、賊劉長芬ヲ獲タリ、又轉ンシテ八芝蘭ノ賊ヲ攻メ、賊遁レテ金包里ニ入ル、是夜林小文擺接ヨリ潛ニ艫舢ヲ襲ヒ來リシモ克タス、官軍却テ小文ヲ擺接ニ逆擊セシカハ賊衆四散セシカ其後又タ集マリ、險ニ據リテ固守シ、都司之ヲ攻メテ寧日ナク相持シテ下ラズ、是レヨリ先キ賊王作等林小文ト共ニ塹城ヲ陷レ、淡水倉庫ヲ劫奪シ小文ハ去

リテ淡水北ヲ唱ヘ、王作ハ留マリ廳ニ據リテ天運ト號シ、五千ノ衆ヲ以テ屯踞セシガ淡水同知ノ慕僚壽同春ハ、義民ヲ招集シ、討テ之ヲ破リ塹城ヲ回復セリ、

五十二年一月閩浙總督ハ水師提督黃任簡陸路提督任承恩ヲ派シ、水陸兵萬餘人ヲ率ヒテ並ビ進ンテ進剿ヲ計ラシム、承恩簡臺ニ來リ、觀望シテ進マズ、獨リ閩安協福將徐鼎士等ヲシテ兵ヲ領シ淡水ニ至ラシム、徐鼎士艫舢ニ屯シテ義民萬餘人ト共ニ之ヲ守リ、良民ヲ按撫シ賊徒ヲ攻捕ス、賊塹南ノ逆徒ト通ジ其數萬餘人、數々甘林陂ニ聚マル、三月賊三角湧ヲ攻ム、義民之ヲ拒グ遊擊吳琇之ヲ救フテ賊ヲ甘林陂ニ追フ、十七日賊三重埔、錫口署ヲ焚燼ス、都司易討テ之ヲ退ク、二十五日賊艫舢、和尚州、三角湧、錫口等ヲ分チ擊ツ徐鼎士、諸將ヲシテ路ヲ分チテ追擊セシメ、遂ニ其巢窟ナル甘林坡、白石湖ニ究追シテ四面合擊ス、賊高キニ據リテ矢石ヲ降ス雨ノ如ク、琇等之ヲ拔ク不能ハズ、山麓ニ久屯ノ計ヲ爲セシガ、同知徐夢麟之ヲ招安シ、於是先後來降シ林小文ヲ獲テ之ヲ斬ル

時ニ大甲溪賊巢ト接ス、淡水同知ノ幕賓壽同春提督任承恩ニ謁シテ合圍ヲ計ル、承恩辭スルニ兵少キヲ以テス、是ニ於テ白石湖等又々亂レ、所在涼泉粵人等類ヲ別チ互ニ相鬪フ、同春行ヒテ之ヲ撫ス、六月同知徐夢麟兵ヲ進メテ大甲ニ屯ス、大甲溪ハ兩山相對シ、南漳北溪中ニ一溪ヲ隔チ、牛馬頭、葫蘆墩、紅州頭ニ迫近シ大甲溪ト唇齒相連ル、時ニ溪南皆ナ賊ナリ、夢麟等守備義民蕃丁等ト營ヲ溪口ニ結ビ、大小屯二百ヲ鑄造シテ以テ賊ヲ攻ム、賊潰走シテ去ル、於是溪北安靜ナルヲ得タリ、十月副將徐鼎士同知徐夢麟六路兵ヲ分チテ賊ヲ攻メ之ニ勝ツ、既ニシテ壽同春ハ三十張犁ニ於テ賊ノ爲メニ虜ニセラレテ之ニ死シ、又溪北義民ノ出テ、大甲溪口ヲ守ルモノ日久クシテ歸ルヲ計リ軍氣沮喪セントス、夢麟乃チ廣東總鎮李ト議シ一戰シテ以テ軍氣ヲ振作セントシ道ヲ分チテ進攻シ大ニ賊ヲ破ル、

此月二十九日大學士福康安將軍海蘭察巴圖魯侍衛章京百餘人滿洲騎士並ニ四川ノ屯練兵二千廣西兵三千湖南兵二千貴州兵二千ヲ率ヒ、鹿港ニ至ル、蓋シ

大學士福康安
率兵一萬陸
寇一萬陸

是レヨリ先キ、閩浙總督ハ水師提督黃任簡、陸路提督任承恩ヲ派シ、水陸並ビ進ンテ賊ヲ討セシメシモ、南北ニ觀望シテ進マズ、僅カニ副將徐鼎士ノ進剿セルト徐夢麟、壽同春ノ慷慨賊ヲ討ズルトニヨリ、漸ク溪北ノ安寧ヲ得タルモ、賊ハ出沒常ナク、且ツ南路ニ至リテハ、諸羅已ニ陷リ、鳳山又々守ヲ失シ、賊勢猖獗ニシテ將ニ郡城ニ迫ラントス、乃チ李侍光ヲ派シテ兵站事務ヲ總督シ、常青ヲシテ、黃任簡ニ代ハリ、藍元枚ヲシテ任承恩ニ代リ勦賊ノ事ニ任セシム、常青至リ、屢々賊鋒ヲ挫キ、郡城今ノ臺南以テ安寧ヲ得タルモ、進取ノ計ヲ爲ス能ハズ、是ニ於テ、福康安ハ水陸萬餘人ヲ率ヒテ鹿港ニ上陸ス、賊之ヲ聞キテ忽四散シ、爽文遁レテ蕃社ニ入ル、康安命シテ四方ヨリ蕃社ヲ搜索セシム、通事黃彥ヲシテ蕃丁ヲ率ヒ阿里山ヲ防守セシメ、參贊恒端、總兵計ヲシテ、小半天ニ駐セシメ、總兵普ヲシテ、科仔坑口ニ屯シ、且ツ内木柵ヲ監視セシメ、將軍鄂輝等ヲシテ、大半天ニ駐シ、副將格細額ヲ清水溝ニ屯シ、福康安及ビ海蘭察、自ラ東埔蟻ニ駐シ仍龜仔頭ヨリ山ニ入りテ搜索シ、參贊張奉延ヲシテ涼水莊ヲ守ラシメ、參贊舒ヲ龜仔頭ニ駐シ、參

將琢麗阿ヲ集々埔ニ駐シ、遊擊葉有光ヲ盧厓莊ニ駐シ、吳琇大里材ヲ分防シ、潘國林東大墩ヲ守リ、敏祿軍工蔡ヲ防ギ、徐鼎士沙里巴來ヲ防ギ、遊擊裝龍黎頭店ヲ防ギ、徐夢麟三貂ヨリ內山ニ至リテ生蕃ヲ帥ヒテ蛤仔難ヲ橫截シ、知府楊廷理各路ノ糧餉運搬ヲ都督シ、十二月、蕃社、蔴薯社ヲ進搜シ、二十七日、獅子頭山ニ至リ、打鐵社、蝦骨社、合歡社ニ入り、炭窟ヲ搜索ス、爽文免ザルヲ知り、知人高振ノ家ニ投シテ曰ク、吾レ爾ヲシテ富貴ナラシメント振依テ之ヲ縛シテ獻ズ、遂ニ爽文及其弟林躍等ノ賊首ヲ獲テ北京ニ檻送シ北路平ラゲ、

林爽文ノ亂ハ朱一貴ノ亂ニ次グノ大亂ニシテ、之ヲ平ラグル爲ニ海陸五萬以上ノ兵ヲ動カシ、別ニ義民ヲ招集シタルヲ數萬ニシテ三年ノ久シキ以テ漸ク平ラグルヲ得タリ、此間ノ消息ハ當時ノ實際ヲ見ルニ足ル者アリ、

其原因トシテハ文武官吏ガ貪橫收歛ノ弊ニ激シテ其亂ヲ成シ、文恬武嬉ノ風ノ助シテ其勢ヲ長セシモノニ外ナラズ、乾隆帝御製平定治臺灣文廟ノ碑文ニ曰フ我提封ハ一年ニシテ三熟シ、蔗薯收豐ニシテ漸ク、校ヲ興シ頗ル生童ヲ

林亂原因

ム、始メノ畏途ニシテ今ノ樂土ナリ、大吏之ヲ忽セニシテ其貪放ヲ恣ニシ、既ニ其文ニ嬉ミテ復其武ヲ恬ニシ、昔ノ民ハ今ノ匪トナリ反亂屬々見ハル、向キノ辛丑ノ年、昨ノ兩午ノ歲、一貴爽文ハ其亂最トス、水陸提督兵ヲ外ニ發スルモ相觀望シテ賊勢益張大ナルヲ何如セン云々ト、彰化縣志之ニ加註シテ曰ク、臺灣ハ遠ク重洋ヲ隔テ、風濤冒シ難キカ故ニ、其初メ陞調ノ文武官ハ皆以テ畏途トナシテ行クヲ難ハカリシモ、既ニシテ任ニ就キテ物産ノ豐饒ニシテ頗ル厚利ヲ獲ルヲ以テ又涉險ヲ以テ意トナサズ、轉シテ且ツ樂土ト爲セリト、更ニ福康安ノ奏文ヲ見ルニ詳ニ其弊ヲ陳ベテ云フ、文職道臺ヨリ以テ應縣ノ差役ニ至ル、武職總兵ヨリ守備把總ニ至ル、皆口岸ノ出入船舶ヲ巡查シ、例定公收ノ外禁索ノ陋規ハ毎年千ニ盈チ萬ヲ累チ、而ノ督撫又々之ニ委任シテ詳ニ察セス、是ニ於テ益忌憚ナク文武官ハ公ヲ捨テ私ヲナシ、文臣饒ヲ愛シ武臣死ヲ畏レ、相率ヒテ恬嬉ニ習ヒ、文員ハ祇其慾ヲ滿タスヲ知リテ復々撫民ノ心ナク、武員ハ兵ヲ縱チ營ヲ離レテ惟宴安ヲ是レ事トス、當時衙門ノ人ヲ見ルニ總兵ヨリ以下各衙門ノ差役ハ多キハ三百人、少キハ數十人